THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES **KUMAMOTO UNIVERSITY/2011**

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 2011年度



THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2011

18

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 2011年度

2011年10月1日,埋蔵文化財調査室は熊本大学学内共同教育研究施設として改組され,埋蔵文化財調査センター Research Center for Buried Cultural Properties (以下「センター」という.)となった。前身である埋蔵文化財調査室(以下「調査室)という.)の17年に及ぶ活動成果の賜物である。

センターになって何が変わったのか. 調査室は学内の埋蔵文化財調査委員会のもとにおかれた実働組織であったが、センターはその内に全学組織の運営委員会をおく独立の組織である. これからは運営委員会との二人三脚が不可欠だ. 業務内容も変わった. 調査室では遺跡の発掘調査が主要業務であったが、今後はそれに加えて、遺物や遺跡の情報を活用し本学の教育研究に寄与することが期待される. スタッフの数はそのままなので職員の繁忙度は増すが、もとより調査成果の活用は調査室時代からその必要性を認識していた業務である. 昨年度計画していた熊本大学「地下の文化財」パンフレット(黒髪町遺跡群編)をさっそく完成させた. A3版表裏カラー刷りの美しい遺跡案内である. 大学関係者はもちろん、大学を訪れる高校生や一般の方々に、キャンパスの遺跡散歩の手引きとして活用していただこう.

2011年4月,調査室の活動を長年担ってこられた小畑弘己准教授が文学部教授として異動されたため、本年は有期雇用職員を投入して業務を遂行し、構内9地区において合計46箇所の調査を実施した(黒髪北地区9箇所、黒髪南地区9箇所、本荘北地区13箇所、同中地区7箇所、大江地区4箇所、宇留毛地区1箇所、京町地区3箇所).

本荘北地区の臨床医学教育研究センター整備事業に伴う発掘調査は成果が多かった. 隣接する9601調査地点と同様、明治から大正・昭和時代の約430の墓が検出され、添えられた遺品から当時の庶民の生活がよみがえった. 出土した遺体は約400体, これだけまとまった近現代人骨は貴重であるとして、土井ケ浜遺跡人類学ミュージアム(山口県下関市)の松下孝幸名誉館長ならびにスタッフの方々が調査に協力された. 人骨が人類学の資料として生かされることになったのは、大学の調査ならではのことであった. この成果は2012年度に報告される予定である.

今年も施設企画ユニットにはお世話になった。とくにセンター設立にご尽力くださった 谷口学長ほか役員各位、改組を支えてくださった経営企画本部、運営基盤管理部をはじめ とする事務局の方々にあつくお礼申し上げる。

> 2013年1月 埋蔵文化財調査センター長 文学部教授 木 下 尚 子

例 言

- 1. 本掛は熊本大学構内において,2011年4月1日から2012年3月末日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査センターの活動内容に関する年次報告掛である。ただし1121調査地点については2012年6月4日まで,1145調査地点については2012年8月23日までの内容を掲載した。
- 2. 構内遺跡の調査は、昨年度に引き続き、年次と調査順を表す調査 番号で表すこととし、出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している。
- 3. 遺跡略号は、地区ごとにローマ字3文字で以下のように表記した、 黒髪町遺跡黒髪南地区 (KKS)、同北地区 (KKN)、本庄遺跡医学 部構内 (HJM)、同病院構内 (HJH)、医学部保健学科構内 (KHJ)、 京町台遺跡教育学部附属小中学校構内 (KMS)、大江遺跡群薬学部 構内 (HJP)、
- 4. 調査地点配置図および遺構図の座標は、世界測地系による.
- 5. 遺物への注記は、遺跡略号+調査番号+出土遺構(位置)の順で行った。
- 6. 本事に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している.
- 7. 本書の執筆は、付篇および抄録を村田が、 I 章および英文サマリー・ハングルサマリーを大坪・田中聡一が、 II 章を大坪・石丸・中田裕樹・嘉村哲也が行った。
- 8. 本掛の編集は大坪が行った.

目 次

<本文目次>	9. (黒髪南) 理学部3号館スロープ取設工事に
第1章 本年度の調査概要――――― 1	伴う立会調査 (1137)
第Ⅱ章 調査の記録7	Ⅱ-3 本荘北地区 68
Ⅱ-1 黒髪北地区7	1. (本荘北) 臨床医学教育研究センター (仮称)
1. (黒髪北) 障害者雇用施設改修工事に伴う立	整備事業に伴う試掘・発掘調査 (1104) ―68
会調査 (1108) — 7	2. (医病) 中庭掘削工事に伴う立会調査 (1107)
2. (黑髮北) 障害者雇用施設改修機械設備工事	7(
に伴う立会調査 (1109) 7	3. (医病) 基幹·環境整備 (第6病棟等支障脈
3. (黒髪北) 五高記念館前樹木シロアリ被害支	線・配管替え)機械設備工事に伴う立会・発
柱緊急取替え工事に伴う立会調査 (1110)	掘調査 (1112) — 71
	4. (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障重
4. (黒髪南他) 自然科学研究科研究棟·理学部	線・配管替え)工事に伴う立会・発掘調査
研究棟前通路陥没等補修工事に伴う立会調査	(1113)——————————————————————————————————
(1111)—————————————————————————————————	5. (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障重
5. (黒髪北) ラグビー場横給水管補修工事に伴	線・配管替え)機械設備工事その2に伴う立
う立会調査(1115)――――11	会·発掘調査 (1114) —————73
6. (黑髮北) 文法学部講義棟便所増築等改修工	6. (医病) 基幹・環境整備(旧中央診療棟等と
事に伴う立会・発掘調査 (1116)12	りこわしに伴う支障樹木移植等)工事に伴う
7. (黒髪北) 北地区食堂屋外給水配管工事に伴	立会調査 (1119) — 74
う立会調査(1124)――――12	7. (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟北側平屋
8. (黒髪北) 北地区食堂・保健センター西側ガ	部とりこわし)工事に伴う立会調査(1120)
ス配管修理工事に伴う立会調査(1128)―13	
9. (黒髪北他) 施設名称サイン設置工事に伴う	8. (医病) 基幹・環境整備(血液照射管理室と
立会調査 (1139) ————————————————————————————————————	りこわし)工事に伴う立会調査(1122)
Ⅱ-2 黒髪南地区15	7 77
1. (黒髪南) 車庫給水引込管改修工事に伴う立	9. (医病) 基幹・環境整備 (中庭支障樹木撤去)
会調査(1101)	工事に伴う立会調査 (1123)
2. (黒髪南) 倒木抜根緊急工事に伴う立会調査	10. (医病) 設備管理棟ボイラー室ドレン配管他
(1103)———————————————————————————————————	改修工事に伴う立会調査(1127)――――78
3. (黑髮南) 埋藏文化財調查室排水管取設工事	11. (医病) 基幹・環境整備(旧中央診療棟とり
に伴う立会調査 (1105)17	こわし) 工事に伴う立会・発掘調査 (1129)
4. (黒髪南他) 自然科学研究科研究棟・理学部	
研究棟前通路陥没等補修工事に伴う立会調査	12. (医病) 基幹・環境整備 (渡り廊下 C とりこ
(1111)—————————————————————————————————	わし) 工事に伴う立会調査 (1132)
5. (黑髮南) 基幹·環境整備 (屋外排水設備等)	13. (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟とりこれ
工事に伴う立会・発掘調査 (1121)18	し) 工事に伴う立会・発掘調査 (1145) -85
	Ⅱ -4 本荘中地区 ————————————————————————————————————
に伴う立会調査 (1134)63	1. (本荘中) 医学部基礎研究棟 A 棟とりこわし
7. (黒髪南) 理学部圃場整備その他工事 (その2)	支障配管替工事に伴う立会調査 (1102)
に伴う立会調査 (1135) — 65	8 (Action of Month Heritage March 1 Action of the Section of the S
	2. (本荘中) 医学部基礎研究棟 (A棟) とりこわし
に伴う立会調査 (1136) ―――――66	工事に伴う立会調査・発掘調査(1106)9

	3.(本荘中)医学部基礎研究棟とりこわしに伴	-	16
	う中庭整備に伴う立会調査(1117)―――92	図 5	1121調査地点配置図(I区)(1/1000)———19
	4. (本荘中) 医学部基礎研究棟 (B・D 棟) とり こわし工事に伴う立会・発掘調査 (1130)	図6	1121調査地点配置図(Ⅱ Ⅲ IV IV VI区)(1/1000) 23
	——————————————————————————————————————	図7	
	5. (本荘中) 医学部旧ボイラー室改修機械設備		黒髪南地区(東部)における調査地点配置図
	工事に伴う立会調査 (1133) ————94		(1/2000) 64
	6. (本荘中) ガス供給施設取替に伴う立会調査 (1143)—————95		本荘北地区における調査地点配置図(1/2000)
	7. (本荘中) エイズ学研究センター, 生命資源	図10	本荘中・南地区における調査地点配置図
	研究・支援センター、動物資源開発研究施設		44.7 1
	新館 実験排水槽配管盛り替え工事に伴う立		(172000) 大江地区(薬学部)における調査地点配置図
	新聞 美級排水價配質監り皆え工事で 〒 7 立 会調査 (1144) — 97		人に地区(架子的)におりる両重地点配直区(1/2000)——————————————————————————————————
π =	5 大江地区(薬学部) ————————————————————————————————————		(172000) 京町地区における調査地点配置図(1/3000)
п — 5	1. (大江) 電柱支線撤去及び支柱新設に伴う立会	(2)12	
	調査 (1118) ——————————————————————————————————		103
	2. (大江北) 北門周辺環境整備(植栽・外灯) エ	く写真	日かへ
	事に伴う立会・発掘調査(1125) ————98	マラス 写真 1	ロハン カーポート基礎①作業風景(東より)――― 7
	3. (大江北) 北門周辺環境整備(道路等) 工事に	写真 2	カーポート基礎①掘削状況(南より)―― 7
	(1126) — 100 (1126) - 100	写真3	①地点作業風景(北より) — 7
		• • •	
	4. (大江) 薬草用植物園屋外掲示板設置工事に伴う立会調査 (1142)	写真 4	①地点掘削状況(北より)――――10
		写真 5	②地点掘削状況(北より)
п — б	宇宙毛地区 102	写真 6	③地点新設桝設置部掘削状況(南より)――10
	1. (宇留毛) 建物名表示看板設置に伴う立会調	写真7	追加1 ②地点掘削状況(西より) ―――10
	査 (1138) — 102	写真8	追加2 ②地点掘削状況(東より) ――――10
11 — 7	京町地区	写真 9	作業風景(南より)――――11
	1. (京町団地) 環境整備(法面保護)工事に伴	写真10	
	う立会調査 (1131) 102	写真11	黒髪北陥没箇所作業風景(現状)(北東より)
	2. (京町) 環境整備 (法面整備等) 工事に伴う		11
	立会調査 (1140) ————————————————————————————————————		黒髪北陥没箇所掘削状況(北より)―――11
	3. (京町) 環境整備(南側囲障) 工事に伴う立		作業風景(南より) — 12
	会調査(1141)104	写真14	
	107	写真15	
	nary ————————————————————————————————————	写真16	
		写真17	
報告	書抄録 112	写真18	
		写真19	北地区食堂南東地点掘削後(北より)―――13
<図 版	反目次>	写真20	保健センター西地点掘削後(西より)―――13
図 1	黒髪町遺跡・本圧遺跡の位置と周辺遺跡の分布図	写真21	
	(1/25000) 2	写真22	
図2	黒髪北地区西半における調査地点配置図(1/2000)	写真23	
	8	写真24	
図3	黒髪北地区東半における調査地点配置図(1/2000)	写真25	緑地帯掘削状況(北より)――――15
	9	写真26	道路横断部(南半)掘削状況(北より)――15
図 4	黒髪南地区における調査地点配置図(1/2000)	写真27	工学部2号館北西倒木撤去作業風景(西より)

		-15	写真70	⑤完掘状況 (北より) ————	-26
写真28	工学部2号館北西倒木掘り上げ状況(北より		写真71	遺構完掘状況(西より)――――	
• > \		-15	写真72	⑥中央部遺構面確認状況(北より)	
写真29	排水管掘削工事作業風景(南西より)――	-17	写真73	⑤接続部遺構掘削状況(北より)―――	
写真30	桝設置部掘り上げ状況(南東より)―――		写真74	Ⅱ区⑦掘削後(南より)―――	
写真31	既設桝への接続部掘り上げ状況(北西より)		写真75	Ⅱ区⑦掘削後(南より)―――	
		-17	写真76	Ⅱ区⑧北側半分掘削後(南より) ———	
写真32	黒髪南陥没箇所作業風景(西より)―――	-17	写真77	Ⅱ区⑧南側半分土坑検出面(南より)――	-27
写真33	黒髪南陥没箇所掘削状況(西より)―――	-18	写真78	Ⅱ区⑧土坑半裁状況(北より)――――	— 27
写真34	作業風景(南西より) ———	-18	写真79	Ⅱ区⑨中央部遺構面確認状況(南より)―	-27
写真35	掘削状況(北より)	-18	写真80	Ⅱ区⑩南側掘削後(北より)――――	-28
写真36	掘削状況(北より)	-18	写真81	Ⅱ区⑩全体掘削後(北より)	-28
写真37	掘削状況(北東より)――――	-19	写真82	Ⅱ区⑩北端溝掘削後(東より)――――	-28
写真38	作業風景 (北より)		写真83	南北管路掘削状況(南より) ————	-28
写真39	南半掘削状況(北より)――――		写真84	東西管路掘削状況(西より)――――	-28
写真40	掘削状況(南西より)――――	-20	写真85	東西管路掘削状況(西より) ————	-28
写真41	桝1掘削状況 (南より)――――	-20	写真86	南北管路掘削状況(北より)	-29
写真42	南北管路掘削状況(南より)――――	-20	写真87	遺構面確認状況(東より)	-29
写真43	掘削状況(遠景)(東より)	-20	写真88	作業風景 (西より)	-29
写真44	掘削状況(東より)―――	-20	写真89	掘削状況(西より)――――	-29
写真45	作業風景(南西より)	- 21	写真90	作業風景(南西より)	
写真46	掘削状況(北より)―――	– 21	写真91	北側桝掘削状況(北西より)	-29
写真47	作業風景(南より)	-21	写真92	北側桝管路掘削状況(南西より)	—30
写真48	掘削状況 (地山土検出状況) (東より)	-21	写真93	作業風景(南より)-	-30
写真49	桝部掘削状況(西より)――――	-21	写真94	包含層検出状況(西より)	-30
写真50	管路掘削状況(東より)―――――	-21	写真95	遺構完掘状況(西より)――――	— 30
写真51	東壁土層状況(西より)――――	-22	写真96	作業風景(北より)	3 1
写真52	東壁土層状況(西より)――――	-22	写真97	第3スパン掘削状況(南より)―――	— 31
写真53	作業風景(北より)	-22	写真98	包含層検出状況(掘削完了)(東より)――	— 31
写真54	管路掘削状況(南より)―――――	-22	写真99	作業風景(北西より)	 31
写真55	既設管接続部掘削状況(東より)――――	22	写真100	北側ピット掘削状況(南より)――――	3 1
写真56	Ⅱ①区掘削風景(南東より)――――	-22	写真101	南側ピット掘削状況(東より)――――	-3 1
写真57	Ⅱ①掘削後(南東より)――――	-24	写真102	作業風景 (第1スパン) (北より)	— 32
写真58	Ⅱ区②掘削風景(北東より)	24	写真103	作業風景 (第5スパン) (東南より)―――	-32
写真59	Ⅱ区②西隅土坑掘削後(東より)―――	-24	写真104	包含層検出状況(第1スパン)(東より)―	-32
写真60	Ⅱ区②掘削後(西より)――――	24	写真105	包含層検出状況(第2スパン)(西より)―	32
写真61	Ⅱ区③掘削風景(南東より)――――	 25	写真106	包含層検出状況(第1スパン)(東より)―	-32
写真62	Ⅱ区③西側土坑掘り上げ後(南より)――	25	写真107	包含層検出状況(第4スパン)(北より)―	33
写真63	Ⅱ区③東側土坑検出面(東より)―――	25	写真108		
写真64	Ⅱ区③遺構面検出状況(東より)――――	25	写真109		
写真65	Ⅱ区③甕棺出土状況(北より)――――	—25	写真110	完掘状況(南より)―――――	33
写真66	Ⅱ区③甕棺取り上げ後(北より)	25	写真111		
写真67	Ⅱ区④掘削状況(南西より)――――	—25	写真112		
写真68	Ⅱ区④包含層上面土坑検出面(南より)―	—26	写真113		
写真69	完捆状況(南より)――――	-26	写真114	遺構面検出状況(西より)――――	34

写真115	遺構面検出状況(西より)――――34	写真158	作業風景 (南より)
写真116	Ⅳ区④南側掘削風景(北より)―――34	写真159	包含層検出状況(南より)43
写真117	Ⅳ区④南側掘削後(南より)―――34	写真160	包含層検出状況 (南より)―――43
写真118	Ⅳ区④南側北寄り掘削後(西より)35	写真161	作業風景 (北より)44
写真119	Ⅳ区④南側南谷り掘削後(西より)35	写真162	第1スパン包含層検出状況(南より)―――44
写真120	作業風景 (西より)———35	写真163	第1スパン遺構完掘状況(南より)―――44
写真121	資料館前東西管路掘削状況 (西より)―――35	写真164	第4スパン掘削状況(北より)――――44
写真122	1号館北南北管路掘削状況(南より)――35	写真165	作業風景 (北より)44
写真123	作業風景 (東より)35	写真166	第2スパン遺構検出状況(西より) 4 5
写真124	遺構面掘削状況 (東より)36	写真167	第4スパン完掘状況(西より)――――45
写真125	東端ピット掘削状況 (北より)36	写真168	第5スパン完媚状況(南より)―――45
写真126	東端掘削状況 (東より)36	写真169	作業風景 (南より)45
写真127	西半掘削状況 (西より)36	写真170	道路横断部掘削状況(南より)――――45
写真128	作業風景 (東より)36	写真171	植え込み西側部掘削状況(北より)―――45
写真129	資料館東側遺構掘削状況 (南より)―――37	写真172	V区①掘削風景 (南東より)46
写真130	道路・事務局南緑地帯部遺構掘削状況(北より)	写真173	V区①掘削後(北西より)――――46
	37	写真174	作業風景 (南より)46
写真131	桝部ピット掘削状況 (西より)37	写真175	掘削状況 (南より)――――46
写真132	作業風景 (東より)37	写真176	作業風景 (南東より)46
写真133	工学部研究資料館南管路掘削状況(東より)	写真177	掘削状況 (東より)46
	3 7	写真178	桝部分作業風景 (西より)47
写真134	作業風景 (北より) 38	写真179	大桝東壁土層状況 (西より)――――47
写真135	第4スパン遺構確認状況 (南より)―――38	写真180	小桝部分完掘状況(西より)――――47
写真136	第6スパン遺構掘削状況 (西より)38	写真181	9号館東側雨水管路掘削状況(北より)――47
写真137	第7スパン遺構面確認状況(南より)―――38	写真182	作業風景 (北より)47
写真138	作業風景 (北東より)39	写真183	掘削状況 (西より)
写真139	①-1掘削状況(南より)39	写真184	調査風景 (北より)48
写真140	①-3掘削状況(北西より) ——39	写真185	包含層完掘状況(南より)――――48
写真141	作業風景 (東より)39	写真186	管路全体掘削状況(西より)――――48
写真142	掘削状況 (南より)39	写真187	雨水管路掘削状況(西より)――――48
写真143	掘削状況 (東より)39	写真188	桝部分掘削状況 (西より)―――48
写真144	作業風景 (南東より)40	写真189	調査区全景・北側桝部包含層検出状況(南より)
写真145	東西トレンチ東半掘削状況(西より)―――40		4 9
写真146	東西トレンチ西半掘削状況(東より)―――40	写真190	北側桝部分掘削状況(東より)―――49
写真147	第2スパン包含層検出状況(北西より)――41	写真191	作業風景 (東より)49
写真148	第10スパンピット完掘状況 (西より)―――41	写真192	掘削状況 (西より)―――――49
写真149	第11スパン包含層検出状況(北より)―――41	写真193	作業風景 (北東より)49
写真150	第2スパン包含層検出状況(南より)―――41	写真194	掘削状況 (東より)49
写真151	第3スパン遺構検出状況(西より)―――42	写真195	掘削状況 (北より)――
写真152	第4スパン遺構検出状況(南より)―――42	写真196	掘削状況 (南より)50
写真153	掘削状況 (南東より)―――――42	写真197	作業風景 (東より)50
写真154	遺構面検出状況(南より)――――42	写真198	掘削状況 (西より)―――50
写真155	第1スパン作業風景(西より)―――42	写真199	捆削状況 (北より)
写真156	第1スパン完掘状況(東より)―――43	写真200	作業風景 (北東より)50
写真157	第2スパン包含層検出状況(南より)―――43	写真201	掘削状況 (北より)――――52

写真202	畝検出状況(南より)―――	 52	写真247	作業風景 (東より)	-59
写真203	作業風景 (西より)	52	写真248	掘削状況 (東より)―――	-60
写真204	掘削状況 (南より)	 52	写真249	調査風景 (南より)	-60
写真205	掘削状況 (東より)―――	 52	写真250	掘削状況 (南より)	-60
写真206	調査風景 (西より)	 52	写真251	掘削状況 (北より)	6 0
写真207	掘削状況 (北より)	53	写真252	調査風景 (北西より)―――――	60
写真208	桝部分掘削状況 (南より)――――	— 53	写真253	南東部掘削状況(東より)――――	 61
写真209	管路部分掘削状況 (南より)―――――	 53	写真254	Ⅷ⑨ - ⑩間掘削状況(西より)────	6 1
写真210	掘削状況 (南より)	53	写真255	作業風景 (東より)	 61
写真211	掘削状況 (西より)―――――	 53	写真256	掘削状況 (西より)	 61
写真212	トレンチ1作業風景(北より)――――	 54	写真257	作業風景 (西より)	 61
写真213	トレンチ1掘削状況(北より)――――	 54	写真258	掘削状況 (西より)―――	-61
写真214	トレンチ2遠景 (南より)――――	54	写真259	作業状況 (東より)	-62
写真215	トレンチ2掘削状況(南より)――――	 54	写真260	掘削状況 (東より)	-6 2
写真216	共用棟黒髪3東側掘削状況(南より)――	 54	写真261	作業風景(南より)	-62
写真217	工学部研究棟 I 南西隅掘削状況 (西より)	 54	写真262	掘削状況 (北より)	
写真218	Ⅷ区③掘削状況(南東より)────	 55	写真263	東側ポンプ付近掘削状況(北より)―――	-6 2
写真219	VI区③掘削後(北西より)―――――	 55	写真264	調査センター前東側掘削状況 (西より)―	-63
写真220	VII区③掘削後(南西より)	 55	写真265	調査センター前西側掘削状況(東より)―	-6 3
写真221	Ⅷ区④掘削後(南東より)────	 55	写真266	掘削状況 (北より)	-63
写真222	Ⅷ区⑤掘削後(西より)────	 55	写真267	北側基礎撤去作業風景 (南東より)―――	6 3
写真223	Ⅷ区⑥掘削後(東より)────	 55	写真268	基礎北側掘削状況(北西より)――――	-6 3
写真224	W区⑦掘削風景 (南より)	 56	写真269	道止水工事掘削状況 (西より)――――	-6 4
写真225	Ⅷ区⑦掘削後(西より)────	 56	写真270	北西通路試掘状況 (北より)―――――	6 4
写真226	掘削状況 (南西より)――	 56	写真271	基礎掘削状況 (南より)――――	-6 4
写真227	作業風景 (南東より)――――	 56	写真272	畑地3住居址確認状況 (南西より)	6 5
写真228	掘削状況 (西より)	 56	写真273	畑地2漉き取り状況(北東より)――――	6 5
写真229	調査風景 (東より)	 56	写真274	畑地3漉き取り状況 (南西より)――――	65
写真230	南北掘削状況 (北より)――――	 57	写真275	石列撤去・掘削状況(西より)――――	65
写真231	東西掘削状況(東より)――――		写真276	縁石撤去・掘削状況 (東より)――――	66
写真232	調査風景 (西より)	 57	写真277	樹木①撤去作業風景 (南より)――――	 66
写真233	第2スパン地山検出状況(東より)―――	 57	写真278	側溝掘削1スパン掘削状況(南より)――	66
写真234	第3スパン地山検出状況(西より)―――	 57	写真279	桝①遺構検出状況(南より)―――	66
写真235	伽区①掘削風景(南より)――――	 57	写真280	溝掘削11スパン作業風景(南より)―――	66
写真236	Ⅷ区①掘削後(南より)────	 58	写真281	溝掘削11スパン掘削状況(南より)	 67
写真237	Ⅷ区①掘削後(西より)────	 58	写真282	作業風景 (南西より)	 67
写真238	Ⅲ区②東側掘削後(西より)────	58	写真283	スロープ本体トレンチ掘削状況(南より)	 67
写真239	Ⅷ区②掘削後(北西より)────	 58	写真284	排水管設置部掘削状況 (北東より)―――	67
写真240	Ⅷ区③掘削状況(南東より)───	 58	写真285	遺跡遠景 (南より)	68
写真241	Ⅷ区⑤掘削風景 (北より)───	— 58	写真286	ST-11子ども埋葬検出状況(南より)――	68
写真242	ﺳ区掘削後(南より)────	 59	写真287	ST132,144坐位埋葬検出状況(南より)―	-68
写真243	Ⅷ区⑥掘削後(西より)────	59	写真288	ST-287仰臥埋葬検出状況(西より) ――	-70
写真244	Ⅷ区⑦掘削後(北より)────	 59	写真289	ST149副葬品出土状況(南西より)―――	70
写真245	作業風景 (西より)	59	写真290	住居址2完掘後(南より)――――	 70
写真246	掘削状況 (西より)	 59	写真291	住居址3検出状況(北東より)――――	 70

写真292	調査区南東墓道部分遠景 (南より)――	70	写真335	地下環水槽東側掘削後(東より)―――79
写真293	作業風景 (北より)	 70	写真336	共同溝裏掘削後 (東より)79
写真294	掘削状況 (北より)	 71	写真337	I 区基礎外周北側掘削後(西より)―――80
写真295	総合研究棟・図書講義棟北側掘削状況(東	より) 71	写真338	I 区基礎外周東側南半部掘削後(北より) 80
写真296	総合研究棟東側掘削状況(北より)――	• -	写真339	I 区基礎外周南側東半部掘削後(西より)
写真297	遺構確認状況(北より)――――			 80
写真298	既設配線確認状況 (北より)――――	 72	写真340	I 区基礎外周東側北半部掘削後(南より)
写真299	調査区全景(北より)―――	7 2		80
写真300	管理棟南側ガス管部掘削状況 (東より)ー	 72	写真341	I 区基礎外周南側西半部掘削後(東より)
写真301	管理棟南側配管東端部遺構検出状況(東	より)		80
		7 2	写真342	I 区低木抜き取り状況(南東より)―――80
写真302	給水管切替既設管確認状況 (北より)――	 72	写真343	I 区門扉西側基礎抜き取り後 (北東より)―81
写真303	給水管切替掘削状況(東より)――――	 72	写真344	I 区基礎下確認状況(南東より)―――81
写真304	排水槽新設部掘削風景(北より)―――	 73	写真345	Ⅱ区掘削風景 (東より)81
写真305	溝状遺構掘り上げ状況(東より)―――	 73	写真346	Ⅱ区基礎間地山残存状況(北東より)81
写真306	1114①調査区全景(東より)———	 73	写真347	Ⅱ区基礎捨てコン上掘削後(南より)―――81
写真307	管理棟南ガス管掘削状況(東より)――	 73	写真348	Ⅱ区北側基礎外側地山検出状況(北より)―82
写真308	③地点作業風景 (北西より)――――	 74	写真349	Ⅲ区建物外周南側掘削後東寄り(西より)
写真309	③地点掘削状況 (北より)――――	 74		8 2
写真310	④地点作業風景 (東より)	 74	写真350	Ⅲ区樹木撤去後(南東より)82
写真311	④地点掘削状況 (南より)――――	 74	写真351	Ⅲ区建物外周北側掘削後(東より)82
写真312	移植先①作業風景 (東より)―――	 74	写真352	Ⅲ区建物底部検出面 (西より)———82
写真313	移植先①掘削状況(南より)――――	 75	写真353	Ⅳ区西側スパン掘削風景 (北東より)——83
写真314	移植先②掘削状況(東より)――――	 75	写真354	Ⅳ区南東隅および中央基礎間の地山確認面
写真315	移植元①作業風景 (南東より)――――	 75		(南より)———83
写真316	移植元①掘削状況(西より)――――	 75	写真355	Ⅳ区西側スパン中央部分掘削後 (南より)―83
写真317	移植先③掘削状況(西より)――――	 75	写真356	Ⅳ区北東隅から中央基礎間の南北掘削後
写真318	移植元③掘削状況(南より)――――	 75		(北より)――――83
写真319	移植元③掘削状況 (北より)――――	 76	写真357	Ⅳ区北側スパン完掘後(東より)―――83
写真320	樹木⑧撤去後 (北東より)―――	76	写真358	Ⅳ区建物外周南側スパンの西側掘削後
写真321	樹木⑨撤去後 (南東より)――――	 76		(南より)84
写真322	スロープ中央作業風景(東より)―――	 76	写真359	Ⅳ区建物外周北側掘削後(西より)―――84
写真323	スロープ南側掘削状況(東より)―――	 76	写真360	Ⅳ区建物外周北側スパンの東側掘削後
写真324	平屋脇スロープ北側掘削状況 (北より)-	 77		(南西より)———84
写真325	平屋内試掘作業風景 (南より)――――	 77	写真361	
写真326	平屋内試掘掘削状況 (南より)――――	7 7	写真362	不明基礎掘削後 (南より)85
写真327	作業風景 (北西より)	 77	写真363	廊下 C 掘削風景 (東より) —————85
写真328	建物西側試掘状況 (西より)――――	77	写真364	廊下 C 掘削後 (西より) — 85
写真329	作業風景 (北より)	 78	写真365	I 区掘削風景 (東より)86
写真330	抜根後状況(東より)――――		写真366	I 区建物北側外周掘削後 (西より)―――86
写真331	旧中央診療棟南樹木①撤去後 (北より)-		写真367	I 区建物内側中央部分掘削後(北より)――86
写真332	旧中央診療棟南樹木②撤去後 (南より)ー		写真368	I 区梁内部掘削後 (北より) 86
写真333	作業風景 (南東より)		写真369	□区掘削風景 (東より)87
写真334	土間北側掘削後(東より)	79	写真370	

写真371	Ⅱ区給気塔西側掘削後(北西より)―――87	写真409	③地点東側掘削後 (北西より)――――	 96
写真372	Ⅱ区発掘調査区完掘後(南より)―――87	写真410	④地点掘削後東側(東より)	 97
写真373	Ⅲ区配管・桝撤去東寄り掘削風景(西より)	写真411	④地点掘削後西側(西より)	 97
	87	写真412	作業風景 (東より)	97
写真374	Ⅲ区配管・桝撤去東端掘削後(南東より)	写真413	東側掘削後(東より)――――	 97
	88	写真414	西側掘削後 (東より)―――――	97
写真375	Ⅲ区配管・桝撤去西寄り掘削後 (東より)―88	写真415	作業風景 (東より)	98
写真376	Ⅲ区基礎撤去掘削後(西より)―――88	写真416	掘削状況(南より)―――――	98
写真377	作業風景(研究施設新館側)(東より) ――88	写真417	ソテツ移植先掘削風景(北西より)―――	—99
写真378	本館南側掘削状況 (西より)―――88	写真418	樹木移植先掘削後 (東より)――――	—99
写真379	道路横断部掘削状況(東より)――――90	写真419	外灯移設元掘削後(北より)――――	99
写真380	ソテツ①作業風景 (東より)―――90	写真420	シダレザクラ新植地点掘削後(北より)—	—99
写真381	ソテツ①撤去状況 (東より)――――90	写真421	外灯移設先作業風景 (北西より)―――	- 100
写真382	小樹③撤去状況 (西より)――――90	写真422	外灯移設先 溝完掘後(南より) ――――	100
写真383	A 棟基礎南側5~9スパン掘り上げ状況	写真423	樹木新植地点掘削後 (北西より)―――	100
	(東より)――――91	写真424	集水桝新設地点掘削後 (西より)―――	- 100
写真384	南側東から9・10スパン目ピット掘り上げ	写真425	側溝新設地点削後 (西より)――――	- 100
	(南より)91	写真426	西側集水桝新設掘削後(南東より)―――	- 101
写真385	建物外周部北側7スパン目(南より)―――91	写真427	外灯配線地点掘削後 (東より)――――	- 101
写真386	20スパン北側溝硬化面除去後(南西より)―91	写真428	掲示板設置箇所掘削風景(東より)―――	- 101
写真387	20スパン北側発掘風景 (北より)―――91	写真429	掲示板設置箇所掘削後(東より)―――	- 101
写真388	A棟南東隅 U 字溝掘削後(西より) ―――92	写真430	作業風景 (南より)	102
写真389	ケヤキ1掘削風景(南東より) ――――92	写真431	掘削状況 (南より)――――	· 102
写真390	ケヤキ1撤去後 (北西より)――――92	写真432	掘削風景 (北より)	- 102
写真391	車庫土間撤去風景(南西より)―――92	写真433	東端集水桝掘削後(北西より)	102
写真392	アスファルト撤去後 (西より)―――93	写真434	中央部 U 字溝掘削後(東より) ――――	- 103
写真393	B 棟東から3スパン目南側掘削後(北より)	写真435	新設フェンス最北箇所掘削風景(南より)	ı
	9 3			- 104
写真394	B 棟北壁外側西から3スパン目掘削後	写真436	最北箇所鋼管部分掘削状況(南西より)	
	(南西より)94			- 104
写真395	B棟北西部伐根風景 (西より)――――94	写真437	北から4番目基礎部分掘削後(西より)	
写真396	D 棟掘削風景 (南西より)94			104
写真397	D 棟東側北から3スパン目掘削後(西より)	写真438	北から4番目鋼管部分掘削後(南西より)	
	94			104
写真398	D棟1号溝完掘後(西より)―――94	写真439	囲障東側地点掘削風景 (西より)―――	- 105
写真399	タンク掘削風景 (東より)――――95	写真440	囲障東側地点掘削後(北東より)――――	- 105
写真400	タンク西側側面掘削後(南より)―――95	写真441	中地点掘削後 (西より)――――	
写真401	給水管引き込み南側掘削後(西より)―――95	写真442	西側地点掘削後(北より)――――	- 105
写真402	給水管引き込み掘削後(南より)―――95			
写真403	給水管引き込み北側掘削後 (南より)―――95			
写真404	排水管付け替え掘削後 (南より)―――95			
写真405	①地点西側掘削後(南より)――――96	く表目次	:>	
写真406	①地点南側延長部掘削後(東より)―――96	-	本大学攽地埋蔵文化財包蔵地指定一覧——	
写真407	③地点掘削風景 (北東より)―――――96	表 2 20)11年度調査一覧——————	— 3
写真408	③地点南側掘削後 (南西より)――――96			

第 I 章 本年度の調査概要

本年度は、表2のとおり、発掘調査10件、立会調査45 件を実施した。また、熊本市文化振興課による試掘調査 が1件実施された。

本年度実施した主な発掘調査は、本荘北地区における 臨床医学教育研究センター整備事業に伴う調査 (1104調 査地点)、第6病棟とりこわしに関わる各種工事に伴う 調査 (1112・1113・1114調査地点)、中央診療棟とりこ わしに伴う調査 (1129調査地点)、本荘中地区の医学部 基礎研究棟 (A・B・D棟) とりこわし工事に伴う調査 (1106・1130調査地点)、黒髪北地区の文法学部講義棟便 所増築等改修工事に伴う調査 (1116調査地点)、黒髪南 地区基幹・環境整備工事に伴う調査 (1121調査地点)で ある。臨床医学教育研究センター整備事業に伴う調査以 外は、立会調査から切替えた調査である。

臨床医学教育研究センター整備事業に伴う調査は、隣接する9601調査地点の成果から、多数の近現代の埋葬人骨の検出が予想された。古代の遺構はこれら近現代の墓壙による破壊のため、遺存率は非常に低いと思われたが試掘により包含層を確認できたため、調査を実施することとなった。当初、調査対象は古代の遺構・遺物とし、

近現代の墓壙・人骨については専門業者による撤去・処 理等を検討したが、人骨を形質人類学の資料として活か す方針を採った. 土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム・松 下孝幸氏(同館名誉館長)に人骨の鑑定依頼と寄贈を申 し出、快諾を得た、人骨の取り上げについても実施して いただき、多大な協力を頂いた、調査の結果、約430基 の近現代墓から約400体の人骨が検出された。墓壙から は副葬品として、さまざまな故人の愛用品が出土した. 隣接する9601調査地点では徳利と猪口,煙管,六道銭, 数珠、焼き物などがあったが、1104調査地点はこれらに 加え着物やレコード、玩具類など種類が増えた、これら は調査対象外とされやすい時期の生活雑貨ではあるが、 当時の世相や生活を直接われわれに伝える遺物である. これらの墓壙の隙間に、古代の住居址が数基残されてい た. 本荘北地区北側における遺跡の分布は、敷地いっぱ いに及ぶことが確認されたと言えよう。1112・1113・ 1114・1129調査地点における調査成果は、本荘北地区の 遺構密度の高さおよび遺存状態の良さを示し、工事規 模によらない文化財への注意喚起を促すものである. 本荘北・南地区での建物解体に伴う調査は、既存の建

表1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧(アミ部分は本年度調査した地区を示す)

No.	地区名(学部名)	所 在 地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区 (法・文・教・大教センター) 黒髪東地区 (教育学部附属特別支援学校)	熊本市中央区黒髪2丁目40-1 熊本市中央区黒髪5丁目17-1	黑髮町遺跡群	集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安	
2	黒髪南地区 (工・理)	熊本市中央区黒髪2丁目39-1	黑髮町遺跡群	集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安	
3	京町地区(教育学部附属小・中学校)	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区 (教育学部附属幼稚園)	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址,熊本城関 連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市東区新南部6丁目5-8	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	沿岸域環境科学教育研究センター	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査に よって貝塚でない ことが判明
7	本荘中地区(発生医学研究所、エイズ学研究センター等)	熊本市中央区本荘2丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 中世	
8	本荘北地区 (医学部附属病院・医学 部等)	熊本市中央区本荘1丁目1-1	本庄遺跡 (熊大病院敷 地遺跡)	散布地·集落址。 墓地	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・近代	
9	本莊南地区 (保健学科等)	熊本市中央区九品寺4丁目 24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 中世	周辺遺跡
10	大江地区 (薬学部等)	熊本市大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	渡鹿地区 (課外活動施設)	熊本市渡鹿4丁目1-1	大江遺跡	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区(学生寄宿舎・職員宿舎等)	熊本市中央区黑髮7丁目	宇留毛神社周 辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・ 平安	

図1 黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図(1/25000)

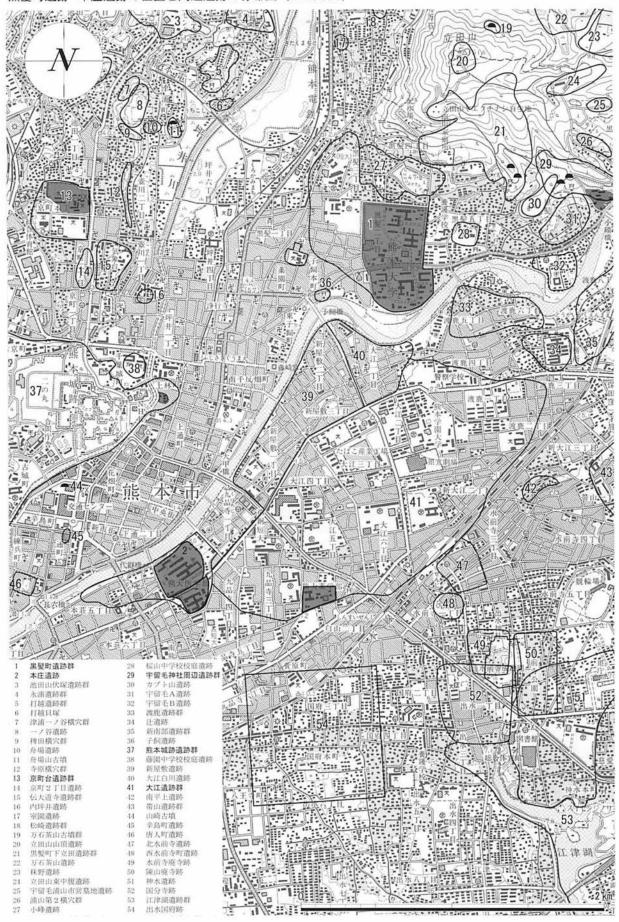


表2 2011年度調査一覧

表2 2011年	度調査一覧 調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
11 · 4 · 18	1101	(黑髮南) 車庫給水引込管改修工事	立会調査	12m²	1010	遺構・遺物なし
4 • 19	3 17/70/6	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		3511		All All A
11 · 5 · 30	1102	(本荘中) 医学部基礎研究棟 A 棟とり こわし支障配管替工事	立会調査	62m² (8.2m²)		遺構・遺物なし
11 · 6 · 17	1103	(黑髮南) 倒木抜根緊急工事	立会調査	6.6m²		遺構・遺物なし
$11 \cdot 4 \cdot 6$ $11 \cdot 6 \cdot 21 \sim$ $11 \cdot 9 \cdot 22$	1104	(本荘北) 臨床医学教育研究センター (仮称) 整備事業	立会調查/発掘調查	試掘31.2㎡ 発掘503.9㎡	古代・近代	住居址・墓壙・ピット 土師器・須恵器・人骨・ 銭貨・泥面子・甕棺
11 • 6 • 22	1105	(黑髮南) 埋藏文化財調查室排水管取 設工事	立会調査	3.5 m²		遺構・遺物なし
$\begin{array}{c} 11 \cdot 6 \cdot 24 \\ 11 \cdot 10 \cdot 17 \sim 19 \\ 11 \cdot 11 \cdot 1 \\ 11 \cdot 11 \cdot 4 \\ 11 \cdot 11 \cdot$	1106	(本莊中) 医学部基礎研究棟 (A 棟) とりこわし工事	立会調査/発掘調査	1556.04 m	古墳·古代· 近世	溝・ピット 土師器片・須恵器
11 · 7 · 5	1107	(医病) 中庭掘削工事	立会調査	8.9ml		遺構・遺物なし
11 • 7 • 11	1108	(黑髮北) 障害者雇用施設改修工事	立会調査	71.3m² (3m²)		遺構・遺物なし
11 · 7 · 11 11 · 8 · 1 11 · 8 · 5	1109	(黑髮北) 障害者雇用施設改修機械設備工事	立会調査	50.7 m²		遺構・遺物なし
$11 \cdot 7 \cdot 26$	1110	(黒髪北) 五高記念館前樹木シロアリ 被害支柱緊急取替え工事	立会調査	3.53ml		遺構・遺物なし
11 · 8 · 18	1111	(黑髮南他) 自然科学研究科研究棟, 理学部研究棟前通路陥没等補修工事	立会調查	0.46 m² 15.2 m²		遺構・遺物なし
$\begin{array}{c} 11 \cdot 9 \cdot 21 {\sim} 22 \\ 11 \cdot 9 \cdot 26 {\sim} 29 \\ 11 \cdot 10 \cdot 4 \\ 11 \cdot 10 \cdot 11 \\ 11 \cdot 10 \cdot 26 {\sim} 28 \\ 11 \cdot 10 \cdot 31 \end{array}$	1112	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支 隊配線・配管替え) 機械設備工事	立会調査/発掘調査	500 m²	古墳·古代· 近世	竪穴住居址・溝状遺構・ ビット 土師器・須恵器
11 · 9 · 21	1113	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支 隆配線・配管替え) 工事	立会調查/ 発掘調查	264.83m		1112調査地点と同様
$\begin{array}{c} 11 \cdot 10 \cdot 11 {\sim} 13 \\ 11 \cdot 10 \cdot 17 \\ 11 \cdot 10 \cdot 18 \\ 11 \cdot 11 \cdot 1 \\ 11 \cdot 11 \cdot 11 \end{array}$	1114	(医病) 基幹・環境整備(第6病棟等支 陰配線・配管替え) 機械設備工事その2	立会調査/ 発掘調査	184.81 m	古代・近世	住居址?・溝・ピット 遺物なし
11 • 9 • 20	1115	(黒髪北) ラグビー場横給水管補修工事	立会調查	2,3mf		遺構・遺物なし
11 · 10 · 24~27	1116	(黑髮北) 文法学部講義棟便所增築等 改修工事	立会調査/ 発掘調査	20m²	升古	竪穴住居址?・ピット 古代土師器・須恵器
$\begin{array}{c} 11 \cdot 10 \cdot 24 {\sim} 25 \\ 11 \cdot 12 \cdot 12 \\ 12 \cdot 1 \cdot 27 \end{array}$	1117	(本荘中) 医学部基礎研究棟とりこわ しに伴う中庭整備	立会調査	491.7 m		遺構なし 土師器片

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
11 · 11 · 15	1118	(大江) 電柱支線撤去及び支柱新設	立会調査	$0.42\mathrm{m}^2$		遺構・遺物なし
$11 \cdot 11 \cdot 22$ $11 \cdot 12 \cdot 14$ $12 \cdot 1 \cdot 17 \sim 18$	1119	(医病) 基幹・環境整備 (旧中央診療棟 等とりこわしに伴う支障樹木移植等) 工事	立会調查	407 m²		遺構・遺物なし
11 · 11 · 24~25	1120	(医病) 基幹・環境整備 (第6病棟北側 平屋部とりこわし) 工事	立会調査	728ml		遺構・遺物なし
$11 \cdot 11 \cdot 28 \sim 12 \cdot 6 \cdot 4$	1121	(黒髪南) 基幹・環境整備 (屋外排水設備等) 工事	立会調査/	7748.6m²	縄文・弥生 中期・古代・ 中世期・近 現代期	住居址?・土坑・溝・溝状遺構・ピット・土 坑状遺構・畑址(畝) 悪棺・縄文土器片・土 師器片・須恵器片・円 礫・黒曜石チップ・黒 曜石片・礫塊石器(敵 石?)
11 • 12 • 5	1122	(医病) 基幹・環境整備(血液照射管 理室とりこわし)工事	立会調査	165.5 m²		遺構・遺物なし
$\begin{array}{c} 11 \cdot 12 \cdot 5 \\ 12 \cdot 2 \cdot 3 \end{array}$	1123	(医病) 基幹・環境整備 (中庭支障樹 木撤去) 工事	立会調査	21.6ml		遺構・遺物なし
11 • 12 • 9	1124	(黑髮北) 北地区食堂屋外給水配管工事	立会調査	1.54m²		遺構・遺物なし
11 · 12 · 19,20	1125	(大江北) 北門周辺環境整備(植栽・ 外灯)工事	立会調査/ 発掘調査	8.37ml	古代	溝 土師器片・敲石・瓦片
11 · 12 · 19	1126	(大江北) 北門周辺環境整備 (道路等) 工事	立会調査	4.77 ml		遺構・遺物なし
12 · 1 · 12	1127	(医病) 設備管理棟ボイラー室ドレン 配管他改修工事	立会調査	8.1 m²		遺構なし 土師器片
12 • 1 • 16	1128	(黒髪北) 北地区食堂・保健センター 西側ガス配管修理	立会調査	5.22ml		遺構・遺物なし
$\begin{array}{c} 12 \cdot 1 \cdot 17 \sim 18 \\ 12 \cdot 1 \cdot 20 \\ 12 \cdot 2 \cdot 3 \\ 12 \cdot 2 \cdot 6 \sim 7 \\ 12 \cdot 2 \cdot 16 \sim 17 \\ 12 \cdot 2 \cdot 20 \sim 21 \\ 12 \cdot 2 \cdot 27 \end{array}$	1129	(医病) 基幹・環境整備(旧中央診療棟とりこわし) 工事	立会調査/発掘調査	716.0㎡	古墳·古代	溝・土坑・ビット 古代土師器・須恵器・ 石製品
$\begin{array}{c} 11 \cdot 12 \cdot 9 \\ 11 \cdot 12 \cdot 13 \sim 14 \\ 12 \cdot 1 \cdot 24 \\ 12 \cdot 1 \cdot 26 \sim 27 \\ 12 \cdot 2 \cdot 8,15 \end{array}$	1130	(本荘中) 医学部基礎研究棟 (B・D 棟) とりこわし工事	立会調査/発掘調査	1169.6㎡	中世以降	溝・土坑・ビット 土師器片・動物骨
12 · 1 · 25	1131	(京町団地) 環境整備 (法面保護) 工事	立会調査	4.3m²		遺構・遺物なし
$12 \cdot 1 \cdot 31$ $12 \cdot 2 \cdot 1$ $12 \cdot 2 \cdot 6$	1132	(医病) 基幹・環境整備(渡り廊下C とりこわし) 工事	立会調査	14.6m²		遺構・遺物なし
12 · 2 · 8	1133	(本荘中) 医学部旧ポイラー室改修機 械設備工事	立会調査	46.5 m²		遺構・遺物なし
12 · 2 · 16~17 2 · 21	1134	(黒髪南) 理学部圃場整備その他工事 (その1)	立会調査	747 m²		住居址もしくは溝と思 われる遺構プラン 遺物なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
12 · 2 · 16	1135	(黒髪南) 理学部圃場整備その他工事 (その2)	立会調查	1 m² (1248 m²)		遺構・遺物なし
$12 \cdot 2 \cdot 16$ $12 \cdot 2 \cdot 20 \sim 21$	1136	(黒髪南) 理学部圃場整備その他工事 (その3)	立会調査	60.8mi		住居址か滞? 土師器片・須恵器片
12 · 2 · 20	1137	(黒髪南) 理学部3号館スローブ取設工事	立会調査	115.60m²		遺構・遺物なし
12 · 2 · 27	1138	(宇留毛) 建物名表示看板設置	立会調查	$0.49\mathrm{m}$		遺構・遺物なし
12 • 2 • 27	1139	(黒髪北他) 施設名称サイン設置工事	立会調査	$0.63\mathrm{m}^2$		遺構・遺物なし
12 · 2 · 28	1140	(京町) 環境整備(法面整備等) 工事	立会調査	$1.8 \mathrm{m}^2$		遺構・遺物なし
12 · 2 · 28	1141	(京町) 環境整備 (南側囲障) 工事	立会調查	2.0 m²		遺構・遺物なし
12 · 3 · 7	1142	(大江) 薬草用植物園屋外揭示板設置 工事	立会調查	1.6ml		遺構・遺物なし
12 · 3 · 12	1143	(本荘中) ガス供給施設取替	立会調査	24.8m²		遺構・遺物なし
12 · 3 · 14	1144	(本荘中) エイズ学研究センター、生 命資源研究・支援センター、動物資源 開発研究施設新館 実験排水槽配管盛 り替え工事	立会調查	7.5m²		遺構・遺物なし
12 · 3 · 36~27 12 · 4 · 2 12 · 4 · 4 12 · 8 · 21~23	1145	(医病) 基幹・環境整備(第6病棟とり こわし)工事	立会調査/	427.30mf	古代·中世 以降	溝・土坑・ビット 土師器片・飯の取手・ 須恵器片

物解体時も破壊を免れた遺跡の存在に注意を払う必要性 を実証した. 建物の構造 (地下室の有無など) にも左右 され、確認される遺構や面積は決して多くも大きくもな いが、空白を埋める手がかりとなるだろう.

黒髪北地区の1116調査地点は、これまで本調査が少なかった周辺の地形について、有力な情報を得ることが出来た、本調査地点の周辺では、掘削が深く及ぶことがなく、また建物に沿った工事のため建物建設時の掘り方に収まることが多かった。本調査地点では、地表下約1mで古代の遺物包含層が確認され、その厚さが0.6~0.7mと非常に状態も良好であった。2010年度の調査で、50mほど北の地点は遺物包含層が表土として露出しており、地山(遺構面)も浅いことが確認されており、法文学部の北側の校舎付近に段丘が存在すると想定していた。社会文化科学研究科研究室試掘地点の成果とともに、この想定を補強する結果である。

黒髪南地区では、敷地西半分を中心に埋設物(ガス・雨水管・汚水管)の敷設工事を広く実施した。このため、1121調査各地点での成果は広範囲において試掘を実施したに等しい。この中で、共用棟黒髪3北西部で、子供用と思われる小型の甕棺が検出されことは、新しい発見であった。本地点より北西に約130m、工学部研究棟Ⅱ-2

の建設時の9704調査地点において成人用・子供用の甕棺が確認されているが、西に隣接する共用棟黒髪1建設時の9601調査地点では確認されなかったほか、とくに東側に墓域が広がる様子はなかった、甕棺出土地点の周囲では、甕棺の破片など他の甕棺の存在を窺わせるようなものは出土せず、現時点では単独で埋設された状況であるが、今後注意が必要である。

このほか、南地区東部に位置する園地および敷地外の 園地では、本調査は実施しなかったが、遺構面と遺構を 確認し、今後の事業の参考になる成果を得た.

各地区における事業実施においては、既往の調査成果を参考として、スケジュール調整をしつつ対応した、本年の調査成果も、今後の事業実施に活用されるであろう。ただし、本学の敷地が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、本調査以外にもほとんどの掘削を伴う事業においては立会調査を必要とする。本年度、黒髪南地区での基幹・環境整備事業では、調査期間の関係上、多地点同時の調査が不可避となり、一部を業務委託する事態となった。関係部署には再度、本学の敷地が埋蔵文化財包蔵地であることに意識を向けた事業計画を希望するとともに、情報の共有等連携をとりながら本学の事業に寄与したい。

第Ⅱ章 調査の記録

Ⅱ-1 黒髪北地区

(図2·3参照)

1. (黒髪北) 障害者雇用施設改修工事に伴う立会 調査(1108)

<調査期間>

2011年7月11日

<調査面積>

71.3m (3m)

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

障害者雇用施設改修工事において、最も深く掘削する 樹木撤去とカーポート基礎の掘削について立ち会った。 樹木撤去では地表下0.5mまで掘削したが、埋土内であ り遺構・遺物の検出はなかった。カーボート基礎部は地 表下0.6mまで掘削した。包含層と思われる黒色土層の 上面までの掘削であり、埋土内に収まった。遺構・遺物 の検出はない。他の工事は、これらより掘削深度が浅い ため文化財に影響は無いと判断し、慎重に工事を進める

写真1 カーポート基礎①作業風景(東より)



写真2 カーポート基礎①掘削状況(南より)



よう指導した.

(黒髪北)障害者雇用施設改修機械設備工事に 伴う立会調査(1109)

<調査期間>

2011年7月11日 · 8月1日 · 5日

<調査面積>

 $50.7m^{2}$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

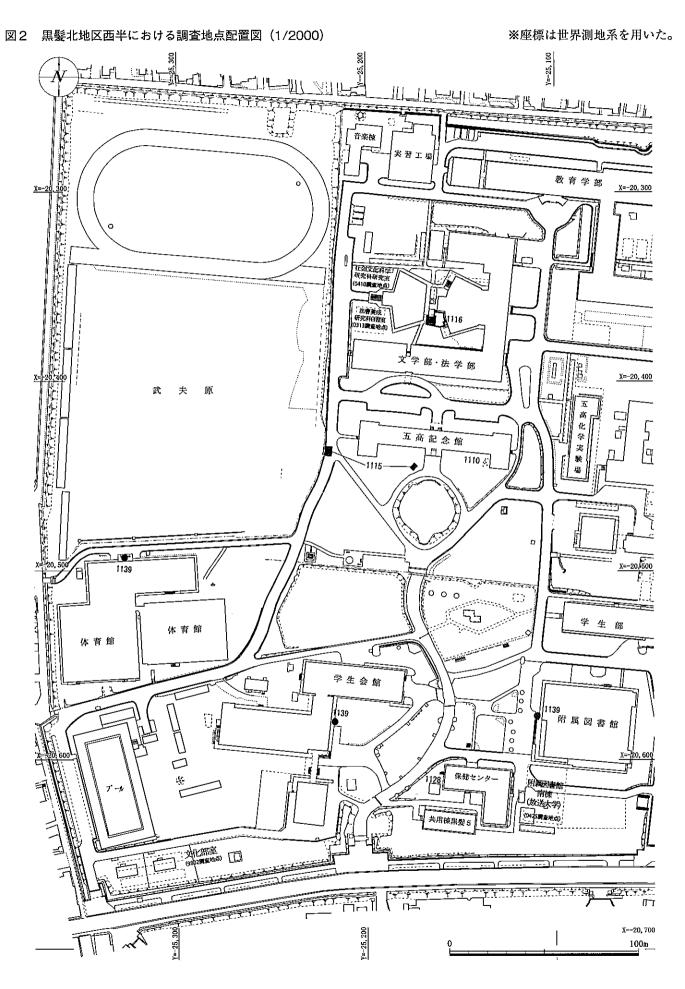
給水管・桝設置・ガス管切断工事に立ち会った。桝に ついては申請図に記号のみで具体的な記述がなかったた め、熊本市に連絡をいれ施工の許可の確認を取った。ま た、ガスの切断についても急遽許可を得て施工した。

給水管については、各所でトレンチを掘り深さと土層 の確認を行った。①地点では地表下0.5mまで掘削し、 水道管からの分岐が可能であることを確認した。遺構・ 遺物の検出はない。②地点では地表下0.6mまで掘削した。 ニガ土と包含層と思われる土がブロック状に混在した状態であった。この地点が下手になり最も深く、他は浅く なるため埋土内に収まると判断した。③地点の新設桝設 置部は4本の配管の下手になる箇所で最も深く、地表下 0.8mまで掘削した。撤去した既設桝の掘り方と他の攪乱により、埋土内であった。これより南に延びる配管部 は地表下0.6mでニガ土が検出されたが、以南の配管部 は上手となり掘削深度はこれより浅いため、慎重に掘削 するように指導した、遺構・遺物の検出はない。

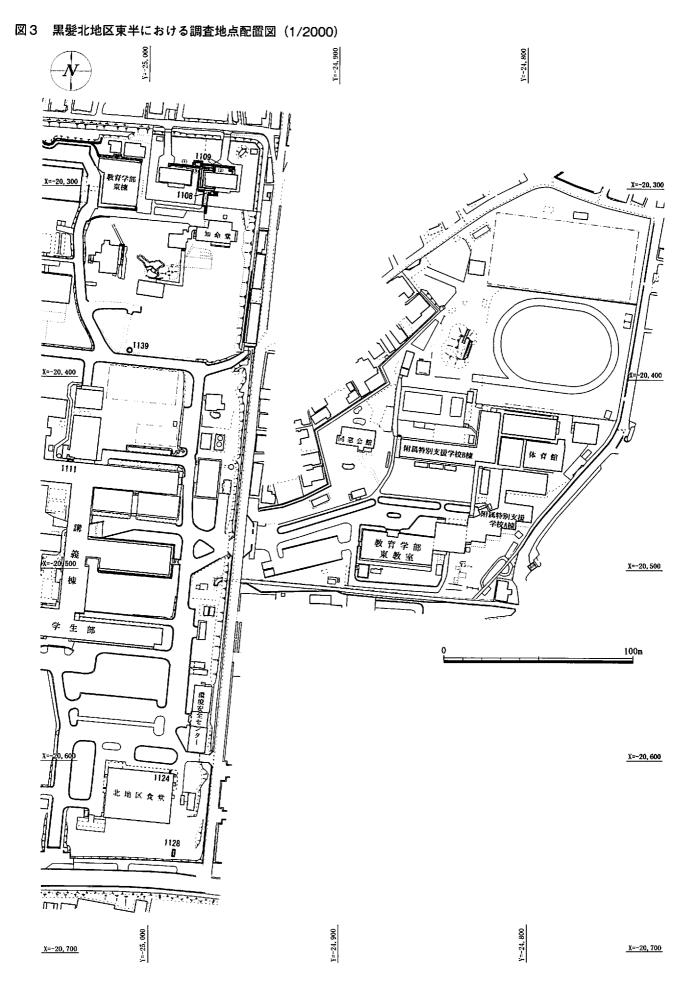
ガス管は、当初①地点で確認した水道管であった。南 側へ広げると別に2本の管が検出され、中央が水道管で

写真3 ①地点作業風景(北より)





第Ⅱ章 調査の記録



第11章 調査の記録

あった、深さはみな同じだったため、水道管の分岐作業 に影響はない、ガス管の切断に必要な範囲と深さを掘削 して土層を確認したが、文化財への影響はなかった。

写真4 ①地点掘削状況(北より)



写真5 ②地点掘削状況(北より)



写真6 ③地点新設桝設置部掘削状況(南より)



8月1日は排水管の追加工事を実施した. ①地点は既設管を撤去し新しいものと交換する工事である. 地表下 0.65mまで掘削したが埋土内である. 遺構・遺物の検出はない. ②地点は、ブロック塀を迂回して新たに給水管を通すものである. 地表下0.8~0.9mまで掘削したが.

遺構・遺物の検出はない. ニガ土と思われる土がブロック状に入っており. 地山まで削平を受けている可能性が高い.

写真7 追加1 ②地点掘削状況(西より)



8月5日、給水管の追加工事を行った。いずれの地点 もこれまでの工事の深さを超えるものはなく、埋土内で 収まった、遺構・遺物の検出はない。

写真8 追加2②地点掘削状況(東より)



3. (黒髪北) 五高記念館前樹木シロアリ被害支柱 緊急取替え工事に伴う立会調査 (1110)

<調査期間>

2011年7月26日

<調査面積>

3.53 m

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

五高記念館前に植えられている松の樹の木製支柱が、 白蟻に侵食されていることが判明し樹木および五高記念 館保全のために緊急に撤去・取替えすることとなった。 全部で8箇所ある支柱を撤去し、おなじ場所に新しい支 柱を設置するものである。撤去に際してはスコップで掘り起こしたが、いずれも直径が0.3~0.5m、深さが0.15~0.3mと小さく浅い範囲に収まった。新しい支柱はこのまま設置した。遺構・遺物の検出はない。

写真9 作業風景(南より)



写真10 掘削状況(南東より)



4. (黒髪南他) 自然科学研究科研究棟・理学部研 究棟前通路陥没等補修工事に伴う立会調査 (1111)

<調査期間>

2011年8月18日

<調査面積>

 $0.46 \,\mathrm{m}^2$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

黒髪北地区の全学教育棟の一部で、汚水管の破損により土壌が流失し陥没が発生しているのが確認された。このため、汚水管の補修工事を実施した、建物と汚水桝の間、幅0.4mを深さ0.8~0.9m掘削したが、いずれも建物および桝の掘り方内であり工事は埋土内で収まった。遺構・遺物の検出はない。

写真11 黒髪北陥没箇所作業風景 (現状) (北東より)



写真12 黒髪北陥没箇所掘削状況(北より)



5. (黒髪北) ラグビー場横給水管補修工事に伴う 立会調査 (1115)

<調査期間>

2011年9月20日

<調査面積>

 $2.3 \,\mathrm{m}^2$

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

五高記念館西側のグラウンド手前の道路における漏水 補修に伴う調査である. 道路表面に漏水が認められ, 22 ×1.5m. 深0.3mの範囲でアスファルトとバラスおよび 砂層部分を取り除き, 地表下約0.6mで漏水箇所の配管 を確認した. さらに, 配水管周辺を地表下0.7mまで掘り下げた. 配管周辺はいずれも現水道管埋設時の攪乱層 であった. 掘削箇所側面でバラスおよび砂層の下に自然 層と思われる黒褐色土層を確認したが, 補修工事におい てはそれ以上広げて掘削する必要はないことから, 慎重 に工事をするよう指示して立会を終了した. 遺構・遺物 ともに出土していない.

写真13 作業風景(南より)



写真14 漏水箇所掘削状況(南より)



6. (黒髪北) 文法学部講義棟便所増築等改修工事 に伴う立会・発掘調査 (1116)

<調査期間>

2011年10月24日~27日

<調査面積>

 $20 \,\mathrm{m}^2$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

工事に伴い立会調査を実施していたところ, 地表下0.9 m前後で良好な包含層を検出した. このため, 熊本市文化振興課に連絡をし, 発掘調査に切替えた.

包含層の厚さは0.7mほどの厚さがあったが、遺物がほとんど含まれないことと、上面において遺構が確認されなかったため、遺構面近くまで、重機により掘削した、遺構面を精査したところ、調査区西壁下で、竪穴住居址と思われる掘り込みが確認された、掘削を行ったところ、明瞭な床面は検出されず、底面は地山(ニガ土)のブロックのため凹凸が激しい、他にピット数個が確認できたが、これらも浅く形状は不明瞭であった、遺物は古代

土師器・須恵器が出土した.

写真15 調査区全景(北より)



写真16 2号住居址掘削状況(東より)



7. (黒髪北) 北地区食堂屋外給水配管工事に伴う 立会調査 (1124)

<調査期間>

2011年12月9日

<調査面積>

 $1.54 \,\mathrm{m}^2$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

黒髪北地区の南東部に位置する北地区食堂の北側において、漏水が発生したため、熊本市文化振興課に許可を取り、応急処置を行った。2×0.77mの範囲を掘削した、掘削の深さは0.5mである。埋土内に収まり、遺構・遺物の検出はない。

写真17 掘削状況(北より)



8. (黒髪北) 北地区食堂・保健センター西側ガス 配管修理に伴う立会調査 (1128)

<調査期間>

2012年1月16日

<調査面積>

 $5.22 \, \text{m}^2$

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

北地区食堂南東地点と保健センター西地点のガス漏れ 修理工事である。

北地区食堂南東地点では、バルブの桝の南と北を3.3×1.2mの範囲で地表下1.2mまで掘削した。ガス鋼管埋設時に敷かれた山砂が0.3~0.5m(バルブ部分)幅で確認でき、さらに管下0.15m以上敷かれている状態であった。掘削部の両端に包含層と思われる土壌(暗い茶褐色土、しまりあり、やや粘性あり)を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。その上層はいずれも埋土(黒褐色土、しまり緩い、粘性弱い)であった。

また、保健センター西地点では、保健センター脇のメーター部分につながる1.8×0.7mの範囲を地表下0.5m 掘削した、掘削範囲はすべて埋土であった、保健センター基礎脇にはガス鋼管下には灰色の海砂が敷かれ、後日コンクリートを切断して掘削するが、壁面の状況から判断して、いずれも海砂であると考えられるため施工を了解とする、バルブより西側はすでに新しい塩化ビニール管で、交換の必要はないため、バルブより保健センター側のみを交換する予定である、遺構・遺物は出土していない。

写真18 北地区食堂南東地点作業風景(南西より)



写真19 北地区食堂南東地点掘削後(北より)



写真20 保健センター西地点掘削後(西より)



9. (黒髪北他) 施設名称サイン設置工事に伴う立 会調査 (1139)

<調査期間>

2012年2月27日

<調査面積>

 $0.63 \, \text{m}^{2}$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

くすの木会館前では、スロープ入口の西側の緑地帯を 試掘した。0.3×0.5mの範囲を地表下0.7mまで掘削した が、盛土内に収まった、遺構・遺物の検出はない。

体育館前では、入口東側の緑地帯を試掘した。当初の設置位置で排水管が検出されたため、0.2mほど北へ拡張した。0.7mまで掘削したところ、包含層を検出した。これ以上の掘削を伴わないため、本工事の際にはこれ以上掘削しないよう注意を促し終了した。

写真21 くすの木会館前作業風景(東南より)



写真22 くすの木会館前掘削状況(東より)



写真23 体育館前作業風景(北より)



写真24 体育館前掘削状況(西より)



このほか、図書館前入口の設置予定箇所は地上構造物 (階段)の上であり、北地区生協入口東側も地上構造物 (石垣)の上であるため、埋蔵文化財への影響はないと 判断し、施工よしとした。

Ⅱ-2 黒髪南地区 (図4・5・6・7・8参照)

(黒髪南)車庫給水引込管改修工事に伴う立会 調査(1101)

<調査期間>

2011年4月18日・19日

<調査面積>

 $12m^2$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

共用棟黒髪7西側の中央部より北へ、建物に沿って掘削を行った。既設の水道管を掘り出し、北へ幅0.6mで掘削した。途中0.5mの深さで地山が検出され、またコンクリート基礎などが出てきたため、掘削深度を0.2~0.3mへ変更して緑地帯まで掘削を行った。事務局車庫内では、1.0×1.9mの範囲でコンクリート床を撤去し、既設の水道管を探した。0.2mの深さで検出した。道路横断部では、0.35mで包含層や地山の土が検出されるため、幅0.6m、深さ0.35mで掘削を行った。車庫と道路の境では溝をくぐるために0.75mまで掘削した。道路と緑写真25 緑地帯掘削状況(北より)



写真26 道路横断部(南半)掘削状況(北より)



地帯の境では縁石をくぐるため0.6mの掘削を行った. いずれも包含層および地山の掘削を行ったが、遺構・遺 物の検出はない.

2. (黒髪南) 倒木抜根緊急工事に伴う立会調査 (1103)

<調査期間>

2011年6月17日

<調査面積>

 $6.6 \,\mathrm{m}^3$

<調査員>

大坪志子·石丸恵利子.

<調査概要・結果>

6月11日の集中豪雨による倒木の撤去に伴う立会調査である。工学部2号館の北西部、昭和43年記念植樹のサクラを取り除く作業では、南北2.0m、東西2.1m、東方で深さ0.45m、北方で深さ0.5mの楕円状に掘削した、機械実習工場 A の南西部のケヤキを取り除く作業では、南北2.0m、東西1.6m、深さ0.7mで楕円状に掘削した、根の垂直方向の伸びは顕著でなく、掘削はいずれも埋土内であり、遺構・遺物の検出はない、細い根は、掘削内で剪定して撤去し、埋め戻しを指示した。

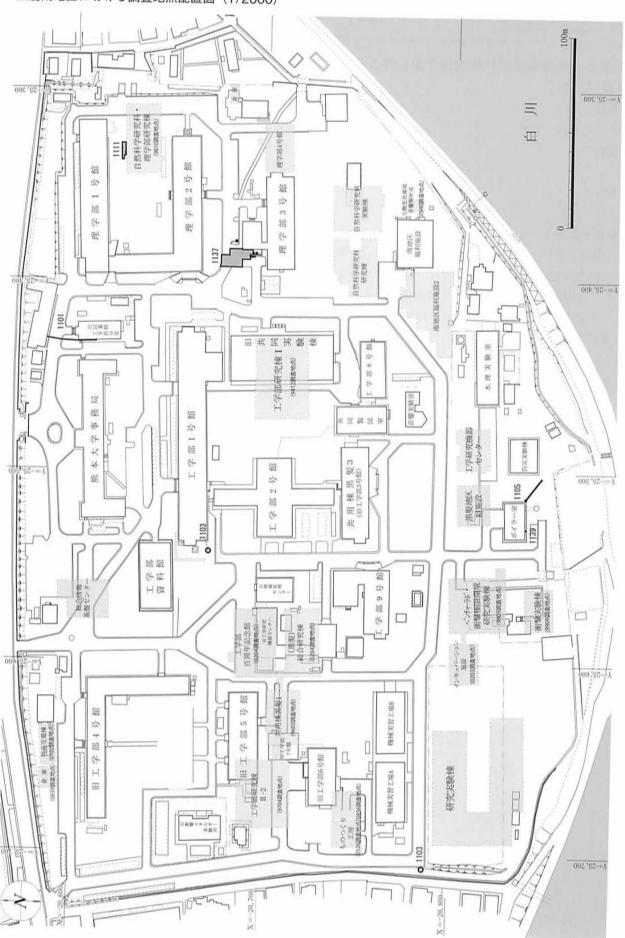
写真27 工学部2号館北西倒木撤去作業風景(西より)



写真28 工学部2号館北西倒木掘り上げ状況(北より)



図4 黒髪南地区における調査地点配置図 (1/2000)



3. (黒髪南) 埋蔵文化財調査室排水管取設工事に 伴う立会調査(1105)

<調査期間>

2011年6月22日

<調査面積>

 $3.5 \,\mathrm{m}^2$

<調査員>

大坪志子,石丸恵利子.

<調査概要・結果>

6月11日および19日の豪雨による度重なる建物床上浸水に対応するため、桝の設置工事が行われることとなった。それに伴う立会調査である、埋蔵文化財調査室の周りに巡る溝の南東隅に、新たに縦・横・深さ0.7mの桝を設置するため、深さ0.9mまで掘り下げた。次に、そこから南東13.4mに位置する既設桝に排水管を接続するため、既設桝の手前部分を長さ1.0m、幅0.3m、深さ0.75mまで掘削した。埋土はやや暗い褐色の砂層で、白川洪水の砂層と考えられる。いずれも遺構・遺物は検出していない、排水管埋設部分は深さ0.6m以上掘り下げないため、遺構は確認されないであろうと判断し、立会を終了した。

写真29 排水管掘削工事作業風景(南西より)



写真30 桝設置部掘り上げ状況(南東より)



写真31 既設桝への接続部掘り上げ状況(北西より)



4. (黒髪南他) 自然科学研究科研究棟・理学部研 究棟前通路陥没等補修工事に伴う立会調査 (1111)

<調査期間>

2011年8月18日

<調査面積>

15.2m2

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

黒髪南地区の自然科学研究科・理学部研究棟北側では、建物に沿って長さ8.8m、幅2mにわたって陥没が発生していることが確認された。そのため、原因確認のために西側を若干掘削した。掘削は、建物建設時に設置された日鋼と矢板による土留めの範囲内で行った。遺構・遺物の検出はない。

写真32 黒髪南陥没箇所作業風景(西より)



写真33 黒髪南陥没箇所掘削状況(西より)



5. (黒髪南) 基幹・環境整備(屋外排水設備等) 工事に伴う立会・発掘調査(1121)

<調査期間>

2011年11月28日~2012年6月4日

<調査面積>

7748.6m

<調査員>

大坪志子・石丸恵利子.

中田裕樹・嘉村哲也(埋蔵文化財サポートシステム). 與嶺友紀也.

<調査概要・結果>

黒髪南地区中・西南部を中心に実施したガス・排水・ 汚水等の整備事業である。工事範囲が広く種類が多岐に わたるため、施工期間を勘案すると多地点で同時に工 事・立会調査・発掘調査を進行せねばならない状況と なった。他地区での事業がすでに実施中であり、調査員 2名体制では同時に3か所以上の掘削と調査に対応する ことは困難であった。このため、埋蔵文化財サポートシ ステムに補助業務を委託した。埋蔵文化財調査センター 調査員およびサポートシステムの調査員が工事掘削に立 会い包含層・遺構面の確認・検出を行い、サポートシス テム調査員立会箇所については、最終確認を大坪が行っ た、発掘調査も大坪の指示のもと実施した。

範囲が広範にわたり、調査地点も多いため、調査実施時に対処範囲を8区に分割し、工事単位毎に枝番号を付した、報告は区毎とする。

[IX]

I区の①②③④⑤は、雨水桝設置のために2m四方、深さ約2.5mの掘削を行った. ①は地表下1.75mで遺構面(地山)を検出したが、遺構は確認されなかった. ②③は予定の2.2mまでは現代埋土であった. ④⑤は地表下2.4mで地山土に近い砂質土を検出したが、遺構は確認されなかった. いずれの地点においても遺物包含層が確認されず、遺構面直上まで現代埋土(攪乱土)であり、遺構面も削平されている可能性がある.

写真34 作業風景(南西より)



写真35 掘削状況(北より)

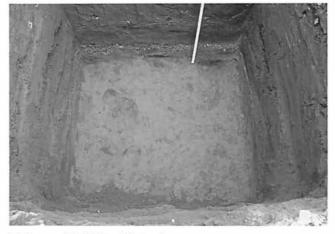
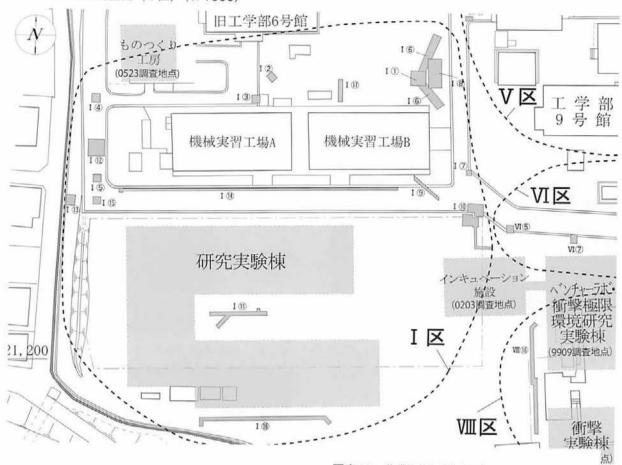


写真36 掘削状況(北より)



図5 1121調査地点配置図 (I区) (1/1000)



⑥は、桝①から延びる配管部である、地表下1.6mまで掘削したが、埋土内である、遺構・遺物の出土はない、写真37 掘削状況 (北東より)



⑦は、9号館南西隅道路に設置する雨水桝のための掘削である。1.1mほど掘削したが埋土内である。

⑧は、新しい共同溝への出入り口の建設箇所である。 地表下1.8mで遺構面(地山)を検出した、精査したが、 遺構は確認されなかった。



写真39 南半掘削状況(北より)



⑨は、機械実習工場Bの南西隅の植え込み辺りから道路に延びる調査区である。排水管の継替え工事であった、工事の掘削深度である地上高より1.6mまで下げたがヒューム管理設時の攪乱であり、埋土内である。

写真40 掘削状況(南西より)



⑩インキュベーション・ラボラトリー北側の緑地帯に 汚水桝を2つ設置し、配管する工事である.2 m四方、 地表下1.7mまで掘削したが埋土内である.配管部も0.9 ~1.3m掘削したが、いずれも埋土内である.

写真41 桝1掘削状況(南より)



写真42 南北管路掘削状況 (南より)



①は、研究実験棟の中庭の汚水管路及び汚水桝の埋設に伴う工事である。管路部分は既設管の掘り方までしか掘削を行なわず包含層には達しなかった。桝部分は地表下0.9mまで掘削し包含層を確認した。これ以上の掘削はないため、現状保存することとした。

写真43 掘削状況 (遠景) (東より)



写真44 掘削状況(東より)



⑫は、機械実習工場 A の西側道路部分に雨水桝を埋設するための掘削工事であった. I ⑤の北約10mに位置する. I ⑤の調査結果を参考に、2.2mまで掘削したところから立ち会いを行った. 2.4mまで掘削したところで砂層を確認し、2.9m付近で黄褐色砂質土を確認した. 工事の既定の掘削深度である3.2mまで掘削したところで茶褐色のやや粘質のある土を確認した. この土はやや混じりがあり、古代の土器を含むため、包含層や地山はさらに深いと思われる. 黄褐色砂質土の直上までは中世期の遺物を含む. 遺構は確認されなかった.

写真45 作業風景 (南西より)



写真46 掘削状況(北より)



⑬は、雨水桝の埋設工事に伴うもので、 I ⑮の東側に位置している。これまでに周囲の調査で堆積状況が把握できていたため 2 m掘削したところから立ち会いを行った。地上高より 2 mの深さで耕作土と思われる暗褐色土層を確認した。さらに掘り下げ、2.7mまで掘削したところで地山と思われる黄褐色土層を確認した。遺構・遺物共に出土していない。

写真47 作業風景(南より)



写真48 掘削状況(地山土検出状況)(東より)



⊕は機械実習工場A・Bの南側道路沿いに雨水側溝を設置, 西端に雨水桝を設ける工事である。最も深い桝の部分もで1mの掘削であり、埋土内であった。浅い管路部分については、文化財への影響は無いと判断し、施工は問題なしとした。

写真49 桝部掘削状況 (西より)



写真50 管路掘削状況(東より)



⑤は、③の東、道路の中央部に位置する。雨水桝設置のため、地表下3.3mまで掘削した。すでに⑤や③で確認していたが、2.7m前後で地山と思われる土が土層を検出したが、遺構・遺物は確認されなかった。

写真51 東壁土層状況 (西より)



⑥は研究実験棟南側の道路沿いに汚水管を通す工事である. 幅1.2m, 深さ1.0mで掘削を行なったが, 埋土内である.

写真52 東壁土層状況(西より)



①は機械実習工場Bの北側に設けた雨水桝を、I①-I②間に通した雨水管に繋ぐ工事である。雨水管までの管路は地表下0.8mの掘削、接続は既設管の上から繋ぐため掘り方内である。包含層や遺構・遺物の検出はない。写真53 作業風景(北より)



写真54 管路掘削状況(南より)



写真55 既設管接続部掘削状況(東より)



[IX]

①は工学基礎教育センター東側入口の道路下に雨水桝を新設するため、4.4m×4.4mの範囲を3.5m掘削する工事である。現アスファルトとバラスの下(地表下0.5m地点)で、旧道路面と思われるアスファルト敷きを確認した。地表下1.1~1.8mで地山を確認したが、鋼管やU字溝、土管などの埋設により、大きく削平を受けている地点であった。埋土内および地山層表面で土師器片写真56 II①区掘削風景(南東より)



図6 1121調査地点配置図(ⅡⅢⅣVⅥ区)(1/1000)

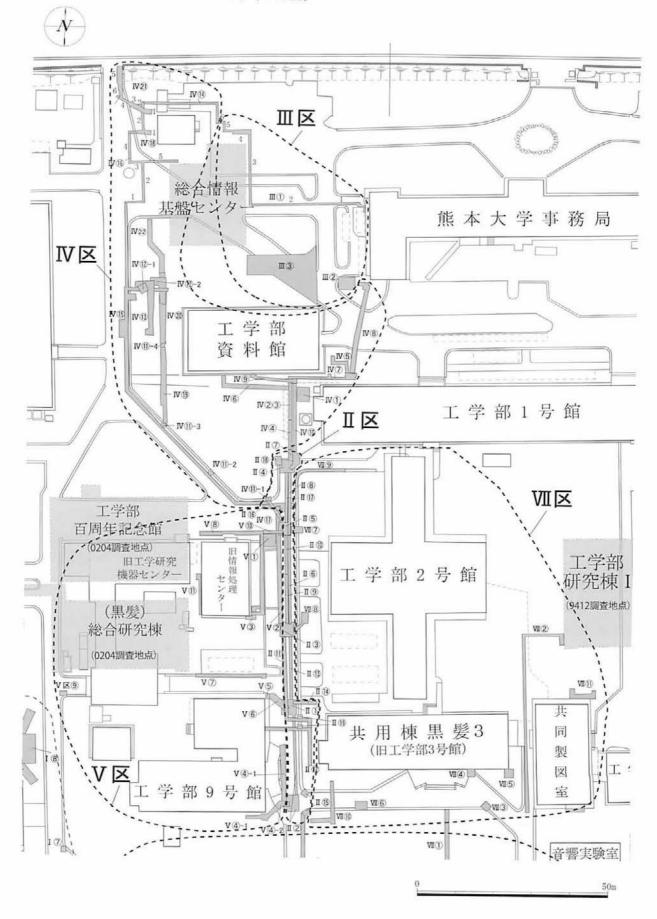
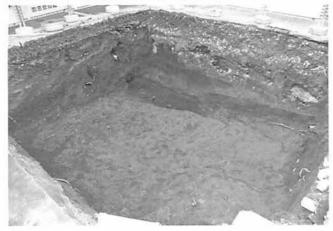


写真57 Ⅱ①掘削後(南東より)



が数点出土した. U字溝によって南側は削平を受けているが. 北西隅に1.8×0.35mの範囲で0.25mの深さを測る土坑状の落ち込みを確認した. さらに壁面北西へ延びると考えられる. 遺物は出土していない.

②は工学基礎教育センター東側入口南側の道路下に①同様の雨水桝を新設するため、4.4×4.4mの範囲を3.5m 掘削する工事である。掘削範囲内は、建物基礎のコンクリート塊等のガラの埋設が著しく、地山が確認された地表下2.0mまでは、すべて攪乱層であった。北西隅で攪乱層の下層に暗い茶褐色土層を挟んで地山が確認でき、地山上面から掘り込まれた0.4×0.3×深さ0.35mの土坑を1基確認した。さらに西側セクション方向に延びると考えられるため、詳細は不明であるが、土坑底部で円礫を1点のみ確認した。掘削範囲東側は特に攪乱が顕著で、地表下2.3~2.5mで地山層は0.05m程度残して、下層の黒灰砂層に達する。遺物は出土していない。

また、①~②間に雨水管を設置する工事においては、 幅1.0m で掘削した結果、地表下1.3m ですべて現代の埋 土であった、遺物は出土していない。

写真58 II区②掘削風景(北東より)



写真59 Ⅱ区②西隅土坑掘削後(東より)



写真60 Ⅱ区②掘削後(西より)



③は、Ⅱ区①や②と同様に雨水桝新設のために4.4×4.4mの範囲を掘削予定であったが、掘削範囲の西端から1.15mの位置に幅1.0mの共同溝が南北方向に埋設しており、さらに西側にも延びるのが確認できたため、新設桝は共同溝の東側部分に設置することとなった。共同溝の西側部分は、地表下0.9~1.0mでやや暗い褐色土の包含層を確認し、地表下1.2~1.6mで地山を確認した。0.45×3.75mの範囲内に、土坑3基を確認することができた、うち2基より土師器片が出土している。共同溝西側はこれ以上掘削を行わないため、調査を終了した。

共同溝東側部分では、東端から西に最大0.5m幅,共同溝から東へ0.9m幅の範囲は埋土であり、その間の0.9~1.2m幅に本来の地層が残存しているのを確認することができた、地表下0.9mでやや暗い褐色の包含層、さらに1.2mで地山に達した、その狭小な範囲の南寄りの位置で小型の甕棺(弥生中期末)が発見されたため、発掘調査に切り替えて調査を実施した、甕内部の土に、人骨や遺物は含まれていなかった。また、地山上面で6基の土坑を検出し、地山直上で須恵器片および土師器片が出土している。

写真61 Ⅱ区③掘削風景(南東より)



写真62 Ⅱ区③西側土坑掘り上げ後(南より)



写真63 Ⅱ区③東側土坑検出面(東より)

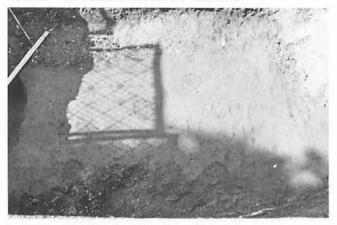


写真64 II区③遺構面検出状況(東より)



写真65 Ⅱ区③甕棺出土状況(北より)



写真66 Ⅱ区③甕棺取り上げ後(北より)



④は、Ⅱ区の最北端に設置する雨水桝設置のための掘削である。共同溝がⅡ区③地点から延びていると予想されたため、東側部分の4.4×2.2mのみ掘削を行った。地表下0.9mで包含層に達し、1.2mで地山上面を確認し、北西方向に長方形状に並ぶ14個のピットを検出した。包含層埋土内で縄文土器片および土師器片が数点出土している。

写真67 Ⅱ区④掘削状況(南西より)



写真68 Ⅱ区④包含層上面土坑検出面(南より)



写真69 完掘状況(南より)



⑤は、④の南に位置する雨水桝設置箇所である。掘削を進めると、調査範囲の北側2/3が削平され、南側1/3は遺構面が遺存していた。包含層を精査したのち遺構面(地山)を検出した。南西隅に、住居址の一部と思われる落込みと、溝状の遺構を確認した。遺物は土師器の砕片のみである。

写真70 ⑤完掘状況(北より)



写真71 遺構完掘状況(西より)



⑥は、③の北1.7mの地点に小型桝を設置し、そこから⑤の掘り方南東部に新設する小型桝まで汚水管を繋げる工事である。桝部分は地表下1.25mで地山を検出したが、既設管で半分が破壊されており、残された部分でも遺構は確認されなかった。管路は幅0.8mで掘削を行った、地表下0.75~0.9mで包含層が確認され、0.9~1.0m前後で遺構面(地山)が確認されるため、数mずつそれぞれの上面において遺構を確認しつつ所定の深さまで掘削した。北半分で7個のピットを検出、掘削した。また、⑤との接続部では北東方向を向く遺構が確認された。深さや⑤の成果を併せて考えると、住居址の可能性がある。

写真72 ⑥中央部遺構面確認状況(北より)



写真73 ⑤接続部遺構掘削状況(北より)



⑦は、Ⅱ区④の雨水桝設置個所から北に雨水管を新設するための工事で、0.6×4.3mの範囲を地表下1.4mまで掘削したが、南側3.5m部分はコンクリート塊等の攪乱層で、北端の0.6×0.8mの範囲のみで包含層を確認することができた、その範囲では遺構・遺物は確認されなかった。

写真74 Ⅱ区⑦掘削後(南より)



写真75 Ⅱ区⑦掘削後(南より)



⑧は、Ⅳ区③とⅡ区⑥の汚水桝間をつなぐ雨水管新設のための工事である。0.8m×11.7mの範囲で地表下1.2~1.3mまで掘削した結果、雨水桝⑤から北に4.1mの地点で、包含層から掘り込まれた土坑を確認した。土坑埋土から扁平な円礫1点が縦になった状態で出土した。包含層内より土師器片、すり鉢等を確認した。

写真76 Ⅱ区⑧北側半分掘削後(南より)



写真77 II区⑧南側半分土坑検出面(南より)



写真78 Ⅱ区⑧土坑半裁状況(北より)



⑨は、③桝から⑤桝間の南北28mのうち、③桝寄りの 17m分における雨水管新設のための工事である。幅1.0 mほどで掘削を行った。西0.3~0.4mは共同溝の掘り方 である。1.1mほどで遺構面を検出したが、遺構は確認 されなかった。

写真79 Ⅱ区⑨中央部遺構面確認状況(南より)



⑩は、Ⅱ区③桝から⑤桝間の南北28mのうち、⑤桝寄りの11m分における雨水管新設のための工事である。1.0 m幅で、地表下1.2mまで掘削した結果、西側は0.3~0.4 mが共同溝の埋土であるが、東側で地山(遺構面)を確認した、南から1.6m地点で直径0.3m、深さ0.48mのピットが1基検出されたが遺物は出土していない。また、北端で北東から南西に走る溝状遺構の南側の立ち上がりを確認した。北側は桝⑤の掘方に含まれるが、桝⑤掘削の際、住居址と思われる掘り込みが確認されており、一連のものと推測される、埋土内で石錘?、縄文土器片、土師器片を確認した。

写真80 Ⅱ区⑩南側掘削後(北より)



写真81 Ⅱ区⑩全体掘削後(北より)



写真82 Ⅱ区⑩北端溝掘削後(東より)



①は、ガス管工事である。③の南端から掘り始め、①を通過してさらに南へ6.5m掘削した。そこから東へ7m曲がり、さらに南へ5m掘削した。深さは0.9mで、埋土内で収まった。遺構・遺物の検出はない。

写真83 南北管路掘削状況(南より)



写真84 東西管路掘削状況(西より)



⑫は、⑪の続きのガス管工事で、更に南へ延ばした箇所と、西側へ伸ばして9号館へ接続する工事である。深さ0.8mの掘削で、いずれも埋土内で収まった。

写真85 東西管路掘削状況(西より)



写真86 南北管路掘削状況(北より)



③は、③と①の間の雨水管工事である。 攪乱で半分ほどが削平されていたが、地表下0.8~0.9mで包含層、1.2 mで遺構面(地山)を検出した、①の北側2mの範囲で住居址と思われる遺構を検出したが、攪乱による削平のため全容や詳細は不明である。 遺物はない.

写真87 遺構面確認状況(東より)



回は、①の東側に小型の雨水桝を設置し、東側の既存桝と繋ぐ工事である。桝設置場所では、地表下1.15mで一部遺構面を検出したが、遺構は確認されなかった。管路部分でも地表下1.35mで遺構面を確認したが既に削平を受けており、遺構は確認されなかった。

写真88 作業風景(西より)



写真89 掘削状況 (西より)



⑤は黒髪共用棟3前の道路の南西にある下字路のコーナーに2箇所雨水桝を設置し、既設桝との接続をする工事である。桝設置箇所では北は地表下1.6m。南は地表下1.3mまで掘削したがともに埋土で、管路も埋土内である。遺構・遺物の検出はない。

写真90 作業風景(南西より)



写真91 北側桝掘削状況(北西より)



写真92 北側桝管路掘削状況(南西より)



⑥は、ガス管の配管に伴う掘削工事である。 Ⅱ⑤の北 側4m付近を東西に掘削した。東の道路縁石から掘削し、 西へ2m程で共同溝が検出された.深さ0.9~1.0mで掘 削したところで包含層を確認した. 既設のガス管が埋設 されており、その掘り方のみを掘削し、包含層部分に関 しては掘削を行わない工事であったため、包含層は調査 せず, 現状保存することとなった. 共同溝の西側は5m 程掘削した. 北側半分強はガス管の掘り方で既に撹乱 を受けており、南側には包含層が残存していたが、今回 の工事で削平するということであったため、調査を行う こととした. 遺構検出の結果、ピット一つを検出した. 埋土は包含層のものと似ている. ピットから遺物は出土 しなかったが、包含層より土器片が1点出土している. 調査を行った部分を0.9m程南側に拡張したいという申 し入れがあり、縦1m×横1.2mの範囲の掘削に立ち会っ た. 0.6m掘り下げたところでガス管とその掘り方を検 出した. そこから0.3m掘削すると包含層の上面に耕作 土がやや被っている状態であった。 工事の掘削深度がこ こまでのため、包含層及びに遺構面の調査はせずに現状 保存とした. 遺物は出土しなかった.

写真93 作業風景(南より)



写真94 包含層検出状況 (西より)



写真95 遺構完掘状況(西より)



①は、Ⅱ④とⅡ⑤雨水桝を結ぶ雨水管工事である。幅 0.6~0.75mで掘削を行った。調査区が狭長なため、3スパンに分けて調査を行った。北側より6m地点までを第 1スパンとした。北から2.2mまでは桝の掘り方で、攪乱を受けていない場所では地表下0.9~1.0mで包含層を検出した。工事の予定掘削深度が1.35mであったため、1.35mまで掘り下げたところ地山(遺構面)の上面がわずかにみえてきている程度であった。そのため、遺構を壊す危険性がないことから現状保存することとした。

第2スパンでは、6~11m地点までを掘削した。9~10m付近のガス管の掘り方以外では、地表下0.95~1.1mで包含層を確認した。検出作業を行い、記録写真の撮影を行った。既定の1.35mまで掘削したが、地山(遺構面)には達しなかったため現状保存とした。

第3スパンは、11m地点より最終地点までの掘削を行った、11m~11.5m付近のみ、地表下0.9mで包含層を検出した、攪乱を受けている箇所はそのまま掘り下げ、1.1m程で包含層を検出した、既定の1.35mまで掘削したが地山(遺構面)には達しなかったため、現状保存とした、遺構・遺物は検出されなかった。

写真96 作業風景(北より)



写真97 第3スパン掘削状況(南より)



18は、桝設置のための工事で、Ⅱ④に隣接する場所で 長さ2×幅1.6mの調査区であった。地表下0.95mで包含 層が検出された。これ以上工事による掘削が行われない ため、現状保存することとした。遺構・遺物ともに検出 されなかった。

写真98 包含層検出状況 (掘削完了) (東より)



⑩は、共用棟黒髮3の西側、⑭の南側に雨水桝を2筒 所設置する工事である。北側では地表下1.1mで包含層 を一部検出し、遺構面ではピット2つを検出した。南側 では1.1mの深さで遺構面を確認し、ピット3つを検出 した、遺物はない。

写真99 作業風景(北西より)



写真100 北側ピット掘削状況(南より)



写真101 南側ピット掘削状況 (東より)



②は①と②の大桝を繋ぐ雨水管工事である。地表下0.9 mで包含層を検出したため、上面を精査し遺構の有無を確認したのち1.4mまで掘削した。包含層内で収まった。遺物はない。

【Ⅲ区】

①は、ガス管の埋設に伴う掘削工事で、事務局本館西側から総合情報基盤センターの東側を結び、総合情報基盤センターの東側を結び、総合情報基盤センターの建物に沿うように設定された調査区である。調査区が長いため、6スパンに分割した。

第1スパンの事務局本館建物周辺では、掘削深度が0.4 mと浅く包含層は検出されなかった。その他の地点で、 攪乱を受けていない場所では地表下0.5mで包含層を検 出した。包含層掘削を行い、地表下0.6mで遺構面を検 出した、遺構と思われるプランを確認したが、これ以上 の掘削はないため現状保存することとした。

第2スパンのうち、第1スパンと接している地点より 情報基盤センター東側駐車場の中央付近までは、地表下 0.5mで包含層を確認した、残りの部分では確認されな かった。

第3スパンでは、工事の既定掘削深度である0.8mま で掘り下げたが、包含層は検出されなかった。

第4スパンでは、地表下0.5mで包含層を確認した. これ以上工事による掘削はないため、現状保存とした.

第5スパンは、地表下0.5mでは近世期以降の耕作土層で、これ以上の掘削がないため現状保存とした。

第6スパンは、攪乱を受けており、包含層・地山共に 検出されなかった。

写真102 作業風景 (第1スパン) (北より)



写真103 作業風景 (第5スパン) (東南より)



写真104 包含層検出状況 (第1スパン) (東より)



写真105 包含層検出状況 (第2スパン) (西より)



写真106 包含層検出状況 (第1スパン) (東より)



第Ⅱ章 調査の記録

写真107 包含層検出状況 (第4スパン) (北より)



写真108 包含層検出状況 (第5スパン) (東より)



Ⅲ②は、事務局南西の緑地帯に雨水桝を埋設する工事である. 緑地帯西部を全面的に掘削したが、南側で共同溝が検出されたため、共同溝より北側の約2.3×5.5mの範囲を調査した. 最終的に施工に必要な掘削深度が深く、重機の掘削範囲を超える可能性があったため、西側3mほどを先に調査し、後に東側に拡張して調査を行った. 掘削の結果、地表下0.9mで包含層を検出した. 上面を精査し遺構の有無を確認したのち. 遺構面を検出した. 遺構面を精査した結果、調査区西側に溝状の遺構とピット3つを検出した. 溝状の遺構は北西-南東方向をとり、西側の溝の肩は調査区外である. 遺物は出土しなかった. 東側拡張部では、ピット(樹根か)1つを検出した. 掘削の結果、遺物は出土しなかった.

写真109 作業風景(西より)



写真110 完掘状況(南より)



写真111 東側拡張部掘削状況(北より)



③は、事務局本部・総合情報基盤センター・工学部研究資料館に囲まれた三叉路部の、インターロッキング改修工事である、既存のブロックを外し、下の砂を地表下0.35mでならす作業である、埋土内であり、遺構・遺物の検出はない。

写真112 掘削状況(南西より)



[N区]

①は工学部1号館西側にある桜の撤去である。樹木を中心に2.5m四方を掘削した。地表下0.8mで包含層を検出し、1.0mで遺構面を検出したが、遺構は確認されなかった。遺物の出土もない。

写真113 作業風景(南西より)



写真114 遺構面検出状況(西より)



②③は、①の西側を工学部1号館西側の中央付近から 資料館の南に掘削した汚水管工事である。地表下約0.8 mで包含層を確認、精査したのち遺構面を検出した。遺 構面では数個のピットを確認、掘削した。遺物としては、 遺構面の直上で黒曜石のチップと土器片が出土した。ま た、ピット内からも土器片が出土した。

写真115 遺構面検出状況(西より)



④は、②③の続きで南へ延びる汚水管新設のための工事である。0.7×5.0mの範囲で深さ1.3~1.35mまで掘削した状態で、地山上面に達した、土坑を3基確認したが、うち2基は木の根による攪乱と考えられた。縄文土器片、土師器片、須恵器片が出土している。

写真116 IV区④南側掘削風景(北より)



写真117 Ⅳ区④南側掘削後(南より)



写真118 IV区④南側北寄り掘削後(西より)



写真119 Ⅳ区④南側南寄り掘削後(西より)



⑤は、工学部1号館北側から北へ延ばし、工学部研究 資料館の東側までの間のガス管工事である。1号館北側 の既設管から、資料館西の既設管を繋いだ。掘削は地表 下0.6m程度で、埋土内で収まった。遺構・遺物は無い。

写真120 作業風景(西より)



写真121 資料館前東西管路掘削状況(西より)



写真122 1号館北南北管路掘削状況(南より)



⑥は、工学部研究資料館南を東西に走り、③へ続く汚水管工事である。③の西には溝状のコンクリート構造物があるため一旦ここまで掘削し、③と構造物との間0.7 mは、工法を確認後に掘削した。ほぼ全域において地表下1.0mで包含層を確認したため、上面を精査したのち遺構面を検出した。遺構としてはピットを数個確認したが、形態がやや不正形である。遺物の出土はない。

写真123 作業風景(東より)



写真124 遺構面掘削状況 (東より)



写真125 東端ピット掘削状況(北より)



⑦は、工学部1号館と工学部研究資料館の間に、汚水管を通す工事である。共同溝状のコンクリート構造物の北側に沿って施工したため、半分近くがこの構造物の掘り方であった。そのため、確認した包含層・遺構面は非常に狭長であった。また調査区を横断する配管が多いため、それらによる削平も著しかった。地表下0.8~0.9mで包含層を確認した。工学部1号館に並行して東西方向に攪乱を受けているが、調査区の約30~40%程度残存していた。包含層を10~30cm掘り下げると、遺構面(地山面)を確認した。埋土が包含層と一致する7つのピットを検出した。

写真126 東端掘削状況(東より)



写真127 西半掘削状況(西より)



⑧は、⑦の東端から事務局本部南西部にある緑地帯に向かって、北へ汚水管を通す工事である。調査区南側から0.97mの地点までは地表下0.9mで包含層を確認した。遺構がないことを確認し予定掘削深度まで下げたが、包含層内で収まった。遺物も出土していない。管路がずれたため、1/3程度南から西側に拡張した。包含層上面の確認後に掘り下げたところ、遺構面でピット2つを検出した。包含層の検出深度は、北ほど浅くなる。道路横断部では、地表下0.6mで包含層を検出した。さらに10~20cm下げたところで遺構面(地山)を確認し、ピット7つを検出した。遺物は土師器片が数点出土している。事務局南側緑地帯の共同溝北側は共同溝の掘り方で、大半はすでに撹乱を受けていた。遺構面(地山)は確認できたが、遺構は検出されなかった。

写真128 作業風景(東より)



写真129 資料館東側遺構掘削状況(南より)



写真130 道路・事務局南緑地帯部遺構掘削状況(北より)



⑨は、③⑦の交点となる角の東側(内側)に新しい雨水桝を設置し、工学部研究資料館南から雨水管を通す工事である。桝はコンクリート構造物を一部破壊・撤去した箇所だった。地表下1.3mで包含層が確認され、包含層を掘削したところ遺構面でピットが1つ確認された。

この桝から西への管路は0.4~0.6mの深さの掘削で、 埋土内で収まった。遺物の出土は無い。

写真131 桝部ピット掘削状況(西より)



写真132 作業風景(東より)



写真133 工学部研究資料館南管路掘削状況 (東より)



⑩は、Ⅳ⑨の桝からⅡ⑦付近までの雨水管及び雨水桝 設置工事である。包含層・遺構面確認のため、3~4 m 前後の距離で北から分割して調査を行った。幅0.8 m 掘削深度1.5 mの掘削である。

第1スパンは、地表下1.2mの深さまで攪乱を受け地 山が削平されており、遺構は検出されなかった。

第2スパンは、地表下1.1mの深さまで攪乱を受けていたが包含層が10cm程残っていた。包含層の掘削を行い、 遺構面の検出作業をおこなったが、遺構・遺物共に確認 されなかった。

第3スパンでは、地表下1.1m程まで掘り下げたところで包含層を確認した、遺構がないことを確認して包含層を掘削した、遺構面の検出作業を行ったところ、ピットを確認した、土師器片が一点出土している。

第4スパンは、地表下0.9~1.0m程掘削したところで 包含層を検出した。包含層の上面で、土坑1基と住居址 と思われる硬化面を検出した。これらの掘削・記録後に 包含層掘削を行い、遺構面で遺構検出を行ったが、掘削 深度が既定の深さに達していたため現状保存とすること とし、第4スパンの調査は終了した。 第5スパンは、調査区の半分弱は隣接する配管の工事の際に既に調査済みである。地表下0.9m程度下げたところで包含層を確認した。包含層より土師器片が1点出土している。包含層を掘り下げて遺構検出作業を行ったところ、ピットと不明落込み、土坑を検出した。土坑は第6スパンの方へ延びるため第6スパン掘削時に完掘した。それぞれ埋土は包含層の土に近似している。

第6スパンは、地表下1.0m程度掘削したところで包含層を検出した、調査区の3割程度は隣接する配管の工事の際に既に調査済みである。地表下1.4m程度で遺構面を確認した。第5スパンで検出していた土坑の続きを検出し、掘削を行うと、土坑の下に2つのピットを検出した。これらの埋土はすべて包含層の土に近似していた、土坑より黒曜石片1点、石器(敲石と思われるもの)1点、縄文土器片2点が出土した。ピットの一つから土器片1点が出土した。

第7スパンは、調査区南端の桝を入れる部分以外は攪乱を受けており、包含層、地山は検出されなかった。調査区南端より2mほどの地点では、地表下1.7m程掘削したため攪乱を受けていない遺構面を検出したが遺構・遺物ともに検出されなかった。

第8スパンは、⑩の南端の桝を入れる部分を0.5m程広げ、II⑦に向かって2m程掘削した。0.5m広げた部分は、地表下1.4mまで掘削したが、攪乱を受けており、包含層・遺構面ともに検出されなかった。

第9スパンは、Ⅱ⑦につながる部分で、地表下1.2m 掘削したが前回汚水管を埋める際に掘削した掘り方と同 じであったため包含層、遺構面ともに検出できなかった。

写真134 作業風景(北より)



写真135 第4スパン遺構確認状況(南より)



写真136 第6スパン遺構掘削状況(西より)



写真137 第7スパン遺構面確認状況(南より)



①は、雨水管及び雨水桝の埋設の伴う掘削工事である。 これまでの周辺調査成果より、桝部分の4か所の調査の み行い、枝番号を振ることとした。

Ⅳ①-1は、工学部研究資料館南側緑地帯の南端に位置し、1.3×1.5mの調査区である。地表下0.9mで包含層を検出した。調査区の北側は攪乱を受けていたが、南側では包含層が残存していた。工事の掘削深度が1.15mのため、その深さまで掘り下げたが地山(遺構面)には達しなかった。遺構・遺物共に検出はない。

Ⅳ ① -2は、 ① -1の北西に位置する. 縁石道路側を掘

削した. 1.2×1.2mの調査区である. IV⑪-1と同様に桝を埋める工事の掘削で、掘削深度は1.15mであった. 地表下0.9mで包含層を検出した. 1.15mまで掘削したが、地山(遺構面)は検出されなかった. 遺構・遺物共に検出は無い.

 $N \oplus -3$ は、 $N - \oplus -2$ より北西に10mほどのところに位置し、 1.4×1.3 mの調査区であった。攪乱が深くまで及んでいたため、工事の既定の高さである1.0mで包含層を検出した。そのため、現状保存で調査終了となった。 $N \oplus -4$ は、工学部研究資料館の西側室外機横に 1.2×1.3 mの範囲で調査を行った。地表下1.4mまで掘り下げる工事であったが、攪乱を深くまで受けており包含層、地山(遺構面)は検出されなかった。

写真138 作業風景(北東より)



写真139 ⑪-1掘削状況(南より)



写真140 ⑪-3掘削状況(北西より)



⑫は、工事の妨げとなる樹根除去のための掘削であった。掘削は0.4~0.5m程度と浅く、埋土内で収まった。

写真141 作業風景 (東より)



写真142 掘削状況(南より)



③は、⑫に近接する場所で既設のガス管の位置及び、深さの確認のための掘削を行った。ガス管より両側にバケット1杯分ずつ広げて掘削したため幅1.7mで、長さ8mの調査区であった。北側より3.5mの地点までは0.5m掘り下げたところでガス管を確認した。管を露出させるために、管の両側は0.7mまで下げたが、撹乱を受けており、包含層・地山は確認されなかった。

写真143 掘削状況(東より)



個は、ガス管埋設に伴う掘削工事である。共用棟黒髪4に沿うように北東側に位置する逆L字状をなす調査区である。工事の既定掘削深度は地表下0.8mであった。南北方向の調査区では包含層は検出されなかったが、0.6m掘り下げたところで遺構面を確認した。東西方向は地表下0.4m程まで掘り下げたところで包含層を検出した。包含層掘削を行い、地表下0.6mまで掘り下げたところで遺構面を確認した。精査した結果、10基以上の柱穴、根穴など確認した。工事の掘削深度が地表下0.8mで削平を受けるため、調査を行うこととなった。遺構掘削を行った結果、4つはピットであると思われ、これら以外は、樹痕であると思われる。包含層より須恵器片が1点出土した。

写真144 作業風景(南東より)



写真145 東西トレンチ東半掘削状況(西より)



写真146 東西トレンチ西半掘削状況 (東より)



IVIBは、ガス管の埋設に伴う掘削工事で、IVI \mathbb{I} -1~3 に沿うように延びる調査区である。調査区が狭長なため、13スパンに分割して調査を行った。

第1,2スパンは、予定の地表下0.9mで一部包含層が 検出した、これ以上の掘削がないため、現状保存とした。 第3,4スパンは、掘削が近世期以降の耕作土までで収 まることが多く、わずかに撹乱を受けなかった包含層を 検出する程度であった。

第5スパンでは、工事の既定掘削深度0.8mまで掘削 したが、近世期以降の耕作土層までで、包含層には達し なかった。

第6スパンでは、既存のガス管が上に通っており、それをかわすために掘削深度が1.2m程度になるため、他の管路よりも深く掘削を行った。その結果、1m前後の深さで包含層を確認し、1.2m程度掘削したところで、地山を確認したが、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第7スパンは、既定の掘削深度0.8mまで掘削したが、 近世期以降の耕作土層までである。

第8スパンでは、既存の東西方向に走る共同溝を通すために、2mほど工学部資料館の方向に調査区を広げて、共同溝を通す工事であった。そのため掘削深度が1.2m程度になり、他の管路よりも深く掘削を行った。1mほど掘削したところ、大部分は共同溝を埋設する際に攪乱を受けていたが、調査区南端より0.2~0.3cm程度の幅で包含層が残存していた。1.2m程度掘削したところで、攪乱を受けていない部分では地山を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。

第9スパンは、第8スパンと共同溝を挟んで隣接する 調査区である。共同溝にガス管を通す工事のため、掘削 深度は1.7mと深かった。掘削した箇所が共同溝の掘り 方内だったため1.7m下げたところで地山(遺構面)を確認した. 遺構は確認されなかったが、調査区北壁面には、地表下0.95mで包含層を、1.05mで地山遺構面を確認した. その面より掘り込まれた遺構も確認できた.

第10スパンは、第9スパンとL字状に接して北側に延びる調査区である。 $0.8\sim0.9$ m程掘削したところで包含層を検出した、包含層を掘削し、1.0mのところで遺構面を確認し、ピット3つを確認した、遺物は出土しなかった。

第11スパンは、第10スパンから北に延びる調査区である。地表下0.9m程で包含層を確認したが、遺構・遺物共に検出されなかった。工事の既定掘削深度に達していたため現状保存することとした。

第12スパンは、第11スパンより北側に延びる調査区である。地表下0.8m程で包含層を検出した、遺構・遺物共に検出されなかった。

第13スパンは第9スパンより工学研究資料館の方向に 延びる調査区である. 地表下1.2m程まで掘削を行ったが、 攪乱を受けており、包含層. 地山ともに確認されなかった.

写真147 第2スパン包含層検出状況(北西より)



写真148 第10スパンピット完掘状況(西より)



写真149 第11スパン包含層検出状況(北より)



個は、⑤の続きでガス管の埋設に伴う掘削である。調査区が狭長なため、5スパンに分割して調査を行った。東西方向に延びる第1スパンは、地表下0.8mまで攪乱を受けており、わずか幅0.2m程で包含層が遺存しているのを確認した。予定の掘削は地表下0.9mであったが、下の既設管を避けるためこれ以上は掘削を行わなかった。

第2スパンでは、地表下0.8m程度まで掘削したところで包含層を検出した。地表下0.9mまで掘り下げると地山(遺構面)が確認できた。根穴と思われるものがあったが、明確な遺構は検出されなかった。出土遺物としては、包含層より縄文土器片が2点出土している。

写真150 第2スパン包含層検出状況(南より)



第3. 4スパンは、地表下0.45~0.6m程で包含層を確認した。第3スパンは、地表下0.8m前後で地山(遺構面)を確認し、精査した結果遺構を確認した。掘削を行った結果、近現代期の溝1条と、その下よりピットを1つ確認した。他は根穴の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

写真151 第3スパン遺構検出状況 (西より)



第4スパンは地表下0.9m程度で地山(遺構面)を確認できた. 遺構や根穴と思われるプランを検出したが、これ以上の掘削は必要ないため、現状保存することとした.

第5スパンは、第3スパンより西側に延びる調査区で、ガス管の攪乱を受けていない部分では地表下0.7m程で包含層を確認できた。これ以上掘削を行わないということで、現状保存することとした。遺構・遺物は検出されなかった。

写真152 第4スパン遺構検出状況(南より)



⑰は、雨水の配管設備工事に伴う掘削工事で、Ⅱ⑤の 桝とⅣ⑪-1の桝を結ぶ第3、4スパンの調査を行った. この調査区内のⅡ⑯、Ⅳ⑪-1と重複する部分は調査対象 外とした. 地表下1.0m程で包含層を検出した. 工事の 既定掘削深度である1.4mまで下げたところで地山を確 認できたが、遺構・遺物は確認されなかった.

写真153 掘削状況 (南東より)



写真154 遺構面検出状況(南より)



®は、№⑥の北端より西側に延びる調査区で、ガス管の埋設に伴う掘削工事である。2スパンに分割して調査を行った。

第1スパンは、地表下0.45~0.55mで、調査区西側から中央部分にある U 字溝の下までは包含層を確認した、 U 字溝より東側は攪乱を受けていた、検出作業の結果、 2つのピットを確認し、遺構掘削を行った、遺物は出土 しなかった。

第2スパンは、工事の予定掘削深度である0.8mまで 下げたところで包含層を確認した。これ以上掘削するこ とはないため現状保存することとした。遺構・遺物共に ない。

写真155 第1スパン作業風景 (西より)



写真156 第1スパン完掘状況 (東より)



写真157 第2スパン包含層検出状況(南より)



⑩は、雨水管の埋設に伴う掘削工事で、IV⑪-3の桝とIV⑪-4の桝を繋ぐ管路部分の調査である。掘削深度は地表下1.0~1.2mで、攪乱を受けている包含層を検出した。これ以上掘削を受けないため現状保存することとした。遺構・遺物ともに検出されなかった。

写真158 作業風景(南より)



写真159 包含層検出状況(南より)



写真160 包含層検出状況(南より)



②は、工学研究資料館の西側に位置し、N①-4の桝より北側に延びる雨水管の埋設に伴う掘削工事である。掘削の都合上、第1~4スパンに分けて調査を行った。第1スパンは、調査区北隅の桝設置部分で、0.8×0.8mの規模であった。地表下1.0m程で包含層を確認した、地表下1.3m程まで掘削したところで、地山(遺構面)でピット2つを確認し、掘削を行った。

第2スパンは、地表下1.6m程で包含層を確認した. これ以上掘削を受けることがないため、現状保存とした. 第2スパンより共同溝までの区間を第3スパンとした. 地表下1.2m程まで掘削したが、攪乱を受けていた.

第4スパンは共同溝から \mathbb{N} \mathbb{N} \mathbb{N} \mathbb{N} \mathbb{N} 4に接する地点まである。地表下1.5m程まで掘削したが、攪乱を受けており、埋土内だった。

写真161 作業風景(北より)

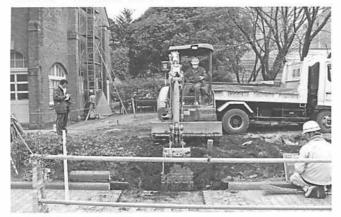


写真162 第1スパン包含層検出状況(南より)



写真163 第1スパン遺構完掘状況(南より)



写真164 第4スパン掘削状況(北より)



②は、共用棟黒髪4の西側に位置する倉庫より延びるガス管の埋設に伴う掘削工事である。 IV®とも接している. 調査区が狭く長いため、5スパンに分割して調査を行った.

第1スパンは、調査区の東端より鉄管が埋設されている部分までとした。地表下1.9m程まで掘削したが、ガス管による攪乱を受けていた。

第2スパンは第1スパンの続きからヒューム管が埋設されている部分までである。地表下0.8m程掘削したところで地山(遺構面)を確認し、ピットを検出した、ピットの掘削を行ったが、遺物は出土しなかった。

第3スパンは、地表下0.8m程掘削したところで地山 (遺構面)を確認し、ピットと土坑を検出した、遺構を 掘削したが、いずれも遺物は出土しなかった。

第4スパンは、第3スパンより一部トンネル状に西側に伸びる調査区である。 地表下0.8m程掘削したところで、一部地山(遺構面)を確認した、攪乱に切られたピットを検出した、ピットの掘削を行ったが、遺物は出土しなかった。

第5スパンは、IV②の北端よりコンクリートが埋設されている部分までの区間である。第5スパンの北端より中ほどまでは攪乱を受けており、地山(遺構面)は残っておらず、地表下1.5mまで掘削したところで砂層を確認した。中ほどから南側のコンクリート埋設部分までは、0.7mの深さで地山(遺構面)を確認した。土坑のように見えるプランを確認し掘削を行ったが、風倒木の痕跡であった。その他遺構・遺物は確認されなかった。

第6スパンは、第5スパンと第4スパンを結ぶ調査区である。第6スパンには既設のガス管が埋設されており、その管の掘り方のみを掘削する工事であったため、埋土内の掘削であった。

写真165 作業風景(北より)

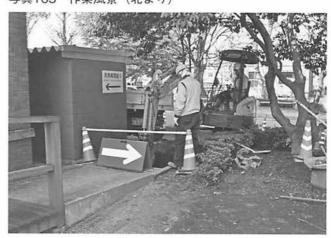


写真166 第2スパン遺構検出状況 (西より)



写真167 第4スパン完掘状況 (西より)



写真168 第5スパン完掘状況(南より)



②は、総合情報基盤センター南側の道路を横断し、センター西の植え込みまで雨水溝を設置する工事である. 地表下0.9mで部分的に包含層を検出した.これ以上の 掘削を行わず施工することとした.

写真169 作業風景(南より)



写真170 道路横断部掘削状況(南より)



写真171 植え込み西側部掘削状況 (北より)



[VX]

①は、数理工学科研究棟Ⅲの東側植え込みの撤去および整地の工事である。5.0×2.5mの範囲内で地表下0.15~0.2mの深さで樹木撤去を行った。また地表下0.4mまで掘り下げを行ったが、いずもれ埋土内に収まり、遺構・遺物は確認されなかった。

写真172 V区①掘削風景(南東より)



写真173 V区①掘削後(北西より)



②はⅡ③からⅡ⑥までの間のガス管工事である. 共同 溝のようなコンクリート構造物の西側に沿って掘削した. 幅0.6m, 深さ0.9mで掘削を行ったが、すべて埋土内で あった.

写真174 作業風景(南より)



写真175 掘削状況(南より)



③は旧情報処理センターの南東隅既設管と②を結ぶガス管工事である。幅0.6m、深さ0.8~0.9mで掘削を行った。包含層上面を検出したが、これ以上の掘削は必要ないため、現状保存とした。

写真176 作業風景(南東より)



写真177 掘削状況(東より)



①は、Ⅱ20側に並行して、9号館東側をL字に囲むように雨水管と桝を設置する工事である。

大桝設置部では、地表下2.3mまで掘削した。1.2×1.3 mの範囲で、東側 1/3で遺構面を検出したが、遺構は確

認されなかった.

小桝設置個所では、地表下0.2mまで掘削を行った、 予定の掘削深度まで達したところ、近世の耕作土層を確認し、不定形の遺構と思われる掘り込みを検出した、埋土は、包含層の土と地山ブロック(径5~40mm程度)を 多く含んでいた。しかし、掘削した壁面に黒色土層がきれいに廻ることから近世の耕作土直下の包含層の可能性 も考えられる、遺物は出土しなかった。

管路はいずれもこれらの桝より浅く, 埋土内で収まった. 写真178 桝部分作業風景 (西より)



写真179 大桝東壁土層状況 (西より)



写真180 小桝部分完掘状況(西より)



写真181 9号館東側雨水管路掘削状況(北より)



⑤は、9号館北東隅の縁石コーナーに雨水桝を埋設するための掘削工事である。縦0.8×横0.8mで深さ1.5mまで掘削を行った。攪乱を深くまで受けており、1.5mの深さで調査区の半分で地山を確認したが遺構・遺物は検出されなかった。

写真182 作業風景(北より)



写真183 掘削状況(西より)



⑥は、⑤とⅡ①雨水の桝を繋ぐ管路の掘削工事である. 調査区の大部分が攪乱を受けていたが、両端に包含層が 残存しており、調査区北西端では工事の掘削深度である

1.3mまで掘り下げたところで包含層を確認した.これ以上掘削を受けることがないため、包含層以下を現状保存することとした. 南東端は, 既設の桝を埋める際の掘り方の掘削範囲に含まれなかった部分が, 1.2m掘削したところで確認でき, 遺構状の包含層土を検出した. 掘削した結果不定形の土坑状になった. 周囲の地山の土は混入物が多く, 一度掘り起こした可能性がある. 包含層より土師器片が1点出土した.

写真184 調査風景(北より)



写真185 包含層完掘状況(南より)



写真186 管路全体掘削状況(西より)



⑦は、総合研究棟の西側の駐輪場の南側に隣接する通路の下に雨水管と桝を埋設する工事である。幅0.85mで駐輪場に並行して駐輪場の西端部辺りまでは管路を掘り、その先に桝部分の掘削を行った。管路部分は、地表下0.8m掘削したところで既定の深さに達し、埋土内であった、桝部分では、地表下1.2mまで掘削し、一部地山(遺構面)を確認した、遺構・遺物は検出されなかった。

写真187 雨水管路掘削状況(西より)



写真188 桝部分掘削状況(西より)



⑧は、V③の中程より北側に延びる調査区で雨水用管路及び桝を設置する工事である。管路幅は0.8m、深さ0.8mで長さ20m程度である。桝は2か所あり、調査区中程と北端に桝を配置する。桝部分は地表下1.15m、1.35mである。管路の部分では、既定の掘深度まで下げたが、埋土内であった。桝部分では、南側の桝で、0.9m程度掘り下げたところで包含層を検出した。1.15mまで掘り下げたが、地山(遺構面)は検出されなかった、北端の桝でも0.9mの深さで包含層を検出した。掘り下げると1.25mの深さで、南側半分で地山(遺構面)を検出したが遺構・遺物は検出されなかった。

北側桝より旧情報処理センターに沿うように西側に雨水管の管路掘削を行った。先の調査よりこの調査区周囲では管路の掘削深度である0.8mの深さでは包含層に到

達しないことが分かったため桝部分のみ調査を行った. 桝は旧情報処理センターと百周年記念館の間の通路沿い に位置し、地表下1.25mまで掘削したが攪乱を受けてお り、包含層、地山ともに確認されなかった.

写真189 調査区全景・北側桝部包含層検出状況(南より)



写真190 北側桝部分掘削状況 (東より)



⑨は、黒髪総合研究棟南西側のT字路の南側角に雨水桝を設置する工事である。

桝は1mまで掘削を行ったが攪乱を受けており、包含 層は検出できなかった。桝につながる管路部分は掘削深 度が浅く、包含層までは届かないと予測できたため施工 良しとした。

写真191 作業風景(東より)



写真192 掘削状況(西より)



⑩は、雨水の配管設備工事に伴う掘削工事で、以前掘削したⅡ⑤の桝とⅤ⑧の桝を結ぶ調査区である。工事の既定掘削深度である1.4mまで下げたところで、調査区の大半は攪乱を受けていたが、南側の一部で地山を確認できた、精査したが、遺構・遺物共に検出されなかった。

写真193 作業風景(北東より)



写真194 掘削状況(東より)



①は、旧情報処理センターの西側建物沿いに配管する 工事である。地表下0.45~0.6mの深さで掘削したが、埋 土内であり遺構・遺物の検出はない。

写真195 掘削状況(北より)



写真196 掘削状況(南より)



[NN]

VI①はベンチャー・ビジネスラボラトリー北東角に雨水桝を設置する工事である。既設桝を撤去し、 1.1×1.1 mの範囲を深さ 1 mまで掘削した。掘削は埋土内で収まった。

写真197 作業風景(東より)



写真198 掘削状況 (西より)



②は、VI①とは道路を挟んだ北側、9号館南側緑地帯の端に雨水桝を設置する工事である。1.1×1.2mの範囲を地表下1.0mまで掘削したが埋土内で収まった。

写真199 掘削状況(北より)



③は共用棟黒髪3の南側にある緑地帯南東角に雨水桝を設置する工事である。地表下0.9mで、近現代の埋土から褐色土に変った。包含層に類似したきれいな土であるが、遺構・遺物は検出されなかった。さらに1.3mまで掘削したが、土層は変わらず遺構・遺物は検出されなかった。

写真200 作業風景(北東より)



第Ⅱ章 調査の記録

図7 1121調査地点配置図 (VIVII区) (1/1000)

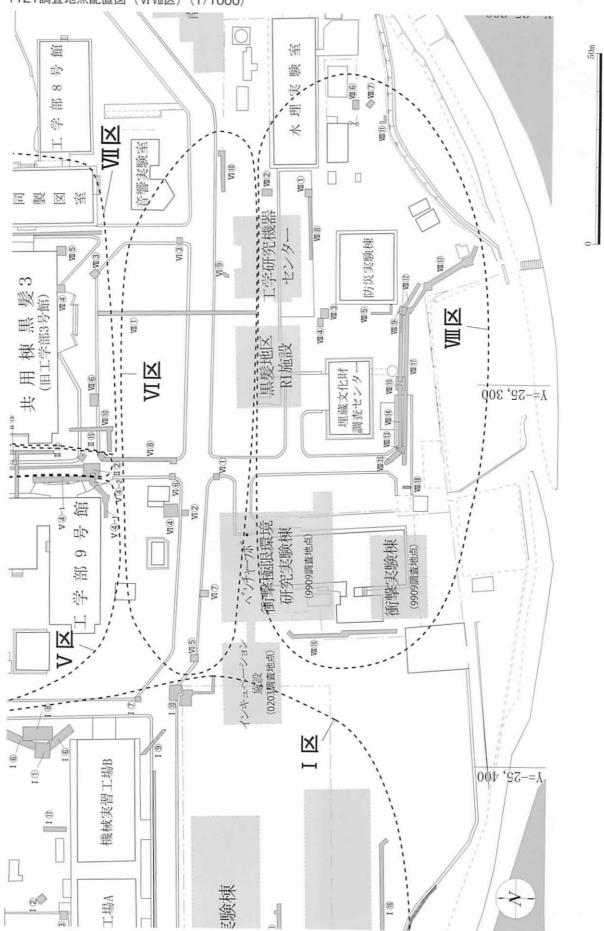


写真201 掘削状況(北より)



④は、VI②の北側に雨水桝を設置する工事である。35×3.5mの範囲を掘削した、調査区の南東角には既設の桝があったため、1/3程が撹乱を受けていた、地表下2.2mで遺構面を検出し、精査した結果、撹乱を免れた部分において畑址を確認した。4条の畝を確認した、出土遺物はない。

写真202 畝検出状況(南より)



⑤は、インキュベーション・ラボラトリーの北側、I ⑩の南東側の道路沿いに雨水桝を設置する工事である。 地表下0.8mまで掘削したが埋土内に収まった。この桝 に繋ぐ管路はこれより浅いため、施工良しとした。

写真203 作業風景(西より)



写真204 掘削状況(南より)



⑥は、W①とは道路を挟んだ北側の角に雨水桝を設置する工事である。既に共同溝のような構造物があり、それを撤去したのちに施工することとなった。工事範囲は撹乱内に収まった。

写真205 掘削状況 (東より)



⑦は、ベンチャー・ビジネスラボラトリーの北側、① と⑤の間に位置する道路沿いに雨水桝を設置する工事である。地表下1.0mまで掘削したが埋土内であった。

写真206 調査風景(西より)



写真207 掘削状況(北より)



⑧は、Ⅵ⑥とは道路を挟んだ東側に雨水桝を設置する 工事である。地表下1.0mほどまで掘削したが、埋土内 であった。桝に繋ぐ管路はこれより0.3mほど浅く、や はり埋土内である。

写真208 桝部分掘削状況(南より)



写真209 管路部分掘削状況(南より)



⑨は、工学研究機器センター前西側の緑地帯にある汚水桝を結ぶ管路の掘削工事である。調査区は長さ1~2 m,幅0.8m,掘削深度0.8mであった。掘削は埋土内で、包含層・地山ともに検出されなかった。

写真210 掘削状況(南より)



⑩は、工学研究機器センターの北東側道路に沿うように埋設されている汚水管の継替え工事である。工事の既定掘削深度は管路部分で0.9m、東端の桝部分で1.05mであった。工事の既定掘削深度まで掘り下げたが、埋土内で遺構・遺物共に検出されなかった。

写真211 掘削状況(西より)



[VIIV]

W①は、共用棟黒髪3玄関前の南側緑地帯を南北に貫き、黒髪地区RI施設東側までガス管を通す工事である。全長40mの調査区の2か所にトレンチを設定して試掘を行った。共用棟黒髪3南側緑地帯中央付近がトレンチ1、黒髪地区RI施設側がトレンチ2である。試掘の結果、規定の深さ0.9mでは包含層・遺構面には達しないと判断した。遺構・遺物は検出されなかった。

写真212 トレンチ1作業風景(北より)



写真213 トレンチ1掘削状況(北より)



写真214 トレンチ2遠景(南より)



写真215 トレンチ2掘削状況(南より)



②は、ガス管の配管工事に伴う掘削で、共同製図室南西角付近から、工学部研究棟Iの南西隅に繋ぐ工事である。長さ1.3×幅1.5mで、深さが1.2mであった。共同製図室と共用棟黒髪3の間は、地表下0.8mまで、工学部研究棟I付近の緑地帯は地表下0.5mまで掘削したが埋土内であった。工学部研究棟Iへの接続部は既設管が4本すでに通っており、攪乱を受けているため掘削深度の1.2mでは包含層、地山(遺構面)は確認されなかった、遺物の出土もなかった。

写真216 共用棟黒髪3東側掘削状況(南より)



写真217 工学部研究棟 I 南西隅掘削状況 (西より)



③は、共用棟黒髪3の南東、音響実験室の北西地点に雨水桝を新設する工事である。1.1×0.8mの範囲を地表下1.0mまで掘削したが、遺構・遺物は確認されなかった。また、桝③の新設箇所変更に伴い、北側隣地点を1.5×1.1mの範囲で地表下1.0mまで掘削した。埋土は攪乱層であった

写真218 VII区③掘削状況(南東より)



写真219 VII区③掘削後(北西より)



写真220 VII区③掘削後(南西より)



④は③地点から共用棟黒髪3の建物方向に延びる地点 (芝地・縁石・道路の境部分)の雨水桝新設工事である。 1.2×1.0mの範囲を地表下1.0mまで掘削したが、遺構・ 遺物は確認されなかった。

写真221 VII区④掘削後(南東より)



⑤は、④から東の道路脇に伸びる地点(縁石・道路の 境部分)の雨水桝新設工事である。1.1×1.2mの範囲を 深さ1.2mまで掘削したが、埋土はいずれも攪乱層で、 遺構・遺物は確認されなかった。

写真222 VII区⑤掘削後(西より)



⑥は、共用棟黒髪3の正面入り口からやや南西のU字 溝新設の工事である。1.5×1.1mの範囲で深さ1.0m掘削 したが、いずれも攪乱層であった、遺構・遺物ともに確 認されなかった。

なお、桝間をつなぐ雨水管については桝部分より浅い 掘削であるため、文化財への影響はないと判断し、慎重 に工事を進めるよう指示した.

写真223 VII区⑥掘削後(東より)



⑦は、Ⅱ区④桝から工学部2号館手前にある既設桝へ配水管を接続する工事である。2.2×0.6mの範囲を工事に必要な地表下1.2mまで掘削したところ、コンクリート塊や電圧線が、さらに下方に土管の埋設が認められ、すべて埋土であった。遺物も出土していない。

写真224 VII区⑦掘削風景(南より)



写真225 VI区⑦掘削後(西より)



⑧は、工学部2号館西側の既設桝とⅡ③を繋ぐ工事である。幅0.6m、地表下1.1mまで掘削したが、既設管等があり埋土内であった。

写真226 掘削状況(南西より)



⑨は、工学部2号館の北西側の縁石部に雨水側溝を設置する工事である。幅0.8m、深さ0.8mで掘削した。包含層上面であったため、これ以上の掘削を行わないよう指示した。

写真227 作業風景(南東より)



写真228 掘削状況(西より)



⑩は、雨水桝及び管の埋設に伴う掘削工事である。共 用棟黒髪3より南側に10m、さらにそこから西に6m先 のマンホールまでのL字型の調査区である。幅0.8mで 掘削深度が地表下1.4~1.6mで掘削したが、近世の耕作 土層内であった。遺構・遺物は検出されなかった。

写真229 調査風景 (東より)



第Ⅱ章 調査の記録

写真230 南北掘削状況(北より)



写真231 東西掘削状況 (東より)



①は、共同製図室の北東に位置し、既存の汚水桝と管の間に新規に管を埋設する工事であった。掘削深度が1.7 mと深いため、4スパンに分けて調査を行った。第1~3スパンまでは1.1~1.2mの深さで攪乱を取り除いて地山を確認することができた。精査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。第4スパンでは、1.7mの深さに電線が通っていたため攪乱を受けており、遺構・遺物共に検出されなかった。

写真232 調査風景(西より)



写真233 第2スパン地山検出状況 (東より)



写真234 第3スパン地山検出状況(西より)



【四区】

Ⅲ①は、水理実験棟南西隅で、南北と東西に走る既設 管の接続部を確認するため、0.6×1.1mの範囲を深さ0.75 mまで掘削した、いずれも埋土内であり、遺構・遺物は 確認されなかった。

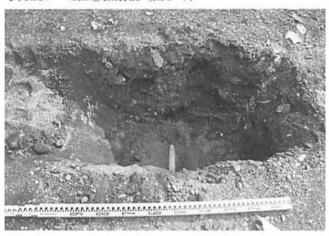
写真235 VII区①掘削風景(南より)



写真236 Ⅷ区①掘削後(南より)



写真237 W区①掘削後(西より)



②は、水理実験棟北西隅で、南北(①からの接続)と 東西に走る既設管の接続部を確認するため、0.6×1.5m の範囲を深さ1.3mまで掘削した、いずれも埋土内に収 まり、遺構・遺物は確認されなかった。

写真238 Ⅷ区②東側掘削後(西より)



写真239 VII区②掘削後(北西より)



③は、防災実験棟の北西隅で東西(①からの接続)と 南北の接続部を確認するため、1.1×1.9mの範囲を深さ 1.2mまで掘削した、いずれも埋土内であり、遺構・遺 物は確認されなかった。

写真240 Ⅷ区③掘削状況(南東より)



①は、③を西側に延長するかたちで、1.7m×0.9mの 範囲を0.3まで掘削したが、浅い部分で電気の既設線が 多く埋設されており、ガス管を確認することができな かったため、この地点での確認は中止した。

⑤は、防災実験棟西側の④から南に延びる既設管の接続を確認するため、2.9×0.5mの範囲を深さ0.5~0.75m 掘削した、いずれも埋土内で、遺構・遺物は確認されなかった、写真241 VII区⑤掘削風景(北より)



写真242 WI区掘削後(南より)



⑥は、水理実験棟南で既存の雨水配管を確認するため、 2.0×3.0mの範囲を1.0~1.5mまで掘削したが、配管を確 認することが出来なかった、いずれも埋土内で、遺構・ 遺物は確認されなかった。

写真243 WI区⑥掘削後(西より)



⑦は、⑥から南に延長し、0.6×1.8mの範囲を0.8m掘削した地点で、配管を確認した。本地点も埋土内で、遺構・遺物は確認されなかった。

写真244 WI区⑦掘削後(北より)



⑧は、工学部研究機器センター南側にガス管を埋設する工事である。幅1.4m、深さ約1.0mで掘削を行ったが、埋土内で遺構・遺物の検出はない。

写真245 作業風景(西より)



写真246 掘削状況(西より)

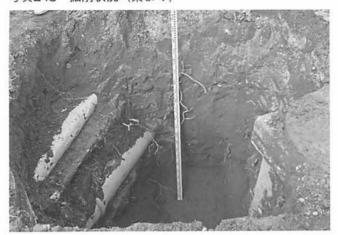


⑨は、防災実験棟の南西隅、⑤の南側に汚水桝を埋設する工事である。掘削を行ったところ地表下1.1mより1.8mまでは埋土であった。1.8~2mのところで砂層を確認した。砂層は地山ではないが、人為的な堆積ではないようで、河川の氾濫によるものだと考えられる。工事の予定掘削深度の2.2mまで下げたが土に変化はなかった。遺構・遺物共に出土していない。

写真247 作業風景(東より)



写真248 掘削状況 (東より)

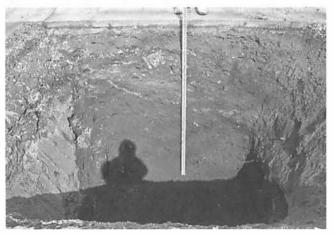


⑩は、汚水桝埋設に伴う掘削工事で、埋蔵文化財調査 センターの南側に面する道路に幅2.5m、長さ3.5m、深 さ2.15mの調査区の掘削を行った、工事の既定掘削深度 まで掘り下げたが、現代遺物を含む埋土であった。

写真249 調査風景(南より)



写真250 掘削状況(南より)



①は南地区ポンプ室の南側に排水管を設置する工事である。南北と東西のL字に掘削した南北部分では地表下1.3mで地山が検出されたが、遺構は検出されなかった。遺物の出土もない。

写真251 掘削状況(北より)



⑫は、Ⅷ⑨と11mほど南東にある汚水桝とを結ぶ汚水管の管路設置に伴う掘削工事である、管路の掘削深度は2m、幅1.5m、長さ11mであった、地表下1.4mで砂層になり、2mまで掘り下げたが包含層、地山ともに検出されなかった。

さらに畑⑨と畑⑩の桝を結ぶ管路部分の調査を行った. 管路の掘削は同様に2mで、幅0.8mであった。地表下 1.4mでやはり砂層になり、2mまで掘り下げたが包含層、 地山ともに検出されなかった。また、畑⑨より8m付近 から西側は攪乱を受けており、埋土内であった。出土遺 物もない。

写真252 調査風景(北西より)



写真253 南東部掘削状況 (東より)



写真254 VII 9 - 10間掘削状況 (西より)



③は、Ⅷ⑩の西約15mの地点に、同様の汚水桝を設置するための掘削である。部分的には地表下1.7mまで、昭和28年の洪水砂と思われる灰色の砂の堆積があり、一部では地表下1.3mで地山土の二次堆積と思われる褐色(オレンジ色)の砂質土が確認された。遺構・遺物は検出されなかった。

写真255 作業風景(東より)



写真256 掘削状況(西より)



倒は、Ⅷ⑩と⑬の人孔を結ぶ調査区である。掘削深度は東から西へ勾配がつくため1.9~1.6mであった。工事の既定の掘削深度まで掘削を行ったが、砂層、攪乱を確認したのみである。

写真257 作業風景(西より)



写真258 掘削状況(西より)



⑤は、センター前の道路沿いに位置し、汚水管埋設に 伴う掘削工事で、Ⅷ③の汚水桝につながる、地表下1.65 ~1.9mまで掘削した結果、砂層までしか至らなかった。 しかし、調査区の中央より西側では地山に近い特徴を持 つ土を確認することができ、今後周辺の調査をする際に は注意する必要がある、遺物は出土しなかった.

写真259 作業状況(東より)



写真260 掘削状況 (東より)



⑥は、衝撃実験棟の西側の通路からインキュベーション・ラボラトリーの南東隅に向かって北に延びる汚水管の管路及び桝埋設に伴う掘削工事である。調査区の幅1m、深さが管路で0.7m、桝部分で0.9mである。既定の掘削深度まで掘り下げたが、南側桝より3m地点までと、調査区北端の桝より南側に5mの地点までは攪乱を受けていた。残りの部分では砂層(昭和28年の大洪水のものか)を確認した。包含層、遺構・遺物は確認できなかった。写真261 作業風景(南より)



写真262 掘削状況(北より)



⑰は、防災実験棟の南側にあるポンプ付近に雨水桝・雨水管を設置し、さらに⑩や⑭に並行して雨水管を通し、 ③の南側にある既設桝に接続する工事である。

地下ポンプ付近の既設雨水桝付近では、地表下2.2m まで掘削を行ったが、砂層のみの検出で包含層・遺構の検出はなかった。これより北側12mの地点を桝設置のため地表下2.5mまで掘削したが、やはり砂層である。管路も砂層のみの検出であった。遺構・遺物の検出はない。
⑨の南側を桝設置のために地表下2.3mほど掘削したが、やはり砂層である。これより、西へ⑩や頃などと並行して③の南西にある既設雨水桝までを、幅1.7m、深さ1.6~1.9m前後で掘削した。この40mの区間は約8mずつ5スパンに分けて調査を行った。撹乱以外の部分では地山に類似した黄褐色の砂質土を検出したが、包含層・遺構は検出されなかった。出土遺物もない。

写真263 東側ポンプ付近掘削状況(北より)



第Ⅱ章 調査の記録

写真264 調査センター前東側掘削状況 (西より)



写真265 調査センター前西側掘削状況 (東より)



®は、埋蔵文化財調査センター南西にあるゴミ置き場前の既設雨水桝と、その北側に埋設されている雨水管を繋ぐ工事である。1.0×1.6mの範囲を地表下0.6~0.95mまで掘削した。北端に既設の管が検出され、これに新設の管を落とし込む形で接続する。遺構・遺物の検出はない。

写真266 掘削状況(北より)



6. (黒髪南) 理学部圃場整備その他工事(その1) に伴う立会調査(1134)

<調査期間>

2012年2月16日 · 17日 · 21日

<調査面積>

747m

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

黒南地区東端に位置する理学部圃場の移転事業である. 移設元の支障物の撤去の立会を行った.

圃場北側にあった建物基礎については、北側・南側を 地表下0.4mまで掘削した。基礎は0.4mまでの深さで、 重機で一部を破壊したところ簡易なつくりで、この深さ までで十分撤去できることを確認した。慎重に行うよう に指導した。

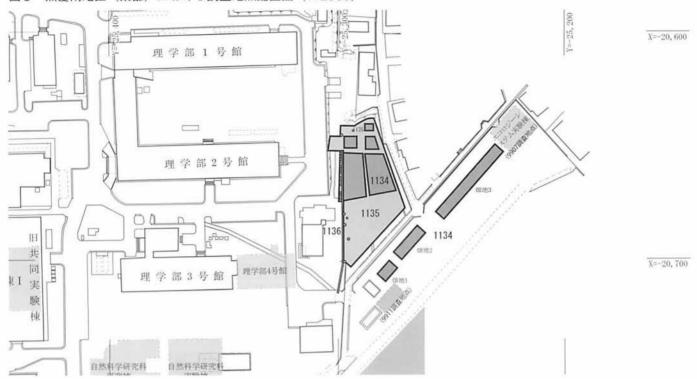
写真267 北側基礎撤去作業風景(南東より)



写真268 基礎北側掘削状況(北西より)



図8 黒髪南地区 (東部) における調査地点配置図 (1/2000)



基礎の近くにあった水道についても、地表下0.4mまで掘削して配管や栓を検出した。この掘削深度で止水工事は行えることを確認した。慎重に行うよう指導した。

写真269 道止水工事掘削状況(西より)



圃場内に東西に走るコンクリート通路について、北側、中央部、南側の3箇所で試掘を行った。通路はいずれの地点でも30cmの厚さであることを確認した。埋土内に収まるので、この深さで慎重に撤去を行うよう指導した。

写真270 北西通路試掘状況(北より)



圃場南側に設置してある水槽の南側を試掘した. 基礎 は地表下0.35mまでで. 重機で抜く(転がす)方法で撤 去が可能であることを確認した. この深さで慎重に作業 をするように指導した.

写真271 基礎掘削状況(南より)



移転元の畑の土の採取については、地表下0.4mの深 さで漉き取るように指示した。

移転先については、包含層・遺構面が浅いことが予想 されたので試掘を行った。

最も西側の畑地1では、予定の地表下0.5mまで掘削したところ、遺構面の直上でとどまった。このため、この畑地については所定どおり0.5mの掘削を行うよう指示した。

中央の畑地2では、地表下0.4mで部分的に遺構面が 確認されたため、理学部担当者及び運営基盤管理部(施 設担当)担当者と協議し、掘削は0.4mまでとした。

最も東側の畑地3は、地表下0.2mで遺構面が検出された。中央部では幅2.3mの住居址か溝と思われる遺構プランを確認した。このため、東側の畑地は協議の結果 0.2mまでの掘削とした。

写真272 畑地3住居址確認状況(南西より)



写真273 畑地2漉き取り状況(北東より)



写真274 畑地3漉き取り状況(南西より)



7. (黒髪南) 理学部圃場整備その他工事(その2) に伴う立会調査(1135)

<調査期間>

2012年2月16日

<調査面積>

1 m (1248m)

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

撤去予定のフェンス基礎の立会を行った。予定では地表下0.45mまでであったが、実際には0.7m以上の深さであった。重機での撤去を行うと、周囲の包含層・遺構面に影響が出る可能性があるため、運営基盤管理部(施設担当)担当者と協議をした結果、上部0.4mを除去し、以下は現状のままとすることにした。フェンス外の石列の撤去のため、深さを確認した。地表下0.3m程度であり、慎重に作業するように指導した。周囲の撤去予定の縁石についても同様の指示をした。新設フェンスは掘削が0.4m以内であり、文化財に影響ないと判断した。

写真275 石列撤去・掘削状況(西より)



写真276 縁石撤去・掘削状況 (東より)



8. (黒髪南) 理学部圃場整備その他工事 (その3) に伴う立会調査 (1136)

<調査期間>

2012年2月16日 · 20~21日

<調査面積>

60.80m²

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

移設元圃場内の樹木の抜根の立会を行った。20本近い樹木のうち、大きな樹木6本について立ち会った。いずれも、周囲を地表下0.4mまで掘削し、その後引き倒す方法をとり、いずれも埋土内で作業を行うことができた。他の小さな樹木についても同様の作業を指示をした。

写真277 樹木①撤去作業風景(南より)



圃場西側のフェンス沿いに側溝と桝を設置するため、 北側から掘削を行った。地表下0.6~0.65mで包含層を検 出した。包含層からは、須恵器片・土師器片が出土した。 北から一つ目の桝設置部分では、地表下0.6mで包含層 を検出したため、精査を行い遺構がないことを確認して 掘り下げた. 0.35m下で遺構面が検出され、南半で住居 址か溝と思われる遺構のプランを確認した. 工事はこれ 以上の掘削を伴わないため、遺構はこのまま現状保存と した.

写真278 側溝掘削1スパン掘削状況(南より)



写真279 桝①遺構検出状況(南より)



南側にいくにつれ、現地表面が低くなるため二つ目の 桝の部分では地表下0.6mで遺構面を検出した。包含層 は削平され厚さは5cm程度と非常に薄くなっている。こ こでは遺構は検出されなかった。これより南側では、攪 乱が多く、遺構面を検出しても、遺構は確認されなかっ た、南端の桝については、既設のものがあったため新設 は中止とした。

写真280 溝掘削11スパン作業風景(南より)



写真281 溝掘削11スパン掘削状況(南より)



9. (黒髪南) 理学部3号館スロープ取設工事に伴う立会調査(1137)

<調査期間>

2012年2月20日

<調査面積>

115.60m²

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

理学部3号館西北に位置する出入り口に、スロープを 設置する工事である。

スロープ設置位置の中心に、縦軸にそってトレンチを 設定し、地表下0.3mまで掘削をしたが、埋土内に収まっ た、遺構・遺物の検出はない、階段上の設置部分も、コ ンクリートをはつったのみである。

配水管設置部分は、既設の桝に繋ぎこまれている既設 管の上に乗せるのみである。表土を0.1m程度除去した ところで、既設管を確認した、埋土内に収まる、遺構・ 遺物の検出はない。

写真282 作業風景(南西より)



写真283 スロープ本体トレンチ掘削状況(南より)



写真284 排水管設置部掘削状況(北東より)



Ⅱ-3 本荘北地区

(図9参照)

1. (本荘北) 臨床医学教育研究センター (仮称) 整備事業に伴う試掘・発掘調査 (1104)

<調査期間>

試掘調査 2011年4月6日

発掘調査 2011年6月21日~9月22日

<調査面積>

試掘調査 31.2m

発掘調査 503.9m

<調査員>

大坪志子・石丸恵利子.

<調査概要・結果>

旧こばと保育園跡地の駐車場に臨床医学教育研究セン ター (仮称) を新設する工事である. 西側に隣接する医 学部基礎研究棟建設工事に伴う発掘調査 (9601地点) の 際、調査区の東端に、大学敷地として整備される前に存 在した仙崇寺の墓が地表下1m以下にはまだ残されてい たことが確認されており、 さらに東にも広がっている可 能性が高いと判断されたため試掘を行った。調査予定地 の中央部にT字にトレンチを2本設定して掘削を行った. その結果. 北部寄り東西方向のトレンチ1 (1.8×14m) では、トレンチ全体の4~5割程度の範囲で古代の遺物 包含層を確認した。 トレンチ1の南に南北方向に設定し たトレンチ2では、トレンチ北側に僅かに古代の包含層 を確認したのみであった。これらの結果から、古代の遺 物包含層及び遺構面は調査区北部に遺存しており、面積 としては全体の1/4程度と想定した。また、発掘調査を 実施する必要を確認した.

調査は、計画建物周辺の外灯、排水桝、ハンドホール新設などの計画建物周辺整備のための掘削から開始した、計画建物北側の外灯新設部分で0.7m掘り下げたところで火葬骨の入った壷を2点確認した。これ以上掘り下げる必要がないことから壷の取り上げのみ行った。また北西隅から西に延びる排水桝取り替えのための掘削箇所では、0.7m掘り下げたところで一部黒褐色の古代の包含層を一部確認したが、これ以上掘削する必要はないため、現状保存とした。遺物・遺構は検出していない。また、北西隅ハンドホール新設(地表下2.0m)、東側外灯新設(地表下1.4m)、南西隅外灯撤去(地表下1.0m)、西側排水管新設部分(地表下0.7m)においても、いずれも埋土で遺構・遺物は確認できなかった。

計画建物建設部分における発掘調査は、1次掘削により調査区全体を厚さ0.6~0.8mを重機で掘削したのちに、

手掘りによる調査を開始した。南北方向に4つのグリットに分けて北側から調査を行ったが、地表下0.8m以下には調査区全面に近代墓が広がっていることが明らかとなった。甕棺、木棺、桶棺などの埋葬主体が確認され、埋葬関連施設は約430基を数えた。埋葬の平面プランは方形や長方形であり、埋葬姿勢には座位、側臥、仰臥を確認することができた。また副葬品として、寛永通宝や天保通宝などの銭貨や泥面子などが多く出土し、幕末から明治期においての埋葬様式を知るうえで貴重な資料を得ることができた。さらにその下層では、大半が墓壙によって破壊されていたが、一部で古代の住居址やピットを確認することができた。

写真285 遺跡遠景(南より)



写真286 ST-11子ども埋葬検出状況(南より)

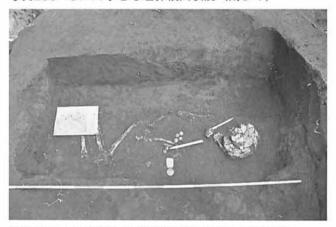


写真287 ST132.144坐位埋葬検出状況(南より)



図9 本荘北地区における調査地点配置図 (1/2000)

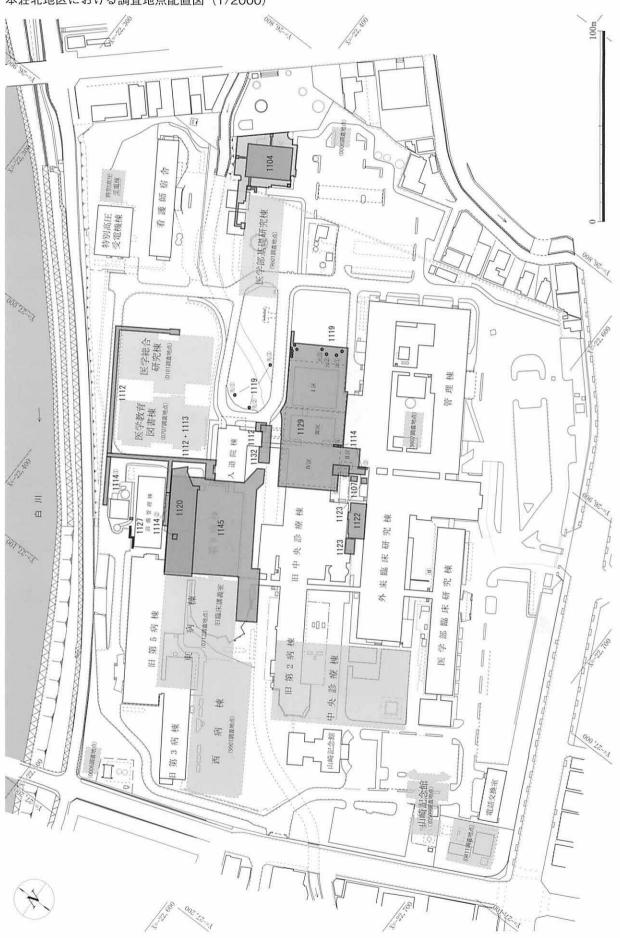


写真288 ST-287仰臥埋葬検出状況(西より)



写真289 ST149副葬品出土状況(南西より)



写真290 住居址2完掘後(南より)



写真291 住居址3検出状況(北東より)



写真292 調査区南東墓道部分遠景(南より)



2. (医病) 中庭掘削工事に伴う立会調査 (1107)

<調査期間>

2011年7月5日

<調査面積>

8.9m2

<調査員>

大坪志子.

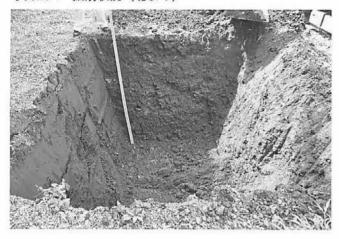
<調査概要・結果>

附属病院の中庭で陥没箇所が発見されたため、原因究明のために掘削を行った。陥没箇所を中心に3.3×2.7mの範囲を地表下2.2mまで掘削した。近現代の埋土であったが、陥没の原因となるような異常は発見されなかった。さらに掘削を行い2.2mで丁度地山を検出したが、遺構はなく掘削もこれ以上は行わなかった。出土遺物もない。

写真293 作業風景(北より)



写真294 掘削状況(北より)



3. (医病) 基幹・環境整備(第6病棟等支障配線・ 配管替え)機械設備工事に伴う立会・発掘調 査(1112)

<調査期間>

立会調査:2011年9月21日・22日・29日

10月4日 · 10月11日 · 10月26日

発掘調査: 2011年9月26日~29日·10月27日

28日・31日

<調査面積>

500m²

<調査員>

大坪志子・石丸恵利子.

<調査概要・結果>

総合研究棟・図書講義棟の北側を東西に通るルートを 東側から掘削した。幅0.6m,深さ0.8mで掘削したが、 埋土内であり遺構・遺物の検出はなかった。西端で一部 遺構面を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。

写真295 総合研究棟・図書講義棟北側掘削状況 (東より)



総合研究棟東側を南北に通るルートを北側から掘削した。研究棟東側出入口付近で約3mの間で遺構面とピットを検出した。これ以上の掘削は必要ないため、現状保存とした。

写真296 総合研究棟東側掘削状況(北より)



写真297 遺構確認状況(北より)



図書講義棟西側を南北に通るルートでは、北側約30mは電気配線があり、新たな配管はその上を通すこととした。南側約20mは所定の深さまでは埋土であった。中央約17mの間で良好な包含層を確認したため、熊本市文化振興課に許可を得て、発掘調査に切り替えた。調査の結果、竪穴住居址が2軒とピットが約50個検出された。出土遺物は土師器・須恵器である。設備管理棟南東隅付近で、西側へ分岐するルートの一部をあわせて調査した。精査の結果、ピット2つを検出した。西側のインターロッキング部分は掘削深度が浅くなり、埋土内に収まった。

写真298 既設配線確認状況(北より)



写真299 調査区全景(北より)



写真300 管理棟南側ガス管部掘削状況(東より)



写真301 管理棟南側配管東端部遺構検出状況(東より)



入退院棟西側の給水管切替工事は、既設管の下にはさらに配管が通っており、掘り方内で作業が可能であることを確認した。新規配管部分についても、包含層上面で掘削を止め、以下を保存とした。

写真302 給水管切替既設管確認状況(北より)



写真303 給水管切替掘削状況(東より)



入退院棟北側の排水漕新設部分では、南北7m. 東西2.3mの範囲を掘削した。南側から南北幅1.8m部分は地表下0.55m, さらに北側に幅2.2m部分は地表下1.5mまで掘削して終了し、もっとも北側部分は幅1.3mでヒューム管を確認した深さ(地表下1.6m)までで掘削を終了した。これらの部分はいずれも現代の攪乱層であった。ヒューム管の南から幅1.7m部分は、排水槽を埋設するため2.5mまで掘り下げる必要があり、さらに掘削した結果、地表下2.2mで地山を確認し、溝状の遺構を確認したため発掘調査を実施した。

その結果、南北方向に延びる深さ0.65mの溝状遺構の 西側の立ち上がりを確認した、掘削範囲が狭く、東側の 立ち上がりは調査区外に相当し、南北方向にも広がると 考えられるが、溝かどうかの判断はできなかった。

写真304 排水槽新設部掘削風景(北より)



写真305 溝状遺構掘り上げ状況 (東より)



4. (医病) 基幹・環境整備(第6病棟等支障配線・ 配管替え) 工事に伴う立会・発掘調査(1113)

<調査期間>

2011年9月21日

<調査面積>

264.83m²

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

本件は電気配線を目的とした工事であるが、配線ルートが1112調査地点と同じため、同一範囲内で工事を行うこととした。このため、調査成果は1112と同様である。

5. (医病) 基幹・環境整備(第6病棟等支障配線・ 配管替え)機械設備工事その2に伴う立会・ 発掘調査(1114)

<調査期間>

立会調查:2011年10月11 · 17 · 18日, 11月1 · 11日

発掘調査: 2011年10月12·13日

<調査面積>

184.81 m

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

①地点:自家発電機室の北側を東西に掘削する部分 (東側で1112調査地点と接続)では、西側半分では地山 を検出したが遺構は検出されなかった。東半分ではピッ トや住居址と思われる遺構プランが確認されたため、本 調査に切り替えた、調査の結果、近現代のものと思われ る溝が1条と、古代の住居址と思われる掘り込み、ピッ トが検出された、

写真306 1114①調査区全景(東より)



②地点:設備管理棟南側のガス管敷設箇所においては、 1112調査地点の続きとなるが、掘削深度が浅く埋土内で 収まった、切断部分においては既設管を検出し、作業に 必要な範囲および深さまでを掘削したが、埋土内で収 まった。

写真307 管理棟南ガス管掘削状況 (東より)



③地点:ガス管の切替のために既設管を探す掘削を 行った。旧中央診療棟と外来等を繋ぐ廊下の西側地点で は、東側の廊下沿いに6.7×1.8mの範囲で掘削を行い、 既設管を出すとともに、切替作業が行える場所の確認と 必要分の掘削を行った、地表下0.7mまで掘削したが、 埋土内であり遺構・遺物の検出はなかった。

写真308 ③地点作業風景(北西より)



写真309 ③地点掘削状況(北より)



④地点: MRI 装置棟南側地点でも、ガス管の切替の ために既設管を探す掘削を行った. 地表下0.6mまで掘 削したが、すべて埋土内であり遺構・遺物の検出はな かった.

写真310 ④地点作業風景(東より)



写真311 ④地点掘削状況(南より)



6. (医病) 基幹・環境整備(旧中央診療棟等とり こわしに伴う支障樹木移植等) 工事に伴う立 会調査(1119)

<調査期間>

2011年11月22日 · 12月14日 2012年1月17日 · 18日

<調査面積>

407.0 m

<調査員>

大坪志子・石丸恵利子.

<調査概要・結果>

移植先から掘削を開始した。旧救急棟前の①地点では 1.3×1.4mの範囲を地表下0.8mまで掘削した。中央には 鉄管が通っており、これ以上の掘削はない。埋土内である。②地点では1.7×1.7mの範囲を地表下0.9mまで掘削した。0.8mまで埋土で、以下は砂層であった。遺構・遺物の検出はない。旧救急棟前広場の東端に位置する③地点は、地下の貯水槽にあたってしまうため、この地点での掘削は中止となった。

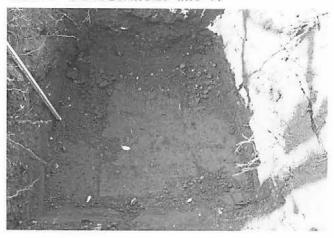
写真312 移植先①作業風景(東より)



写真313 移植先①掘削状況(南より)



写真314 移植先②掘削状況(東より)



樹木移植元は、それぞれ幹の周囲を幅0.7m、地表下 0.7mまで掘削した。いずれも埋土内で、遺構・遺物の 検出はない。移植予定3本のうち、1本は移植先を掘削した結果支障物が発見され、移植不可能となったため、一旦中止とした。新たに移植先となった場所③地点は、中庭南側中央の地下暗渠施設の南側で、1.5×1.5mの範囲を地表下0.7mまで掘削した。範囲内には鉄管やコンリートガラなどの支障物が多く埋設された埋土であり、遺構・遺物ともに確認されなかった。

移植元は、樹木周辺の3.4×3.9m内で幅0.7m、地表下 0.9mで掘削した、埋土にはレンガやコンクリート塊を 多く含み、一部で包含層の上面を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。これ以上の掘削は行わなずとも 樹木の根巻きが可能との判断から、慎重に工事をするよう指示して立会を終了した。

写真315 移植元①作業風景(南東より)



写真316 移植元①掘削状況(西より)



写真317 移植先③掘削状況(西より)



写真318 移植元③掘削状況(南より)



写真319 移植元③掘削状況(北より)



昨年実施していなかった樹木撤去工事を実施したものである。撤去予定のMRI-CT棟の北東隅の6本と、南東隅の1本を撤去するため、各樹木の周辺を深さ0.3~0.7mまで掘削した。いずれも埋土内であり、遺構・遺物は確認できなかった

写真320 樹木⑧撤去後(北東より)



写真321 樹木⑨撤去後(南東より)



7. (医病) 基幹・環境整備(第6病棟北側平屋部 とりこわし) 工事に伴う立会調査(1120)

<調査期間>

2011年11月24日~25日

<調査面積>

728m²

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

第6病棟北側に付帯している平屋建物とスロープを撤去する工事である。

スロープについては、周辺と中央にトレンチを入れて 基礎の底部まで深さ確認のための掘削を行った.

いずれの場所でも、基礎部位部までは埋土内であった ため、業者には掘削は基礎底部までで周囲には極力掘削 を広げないよう慎重に取り壊すように指導した.

写真322 スロープ中央作業風景(東より)



写真323 スロープ南側掘削状況 (東より)



写真324 平屋脇スローブ北側掘削状況(北より)



平屋については、建物内部の床にトレンチを入れた. もともと盛土の上に建てられており、現状地盤より上位 で取り壊し工事を行われることを確認した、遺構・遺物 の検出はない。

写真325 平屋内試掘作業風景(南より)



写真326 平屋内試掘掘削状況(南より)



8. (医病) 基幹・環境整備(血液照射管理室とり こわし) 工事に伴う立会調査(1122)

<調査期間>

2011年12月5日

<調査面積>

165.5 m

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

建物北西部の階段脇から掘削を開始した。0.7m程度 掘削したところ、建物基礎の底が確認できた。この深さ までは埋土である。階段南側、および建物東側でも同様 であったため、これより上位で作業するよう指示した。 建物北側にある大型桝については、地表下1.5mまで掘 削を行い、その後は大型重機で引き抜いた、埋土内で作 業ができたため、残り1基の桝についても同様に撤去す るよう指示した。遺構・遺物の検出はない。

写真327 作業風景(北西より)



写真328 建物西側試掘状況(西より)



9. (医病) 基幹・環境整備(中庭支障樹木撤去) 工事に伴う立会調査(1123)

<調査期間>

2011年12月5日 2012年2月3日

<調査面積>

21.6m2

<調査員>

大坪志子·石丸恵利子.

<調査概要・結果>

血液照射管理室西側の樹木撤去に立ち会った。樹木の 周囲3×3m程の範囲を、一旦地表下0.6mまで掘削し 撤去できる範囲の株・樹根を撤去した。地中に深く入っ ている根については、樹木北側をさらに地表下1.7mま で掘削した。ちょうどこの掘削深度で遺構面上面を確認 したが、遺構は検出されなかった。木の根は重機で引き 抜いた。

旧中央診療棟1 (1129調査ではIV区とした部分)の南側 (Ⅱ区とした西側)の2本の樹木撤去をおこなった. 北側樹木は、樹木周辺を2.7×3.05mの範囲を0.6mまで 掘削し、南側樹木は、2.4×1.8mの範囲を0.6m掘削して 撤去した、いずれも埋土内で、遺物は出土していない.

写真329 作業風景(北より)



写真330 抜根後状況(東より)



写真331 旧中央診療棟南樹木①撤去後(北より)



写真332 旧中央診療棟南樹木②撤去後(南より)



10. (医病) 設備管理棟ボイラー室ドレン配管他改 修工事に伴う立会調査 (1127)

<調査期間>

2012年1月12日

<調査面積>

 $8.1\,\mathrm{m}^2$

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

ボイラー室ドレン配管の詰まりおよび老朽化に伴う工事である. 共同溝裏 (南側) からボイラー室土間の北側,地下環水槽にかけて,幅0.6mで掘削を実施した.共同溝裏 (共同溝とボイラー室間)の5.0×0.6mの掘削範囲内には、雨水や汚水管、ガス管などが埋設されていた.改修される廃水管下まで地表下0.75mまで掘削したが、埋土はすべて前述の設置工事の山砂による埋め土であった.

共同溝東側においても、1.8×0.6m、地表下0.65m掘削したが、埋土内で遺構・遺物は確認されなかった。また、土間の北側においても、6.0×0.6mの掘削範囲内に

使用済の鋼管やガス管、水道管が埋設しており、地表下 0.7mの地点で、一部包含層を確認した、遺構は検出されなかったが、土師器片を数点確認した、最後に、地下環水槽東側の配管の接続部改修のため、0.8×0.4mの範囲を地表下0.4mまで掘削した。この状態で改修工事は可能であることから、これ以上の掘削は行わなかった、埋土内にとどまり、遺構・遺物は確認されなかった。

写真333 作業風景(南東より)



写真334 土間北側掘削後(東より)



写真335 地下環水槽東側掘削後(東より)



写真336 共同溝裏掘削後(東より)



11. (医病) 基幹・環境整備(旧中央診療棟とり こわし) 工事に伴う立会・発掘調査(1129)

<調査期間>

2012年1月17日 · 18日 · 20日 2012年2月3日 · 6日 · 7日 · 16日 · 17日 · 20日 · 21日 · 27日

<調査面積>

716.0m²

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

建物撤去および周辺整備に伴う工事である。建物基礎 の撤去、樹木・フェンス支柱・縁石・アスファルト等の 撤去に伴い立会をおこなった。建物ごとに区分けして実 施した。

[IX]

MRI-CT 装置棟およびその周辺を I 区とした。建物基礎外周に沿って、北側・東側・南側の 3 方面を幅0.9~1.0mで掘削した。捨てコン底部が確認できる高さ(地表から捨コン下までが1.05m)まで掘り進めた。掘削範囲は、いずれの場所も建物基礎を建設するときの埋土内であった。建物南西部の掘削範囲内で、樹木移植の際(1119調査地点:本調査区の東側芝地)に確認されたコンクリートとレンガの塊と同じ状態のものが確認された、東方の芝地部分から続くものと考えられるが、西側は建物基礎で切断されている。遺構・遺物は確認されなかった。

建物敷地外周を廻るフェンスの撤去は、土壌の掘削を 行わず、重機によりフェンス支柱をまっすぐ上に抜き取 る方法で行われたため、掘削は埋土内に収まり、文化財 への影響はない、また、フェンスに沿った低木撤去にお いても、フェンス支柱と同様に重機で抜き取って作業し た. 根は深く伸びておらず、掘削はいずれも埋土内で あった.

また、南側の左右両門扉撤去においても、門扉の基礎 (0.5m四方×0.7m深) はフェンス (0.2m四方×0.4m深) よりも大きかったが、重機による引き抜きで作業を終了した。周辺の土壌はやや盛り上がったが、周辺の土壌はいずれも埋土であった。建物東の芝地の縁に敷かれた縁石撤去では、0.5×2.5m四方で確認したところ、縁石下は厚さ10cmの捨コン、バラスが敷き詰められていたので、工事による文化財への影響はないと判断した。いずれの場所においても遺構・遺物は確認されなかった。

建物基礎撤去においては、その一部でコンクリート基 礎をはがした状態でその下層の状態を確認した、捨コン の下には砂利が5cm程度敷かれており、この砂利を残し た状態で埋め戻し、これ以上の掘削は必要ないため、慎 重に工事をするよう指示して立会を終了した。ただし、 今後地表下1.1m以上の掘削工事が必要な場合は、調査 が必要となるであろう。

写真337 I区基礎外周北側掘削後(西より)



写真338 Ι区基礎外周東側南半部掘削後(北より)



写真339 Ι区基礎外周南側東半部掘削後(西より)



写真340 Ι区基礎外周東側北半部掘削後(南より)



写真341 Ι区基礎外周南側西半部掘削後(東より)



写真342 Ι区低木抜き取り状況(南東より)



写真343 I区門扉西側基礎抜き取り後(北東より)



写真344 I区基礎下確認状況(南東より)



[IX]

旧中央診療棟─1の南側の基礎2本の撤去工事の場所をⅡ区とした、基礎内側(建物内部)はすでに床下1m掘り込まれている。南側より、梁に沿っては幅0.7m×2.0mの範囲を0.3m(地表下1.3m)掘削した。この地点で梁の下に敷かれたバラスや砂利が確認でき、これ以上掘削せず内側に倒して撤去するため、文化財への影響はないと判断される。

基礎周辺は、梁から1.5m×南北長さ9.5mの範囲を掘削した、基礎間にはフューム管が埋設(上面で地表下2.0 m)されており、わずかに0.1~0.2mの幅のみ地表下1.4 m地点で地山層を確認した、遺物は確認されなかった、基礎下には捨コンが敷かれており(捨コン下場が地表下2.54m:これより下は地山の下で灰緑砂層)、地山を掘り抜いている。

南側基礎(幅1.8m. 北側も同様)は、1.5×2.8mの範囲が基礎構築のための掘方であり、捨コンは基礎端から南側に0.3m、東側に0.4m、北側に0.4mの範囲に確認できる。北側基礎は、捨コン幅は南が0.53m、東が0.45m、北が0.15mである。北側については、掘り方内に重機のバケットが入らないため地山を掘削することになり、この部分についても文化財を調査したが、遺構・遺物は検

出されなかった(地表下1.3m). その後. さらに下への 掘削を許可して作業をつづけた. 捨コンは必要な範囲の 掘削後にそのまま流しこんだ状態であるため、捨コンと 地山の間がほとんどない. 捨コン下はすでに地山下層 (その下の砂層)に達しているため、文化財の残存はな いと判断される.

本立会においては、建物内部は現状で掘削を行わないことから未調査である。ただし、壁面の状況から、地表下1.2m以上の掘削の場合は地山に達する可能性があり、調査を要することとなるであろう。

写真345 Ⅱ区掘削風景(東より)



写真346 II 区基礎間地山残存状況(北東より)



写真347 Ⅱ区基礎捨てコン上掘削後(南より)



写真348 Ⅱ区北側基礎外側地山検出状況(北より)



【Ⅲ区】

旧中央診療棟-2の基礎周辺撤去工事の場所をⅢ区とした.建物外周部の南側は、0.9m幅で建物上屋壁面に沿って13.0m掘削し、地表下1.7mで捨コン上部を確認した。0.9m幅ではすべて埋土であった。東側については、建物上屋の壁面から0.8mは基礎の外端に達せず、さらに外側に0.8m(計1.6m幅)の部分まで広げた範囲を掘削した結果、地表下1.9mで捨コンとその下の砕石を確認した。北側については、1.2×13.0mの範囲を地表下1.4mまで掘削した。建物外周部においては、掘削したいずれの場所においても遺物・遺構は確認されなかった。

建物内部については、本棟が MRI-CT 装置棟同様に 総掘りによる平面状の一体型基礎構築であるため、一部 2.0×1.5mの範囲でのみ捨コンおよび砕石の下に地山層 を確認した。この面において遺物・遺構は確認できな かった。この高さは地表下1.8mに相当し、本来の地山 上部はすでに削平を受けている可能性が高い。なお、捨 コン除去後これ以上の掘削は行わないことから、現状保 存とした。

また、建物南側の樹木4本の撤去作業もおこなわれた. 西から 1.3×1.6 mの範囲を深さ0.3m、 1.5×1.5 mの範囲を深さ0.3m、 3.6×2.3 mの範囲を深さ0.6m、 1.5×2.1 mの範囲を深さ0.5mまで掘削して樹木を撤去した。いずれも埋土内であり、遺物・遺構は確認されていない。

なお、本区においても、地表下1.5mの部分に地山層 が残存するのを南側セクションで確認したため、該当範 囲の掘削を要する際は注意が必要である。

写真349 Ⅲ区建物外周南側掘削後東寄り(西より)



写真350 Ⅲ区樹木撤去後(南東より)



写真351 Ⅲ区建物外周北側掘削後(東より)



写真352 Ⅲ区建物底部検出面(西より)



[NX]

旧中央診療棟-1の基礎周辺撤去工事の場所をN区とした。旧中央診療棟-1と旧中央診療棟-2の間を南側から掘削した結果、基礎間は0.6m程しかなく、旧中央診療棟-2側は地表下1.75mですでに上部が削平されていると考えられる地山上面(捨コン下の砕石下部分)を確認し、旧中央診療棟-1側はさらに深く掘削されていることを確認した。また、基礎構築時の余堀りも非常に狭く、狭いところでは0.2m程度しかないことが確認できた。旧中央診療棟-1は、独立基礎のフーチングにより構築されているため、フーチング間は必要以上に掘削されておらず、文化財が残存している可能性が高いことも分かった。

そこから続けて、旧中央診療棟―1の南東隅の基礎撤去のために周辺を掘削した結果、本工事で残す南側の基礎との間には包含層は残存していなかったが、西側については基礎間に地山層を確認することが出来た。北から2番目の基礎と3番目の基礎間においては、すべて埋土であり、そこから南北方向に延びる、東から1番目と2番目の基礎間および2番目と3番目の基礎間もすべて埋土であった、遺物は出土していない。

確認の結果.最も北側の基礎と2番目の基礎の間と, 北から3番目の基礎と一番南の基礎間(防火水槽が設置 されていた東側以外)および基礎南側(建物外周部)で 地山層の残存が確認されたため,発掘調査を実施した. 調査の結果,溝および複数の土坑やピットを確認するこ とが出来た.古代土師器,須恵器,石製品などが出土している.

写真353 IV区西側スパン掘削風景(北東より)



写真354 N区南東隅および中央基礎間の地山確認面(南より)



写真355 IV区西側スパン中央部分掘削後(南より)



写真356 IV区北東隅から中央基礎間の南北掘削後(北より)



写真357 IV区北側スパン完掘後(東より)



写真358 IV区建物外周南側スパンの西側掘削後(南より)



写真359 Ⅳ区建物外周北側掘削後(西より)



写真360 IV区建物外周北側スパンの東側掘削後(南西より)



12. (医病) 基幹・環境整備(渡り廊下 C とりこわし) 工事に伴う立会調査(1132)

<調査期間>

2012年1月31日 · 2月1日 · 2月6日

<調査面積>

14.6m

<調査員>

石丸惠利子.

<調査概要・結果>

旧救急棟から旧中央診療棟-2をつなぐ渡り廊下を撤去する工事である。廊下西側のスロープ部分の周りを掘削し、基礎下の高さを確認。南側は暗渠(共同溝)施設に接しているため掘削は行わなかった。北側は8.2×0.9 mの範囲を地表下0.5mまで掘削し、西側は4.2×1.0mの範囲を地表下0.5mまで掘削した。いずれも埋土内で、遺物は出土していない。スロープ全体は盛土の上に設置してあるため。周りの掘削により土壌を確認したことで、地下の文化財への影響はないと判断した。また、スロープ北西に埋設したコンクリート基礎(0.9×1.9×0.5m、用途不明)の撤去においては、基礎北西側を2.7×1.0mの範囲を地表下0.6mまで、南西側を2.4×0.9mの範囲を地表下0.5mまでを掘削して基礎の底部を確認した。あとは重機により引き上げて撤去した。いずれも埋土内に収まり、遺物は出土していない。

廊下の基礎撤去の工事においては、基礎の北側を1.3 ×3.5mの範囲を廊下上場から1.75m(地表下0.75m)掘削し、基礎の下場を確認した、基礎下には捨コンが敷かれており、基礎撤去後はこれ以上の掘削を行わないが、基礎下に杭を確認した。杭は周りの掘削を行わず打ち込みによる施工であり、南側の共同溝の補強のためと考えられる。杭は抜き取らずそのまま埋めて工事を終了するため、本工事による文化財への影響はない、遺物は出土していない。

写真361 スロープ北側掘削後(西より)



写真362 不明基礎掘削後(南より)



写真363 廊下 C 掘削風景 (東より)



写真364 廊下 C 掘削後 (西より)



13. (医病) 基幹・環境整備(第6病棟とりこわし) 工事に伴う立会・発掘調査(1145)

<調査期間>

立会調查: 2012年3月26日 · 27日

8月21日~23日

発掘調査:2012年4月2日·4日

<調査面積> 427.30㎡

<調査員>

石丸惠利子.

<調査概要・結果>

病院地区における基幹・環境整備(第6病棟とりこわし)に係る工事である。第6病棟北側西半分に隣接する 平屋建物の基礎撤去部をI区、その東側の共同溝と給気 塔等撤去部をII区とした。また、建物南側の配管・桝等 撤去場所および南西部の臨床講義棟地下躰体撤去箇所を II区として立会を実施した。

[IX]

平屋建物の北側基礎の東から6本および南東隅1本の基礎撤去の掘削においては、建物外周部(基礎北側)を幅1.2mで撤去に必要な深さまで掘削した、地表下1.2mで捨コン下面に達し、東から4本目と5本目間の同レベルで地山の残存を確認した。また、東端基礎の東外周部の掘削においては、幅1.1mで深さ1.4mまで掘削した結果、掘削外に地山を確認したが、工事のための掘削は掘り方内で収まり、これ以上東側への掘削は行わないことから現状保存とした。これより東側では地表下1.3mには地山が残存する可能性はあるが、深さ2.0mの共同溝が近接しているため、良好な文化財の残存は期待できない、それ以外の部分ではフューム管や鋼管などが埋設しており、基礎撤去に必要な深さにおいてはすべて埋土内であった。いずれの場所でも遺物は出土していない。

また、建物基礎内側においては、幅1.2mで深さ1.2~1.4mまで掘削した結果、基礎内側(建物内部側)は幅2.5mまで床ピットが張られており、改めて床ピット内側を幅1.3mで掘削を開始した。掘削箇所の西端には水槽が設置されており、その下面では1.5×1.0mの範囲に地山の残存を確認することができた。掘削範囲の西端0.3m幅のみで地山層の上面に黒褐色土層の残存(斜めに削られた状態でその上面が地表下1.1m)が確認されたが、遺物は含まれていなかった。それ以東においては、床ピット撤去に必要分の捨コン下(地表下1.45m)まで掘削した。いずれも埋土内であった。

また、南東隅の基礎周りの確認においては、建物外側

の東側部分を幅 $1.2m \times$ 南 $\sim 3.4m$ の範囲を深さ2.0mまで、また内側の西側部分は幅 $1.2 \times 4.5m$ の範囲(第6 病棟北端から3.0m)を深さ $1.7 \sim 2.0m$ まで掘削した(トレンチ①)、いずれも埋土であった、第6 病棟は地下 1 階まであり、建築の際、法面をつけて土壌を削っている可能性があり、ここより南側(建物側)はすべて埋土内の可能性が高い、さらに、東から 3 本目辺りで南側に幅 $1.0 \times 4.3m$ (第6 病棟北端から3.5m)の範囲を深さ $1.7 \sim 2.0m$ まで掘削したが、この地点でもすべてが埋土内であった(トレンチ②)、よって、トレンチ①と②間はすべて埋土と判断される。

前述の床ピットを撤去したのち、西端から7.0mまで、別の基礎の残存を確認、西端から6.7mに、幅1.3mで地表下1.3~1.5mに地山の残存を確認し、ピット (0.32×0.26×深0.26m)を1基検出した、一部、黒砂層と円礫が集中する場所があったが、機能は不明である。東西3.7m南北残存幅0.7m(南端は未掘削部分につづく)で確認した、遺物は含まず、それ以外の部分はいずれも埋土であった。

写真365 Ι区掘削風景(東より)



写真366 I区建物北側外周掘削後(西より)



写真367 I区建物内側中央部分掘削後(北より)



写真368 Ι区梁内部掘削後(北より)



[IX]

I区の建物基礎東端から共同溝①(東西方向:共同溝 ①, 南北方向共同溝②) が延びており、その両側(北側 と南側)の掘削を開始した. 北側は、水道管や鋼管の埋 設が認められたが、すべて現在は未使用のものであり、 埋土内で撤去可であった。南側は1.0~1.3mの幅で掘削 し、地表下1.8mで捨コンに達し、この状態で撤去を行う、 いずれも埋土内で、遺物は出土していない、給気塔周り は地表下3mまで掘削して建設されており、その周りを 基礎下の高さまで掘削したが、包含層は確認されなかっ た. また、共同溝②の両側については、西側は1.0m幅 を地表下1.8mで捨コンを確認した。共同溝の東側には ハンドホールがあり、撤去のための掘削をおこなった。 その結果、地表下0.9~1.0mで厚さ0.15mほどのコンク リートの床が検出された. 西端は、共同溝②の掘方まで で終わるが、東側にはさらに延びている。これはすべて 撤去範囲となっているため、これより東側の掘削が必要 である. 申請範囲内の地表下4.0mまで掘削する場所は. 立会が必要である. コンクリート貼り床を撤去すると. その下に地表下1.2~1.3mで地山面を確認し、不整形の

土坑より土師器や須恵器片が出土したため, 発掘調査へ の切り替えを行うことにした.

地山検出面で遺構の調査を実施した。掘削の結果、土坑2基(土坑①・②)、溝1条(溝①)を確認した。土坑①からは、甑の取手、須恵器片、土師器片等の土器片が出土した。溝①、土坑②には遺物はほとんど含まれていなかった。

写真369 II 区掘削風景 (東より)



写真370 II区共同溝南側掘削後(東より)



写真371 II 区給気塔西側掘削後(北西より)



写真372 Ⅱ区発掘調査区完掘後(南より)



【Ⅲ区】

第6病棟南側外周部に沿って埋設されている配管・桝の撤去においては、建物南側では長さ約46m、幅1.2~3.6mの範囲を、深さ0.8~2.0mで掘削した、建物東側では、長さ約6m、幅約3mの範囲を深さ0.9~1.9mで掘削した。配管はいずれも埋土内で撤去可能であった。さらに建物南東方向に延びる部分では、長さ約7m、幅約3m、深さ1.1~1.9mで掘削した結果、深く埋設された配管下の長さ6.4m、幅0.95の範囲において、地表下1.8~1.9mの部分に地山を確認した。さらに攪乱層が深く掘り込まれた部分もあるが、配管新設の掘削面であると考えられる。明確な遺構は検出されず、遺物も出土していない、ただし、地山検出面の中央西側に、薄く砂層を確認することができたが、上部はすべて埋土であったことや遺物を含まないことから、性格や時期は不明である。

第6病棟南西側の講義棟残置基礎上部の撤去においては、上部のみ約1.5mを取り除くため、基礎と地中梁の南側において長さ約12.5m、幅1.0mの範囲を、深さ1.5~2.1mまで掘削した、いずれも埋土内であり、遺構・遺物は出土していない。

写真373 Ⅲ区配管・桝撤去東寄り掘削風景(西より)



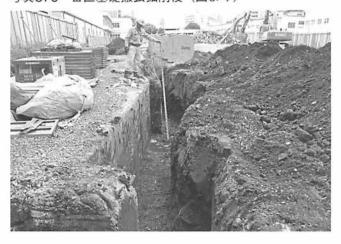
写真374 Ⅲ区配管・桝撤去東端掘削後(南東より)



写真375 Ⅲ区配管・桝撤去西寄り掘削後(東より)



写真376 Ⅲ区基礎撤去掘削後(西より)



Ⅱ-4 本荘中地区

(図10参照)

1. (本荘中) 医学部基礎研究棟 A 棟とりこわし支 障配管替工事に伴う立会調査(1102)

<調査期間>

2011年5月30日

<調査面積>

62m (8.2m)

<調査員>

大坪志子・石丸恵利子.

<調査概要・結果>

生命資源研究・支援センター 動物資源開発研究施設本館南ガスメーターと新館東側の既設管を繋ぐ工事である。新館側から道路横断部分では、幅0.4m、深さ0.7mで掘削を行った。以西では、多種の既設管がありそれらの回避のため掘削深度を0.4mと浅くした。いずれも埋土内であり、遺構・遺物の検出はない。

写真377 作業風景 (研究施設新館側) (東より)



写真378 本館南側掘削状況(西より)



図10 本荘中・南地区における調査地点配置図 (1/2000) 80-22,600 X-22, 600 80 0 1143 生命資源研究・支援センター 1106 医学部 講義棟 エイズ学研究センター。 生命資源研究・支援セチー 動物資調開発研究施設 (9801調査地点) 1130 (日棟) 102 1117 1130 (D棟) 旧医学部基礎研究棟(B棟) 生命資源研究·支援七年 和総合施設、 遺伝子実験施設 (9501両政地点) 1143 発生医学 研究センタ HRI株 (MONGON) \$ 22,700 2 □ 医 等 第 基礎研究機 (C 棟) 共用実験棟 1=22,800 楷樹会前 体育崩 1=23,000 8=22,900 保健学科 100m

第11章 調査の記録

写真379 道路横断部掘削状況(東より)



2. (本荘中) 医学部基礎研究棟 (A棟) とりこわ し工事に伴う立会調査・発掘調査 (1106)

<調査期間>

2011年6月24日

10月17日~19日

11月1日 · 4日 · 10日 · 21日 · 24日 · 25日 · 28日 12月9日 · 12~14日

<調査面積>

1556.04m²

<調査員>

大坪志子・石丸恵利子.

<調査概要・結果>

【支障樹木】

建物解体に伴い支障となる樹木の撤去工事に立ち会った。樹木はソテツが5本と小木のカイヅカイブキ17本である。ソテツは本体が大きく既設建物から離れた位置にあるため、掘削にあたって包含層や遺構面への影響も予想されたが、根が小さく浅かったため地表下0.8m程度の掘削で抜根が可能であった。カイヅカイブキは建物際に植樹されていたため、掘り方内と予想された。いずれも地表下0.8~1.0mの掘削で抜根できた、遺物・遺構の検出はない。

写真380 ソテツ①作業風景(東より)



写真381 ソテツ①撤去状況(東より)



写真382 小樹③撤去状況(西より)



【建物撤去等】

研究棟の上屋と基礎の撤去および周辺樹木撤去の工事である。撤去がおこなわれる建物は、昭和33年建設で地下室を有するため、地表面から建物基礎の上部までは既に1.6m前後削平されている。当時は、重機を使用せず、手掘りによる掘削を行っていたため、基礎構築に必要ない部分は削平されていない可能性が高い。2003年に行われた本調査区南側の0314調査地点において、基礎間に旧地表面(地山)が残存し、複数の溝やピットが確認されているため、本調査区においても遺物・遺構が残されているで、本調査区においても遺物・遺構が残されている可能性があった。

撤去対象の建物は、コンクリート基礎によって東西方向に26スパン、南北方向には2スパン (2~16スパン目) もしくは3スパン (1・17~26スパン目) で構築されている。東側から順に文化財の確認をおこなった結果、建物内部については、コンクリートの基礎上部の高さから20cm前後下(地表下1.6m前後)で、基礎構築時の掘削埋土の間に部分的に黄褐色の地山層が残存しているのを確認することができた。ただし、11スパン目から19スパンは梁の高さがそれ以外の部分よりさらに0.55m深い位

置に構築されているため、特に北側区画の11~14と17ス パン目ではすでに地山が掘り抜かれている状況であった. 地山が良好に残存する場所(地表下1.6~1.9m間)にお いて、東から2スパン目北側区画、5スパン目北側区画、 6スパン目南側区画、9スパン目北側区画、21スパン目 北側区画、22スパン目北側区画、同南側区画でそれぞれ ピット1基、25スパン目北側区画でピット2基、9スパ ン目南側区画で北西から南東方向の溝1条とピット6基. 10スパン南側区画でピット6基, 20スパン北側区画で北 東から南東方向に延びる溝1条を確認することができた. 溝とピット埋土より須恵器や土師器片が出土している. なお、当初9801調査地点で確認された3号溝の北東方向 への続きが、本調査区の南東隅で確認できるのではと期 待されたが、残念ながら確認することはできなかった. 調査区外(より南方向)に存在するか、基礎構築時に削 平された可能性が指摘できる.

建物基礎外周部においては、東西方向に渡る梁の外側面から建物外側に0.5~1.0mの範囲で、基礎および梁の撤去が可能な深さ(梁上から0.0~0.5m)を掘削した。部分的に狭小な範囲で地山を確認したが、基礎周りはいずれも建物構築時の埋土内で、地山部分に遺構と遺物は確認されなかった。ただし、本調査範囲外の建物から外側に1m以上離れた部分には、地表下1.5m前後で地山層が残存していることが土層セクションで確認できた。なお、建物東側基礎の4支柱すべておよび南側基礎の東から13支柱は、地上部分のみを解体し地表下部分はそのまま残して埋め戻しを行っている。

また、看板移設(11.9㎡)においては、移設先を3.0m×2.0mの範囲を地表下1.0mまで掘削した地点でピットを2基検出し、ピット埋土より、古代須恵器片と土師器片を確認した、建物周辺のアスファルト撤去(11.1㎡)、排水管設置(26.1㎡)、支障樹木撤去(52.5㎡)場所においては、掘削はいずれも埋土内で収まり、遺構・遺物は確認されなかった。

写真383 A 棟基礎南側5~9スパン掘り上げ状況(東より)



写真384 南側東から9・10スパン目ピット掘り上げ(南より)



写真385 建物外周部北側7スパン目(南より)

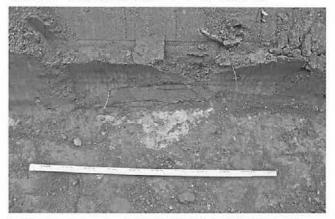


写真386 20スパン北側溝硬化面除去後(南西より)



写真387 20スパン北側発掘風景(北より)



写真388 A棟南東隅 U字溝掘削後(西より)



3. (本荘中) 医学部基礎研究棟とりこわしに伴う 中庭整備に伴う立会調査(1117)

<調査期間>

2011年10月24・25日・12月12日 2012年1月27日

<調査面積>

491.7 m

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

中庭整備に伴う樹木の抜根、車庫の基礎およびアス ファルトの撤去工事である. 撤去樹木はサクラ7本, ケ ヤキ5本、ツバキ1本、シュロ2本、メタセコイヤ8本、 ビワ1本、タイサンボク1本、マキ1本である。サクラ は0.3×5.0m四方、ケヤキは3.0×5.0m四方、ツバキは1.0 ×1.2m, シュロは1.1×1.7m, メタセコイヤは2.2×8.3m, ビワは1.8×1.9m, タイサンボクは4.2×4.4m, マキは1.2 ×2.0mの範囲を掘削した。樹木の周辺を1.0~5.4m四方。 深さ0.2~0.7mで掘削して樹木を抜き取った. サクラと ツバキの根は浅く、容易に抜き取りを完了したが、ケヤ キやメタセコイヤは根が広く密に伸びていたため、抜根 作業は困難を極めた. 特にメタセコイヤは深く伸びた根 が地中から抜かれる際、地山と思われる黄褐色の土壌を 舞い上げたが、それ以上下層の掘削は行わないため、現 状で作業を終了した. 地表下0.7mまではいずれも埋土 内であった. 埋土内より土師器片を確認したが、遺構は 検出されなかった.

車庫4棟のコンクリートの土場およびブロックの撤去では、コンクリートおよび区画を示す外周に組まれたブロックの下にはバラスが5~10cmの厚さで敷かれており、土壌の掘削はほとんど行わず工事は埋土内で終了した。また、中庭の中央を東西に敷かれているアスファルトの

撤去においても、7 cm前後の厚さのアスファルトを撤去 するのみであり、掘削はいずれも埋土内に収まり、遺 物・遺構は確認していない。

写真389 ケヤキ1掘削風景(南東より)



写真390 ケヤキ1撤去後(北西より)



写真391 車庫土間撤去風景(南西より)



写真392 アスファルト撤去後(西より)



4. (本荘中) 医学部基礎研究棟 (B・D 棟) とり こわし工事に伴う立会・発掘調査 (1130)

<調査期間>

2011年12月9日 · 13日 · 14日 2012年1月24日 · 26日 · 27日 · 2月8日 · 15日

<調査面積>

1.169.6 m2

<調査員>

石丸惠利子.

<調査概要・結果>

医学部基礎研究棟 B 棟と D 棟のとりこわし工事である。今回解体の対象となる箇所は、B 棟の西端570㎡部分とすでに解体および埋蔵文化財の確認を行った A 棟 (1106調査地点)と B 棟をつなぐ部分の D 棟448㎡である。

B棟は、A棟同様に地下室を有する構造で、昭和32年 に建築されたB棟の増築部分である。建物の上部を解 体したのちに、基礎掘削部の間の文化財の確認を行った. A 棟と異なり、基礎および梁の高さが高く、埋土も厚 い状況が確認できた. 基礎間 (建物内部) はすべて埋土 で、総掘りによる基礎構築と判断される、梁下0.45~1.2 mで灰黄褐色から淡緑灰色の砂層がまだら状に堆積する 土層で、すべて埋戻し土と考えられる、梁上部から1.1 mを超える高さ(地表下2.5m)で硬く締まるシルト・ 砂層が検出でき、すでに地山を掘りぬいた高さに達して いると考えられる、基礎内部では遺構・遺物は出土して いない。また、南壁・西壁・北壁の撤去のため、それぞ れの基礎外回りの確認を行った. 建物内部を深く掘削し ているため、内側に基礎を倒すことによって撤去が可能 で、梁上から深さは0.2~0.3mまで掘削し、外側に1.0~ 1.3m幅の掘削を行った. 基礎撤去に必要な掘削範囲は. いずれも埋土で遺構・遺物は確認されなかった.

D棟も地下室をもつ構造で、B棟解体工事と同様に上部を解体したのちに基礎掘削部の間の確認を行った。D棟建設はA棟と同年の昭和33年であり、基礎間に地山(遺構面)が残存している可能性があり、慎重に掘り下げを行った。全8スパンで基礎掘削部間に地山層が残存していた。地山上面の高さは、梁上部から-0.1~0.3 m、地表下2.3~2.4mに相当する。北から5スパン目に土坑を1基検出したが、遺物は確認されなかった。また8スパン目で溝(1号溝)を確認したため、発掘調査に切り替えて調査を行った。

1号溝は、北東から南西方向に延びており、9511調査 地点の第30号溝と9801調査地点の3号溝につながる溝と 考えられる。ただし、上層は建設に伴う掘削によって破 壊されており、底部から0.2mが確認できたのみであり、 溝の幅や本来の深さは不明である。溝の埋土からは、ウ シの歯および部位不明の四肢骨と土師器片数点が出土し た。また、調査範囲南西隅で1号溝に直行する方向の溝 (2号溝)と考えられる遺構を確認した。溝本体は調査 区外に延びるため規模等は不明である。遺物は出土して いない。

また、B 棟西側と北西部の樹木撤去においても、地表下0.7mまで掘削して撤去を完了し、U 字溝新設箇所では、3.3×1.5mの範囲を地表下0.7mまで掘削したが、いずれの地点も埋土内であり、遺構・遺物は確認されなかった。

写真393 B 棟東から3スパン目南側掘削後(北より)



写真394 B棟北壁外側西から3スパン目掘削後(南西より)



写真395 B棟北西部伐根風景(西より)



写真396 D 棟掘削風景(南西より)



写真397 D 棟東側北から3スパン目掘削後(西より)



写真398 D棟1号溝完掘後(西より)



5. (本荘中) 医学部旧ボイラー室改修機械設備工 事に伴う立会調査 (1133)

<調査期間>

2012年2月8日

<調査面積>

46.5m

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

旧ボイラー室南側の地下タンク撤去および周辺設備の工事である。タンク撤去においては、9.2×3.8mの範囲をタンクの西側側面で地表下2.1mまで掘削した。西側をこの高さまで掘削したのちに、タンクを西側に倒して引き抜くため、これ以上の掘削は必要ない。掘削範囲はタンク設置工事時の埋土内であった。遺物は出土していない。なお、タンクの上部には地表下0.5mまでコンクリートのフタ(厚さ0.5m)があり、周囲には計8本のコンクリートの支柱が設置された構造であった。

給水管引き込み箇所においては、南側と北側で試掘を行った、南側は幅0.7mで1m範囲を0.65mまで掘削した結果、ガス管および揚水管の埋設を確認し、いずれも埋土内であった、遺物は出土していない、北側は幅0.7mで1.5mの範囲を0.8mまで掘削した結果、消火管・揚水管・給水管が埋設しており、いずれも埋土内であった、遺物は出土していない。

旧ボイラー室東側の枡への排水管の付け替え箇所では、0.4×0.4mの範囲を0.2m掘削した.いずれも既設管の埋土である.遺物は出土していない.工事範囲は、これらの既設管が埋設している場所であるため、すべての場所で文化財への影響はないと判断して、立会を終了した.

写真399 タンク掘削風景 (東より)



写真400 タンク西側側面掘削後(南より)



写真401 給水管引き込み南側掘削後(西より)



写真402 給水管引き込み掘削後(南より)



写真403 給水管引き込み北側掘削後(南より)



写真404 排水管付け替え掘削後(南より)



6. (本荘中) ガス供給施設取替に伴う立会調査 (1143)

<調査期間>

2012年3月12日

<調査面積>

24.8mi

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

ガス管取替および新設に伴う既存のガス配管の埋設状況を確認するための試掘工事である。4地点で掘削を行い、北から①~④地点とした。

①地点は、医学部敷地の北西隅で北側道路から構内に 引き込まれたガス管の場所や深さを確認するため、塀からガス室までの6.2m間で7.7㎡の範囲を掘削した。まず、 ガス管が引き込まれていると記録されている場所で確認 を行ったところ、申請の深さ1.2mでは管まで達しなかっ た。おそらく、さらに深い部分に埋設されているであろ うことを確認した。配線には、その先にある桝を回避し て新設しなければならないため、東か西に回避する必要 がある. その左右の埋設物の有無を確認するため, 西側を掘削したところ, コンクリート塊が存在し, ルートを確保することが困難であることが分かった. 東側には, NTT の通信配線が複数埋設していたが, その下を通すことで設置が可能であることを確認した. ①地点周辺には, 汚水桝や水道, 通信配線などが多く埋設されており, 地表下1.2mではいずれの場所も埋土であった. 遺物は出土していない.

写真405 ①地点西側掘削後(南より)



写真406 ①地点南側延長部掘削後(東より)



②地点は、ガス室西側に配線が可能であるかを確認するために掘削を行ったが、地表下1.0mで配管を複数確認し、この地点での新設は不可能であることを確認したため、これ以上の掘削は行わなかった、埋土内であり遺物は確認されなかった。

③地点は、ガス室南側の配管を確認するもので、計7.4 ㎡の範囲を地表下1.2mまで掘削した結果、その高さで配管上部に達した。本立会では、配管の位置を確認するのみであるため、これ以上の掘削は行わなかった。いずれも埋土内であり、遺物は出土していない。

写真407 ③地点掘削風景(北東より)



写真408 ③地点南側掘削後(南西より)



写真409 ③地点東側掘削後(北西より)

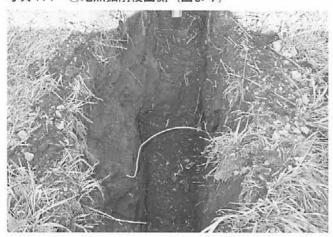


④地点は、医学部ボイラー室の北側に西側道路からガス管を新規に引き込むためのルートおよび既存のガス管の位置を確認するための掘削で、東西7.8mの範囲で掘削を行った。最も深く掘削を行なったのは西側道路寄り部分で、地表下1.2mまで掘削した。東側については、地表下0.5~0.7mで既存のガス管、同0.7mで複数のフューム管やNTT配線、同0.25mで水道管、同0.4mで不明の鋼管など複数の支障物の埋設を確認した。いずれも埋土内であり、遺物・遺構は確認されなかった。

写真410 ④地点掘削後東側(東より)



写真411 ④地点掘削後西側(西より)



7. (本荘中) エイズ学研究センター, 生命資源研究・支援センター, 動物資源開発研究施設新館 実験排水槽配管盛り替え工事に伴う立会調査 (1144)

<調査期間>

2012年3月14日

<調査面積>

7.5m²

<調査員>

石丸惠利子.

<調査概要・結果>

排水漕および配管替えに伴う工事である。掘削深度が最も深くなる東側から掘削を開始し、地表下0.8mで雨水管を、また地表下0.7mで水道管の上部を確認した。配管新設における支障物の有無を確認するため西側へと掘削を続けた結果、水道管は地表下0.55mの高さに上昇していたが、この高さでの配管新設が可能であることから、これ以上の掘削は実施していない、いずれも埋土内で、遺物は出土していない。

写真412 作業風景(東より)



写真413 東側掘削後(東より)



写真414 西側掘削後(東より)



Ⅱ-5 大江地区(薬学部) (図11参照)

1. (大江) 電柱支線撤去及び支柱新設に伴う立会 調査 (1118)

<調査期間>

2011年11月15日

<調査面積>

 $0.42 \, \text{m}^2$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

薬学部北門に設置されている電柱を支えているワイヤーが外構工事の支障となるため撤去し、別の場所に支柱を設置する工事である。ワイヤーを固定しているアンカーを掘り出す作業について立ち会った。手掘りで0.6×0.7mの穴を地表下1.1m程度まで掘削したのち、アンカーを引き抜いた。掘削は埋土内で収まり、遺構・遺物の検出はなかった。新設の支柱については、電柱同様に大型のドリルで掘削するもので、施工よしとした。

写真415 作業風景 (東より)



写真416 掘削状況(南より)



2. (大江北) 北門周辺環境整備(植栽・外灯)工 事に伴う立会・発掘調査(1125)

<調査期間>

2011年12月19日 · 20日

<調査面積>

8.37 m

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

薬学部北門周辺の樹木移植および外灯移設の工事である。各工事地点のもっとも深く掘削する場所について立会調査を実施した。樹木(ソテツ)移植先花壇にはもともとツツジが植えられており、それらの上部を伐採したのちに、東西1.6m、南北0.6m、深さ0.85~1.0mを掘削した。地表下1.0mの地点で土管の埋設を確認し、掘削範囲内で遺構・遺物は確認されなかった。移植においてこれ以上深く掘削する必要はないため、必要な範囲での掘削を指示してこの地点は立会を終了した。また、樹木新植(シダレザクラ)とそれに隣接する移植元(ソテツ)では、樹木新植先を東西0.6m×南北1.7mの範囲を深さ1.0mで掘削した。本地点も埋土内で、遺構・遺物は確認されなかった。

外灯撤去 (移設元) においては基礎の西側を、東西 0.65×南北1.7mの範囲を深さ1.55mまで掘削したが、基 礎の直下で包含層と思われる層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。さらに北側と南側を同様の深さまで掘削したのちに外灯を重機で引き抜くことが可能と のことであり、それ以上 (基礎底部より下) の掘削は行わないよう指示した。また、外灯移設先においては、申請箇所にクスの切株が残存しており、株の南側を東西1.3×南北0.6mで深さ1.55mまで掘削した結果、土師器片を 1点確認したため、抜根ののちに移設先全体を確認することとした。

抜根後、東西2.2×南北2.4mの範囲を掘り下げたところ、地表下1.35mで南北に走る溝と思われる西側の上端を確認したため、熊本市文化振興課に連絡して発掘への移行の許可を受けて、発掘調査に切り替えた、溝の東側は調査区外であるため幅は不明であるが、深さは約0.6mで、床面は硬化が認められた、溝の埋土は、締まりがあるやや暗い灰褐色砂まじりの粘質土で、地山の鮮やかな黄褐色土をまだらに含む、床面やや上部より土師器片、床直上で敲石と瓦片が出土した、溝床面で地表下1.95mまで掘り上げ、外灯はこの範囲内で埋設されるため、調査を終了した、

図11 大江地区(薬学部)における調査地点配置図 (1/2000)

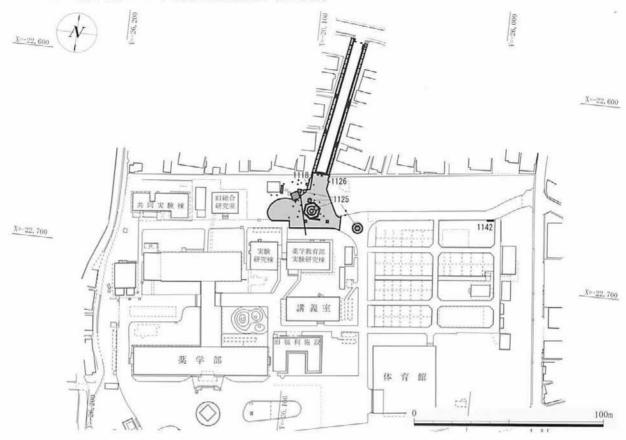


写真417 ソテツ移植先掘削風景(北西より)



写真418 樹木移植先掘削後 (東より)



写真419 外灯移設元掘削後(北より)



写真420 シダレザクラ新植地点掘削後(北より)



写真421 外灯移設先作業風景(北西より)



写真422 外灯移設先 溝完掘後(南より)



3. (大江北) 北門周辺環境整備(道路等)工事に 伴う立会調査(1126)

<調査期間>

2011年12月19日

<調査面積>

 $4.77 \, \text{m}^2$

<調査員>

石丸惠利子.

<調査概要・結果>

北門周辺における環境整備のための工事である。樹木新植箇所については、0.5×0.5m範囲を0.5mの深さで1か所の試掘を行った。0.5mの深さでは包含層に達せず、他の樹木新植箇所についても文化財への影響はないと判断し、その他の箇所の施工を了承した。集水桝新設箇所については、北門南端の両端で1.0×1.0m範囲を深さ0.75mと0.8×1.2m範囲を0.7mで掘削し、北門北端では0.6×0.6m範囲を0.7mの深さで掘削して土壌を確認した。また、側溝および花壇新設箇所では、0.7×1.7mの範囲を0.5mの深さで掘削して文化財の確認を行った。外灯配線新設部分においても、0.65×1.25m範囲を深さ0.6mで

掘削して確認し作業を行った. 掘削箇所ではいずれの地 点も埋土内で遺構・遺物は確認されなかったため. 整備 範囲では地表下0.5~0.7mはいずれも包含層には達しな いと判断し. その他の施工は慎重に工事するよう指示し て立会を完了した.

写真423 樹木新植地点掘削後(北西より)



写真424 集水桝新設地点掘削後(西より)



写真425 側溝新設地点削後(西より)

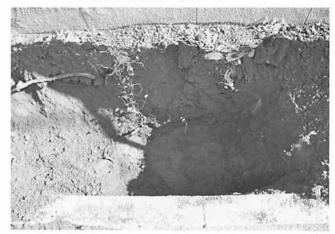


写真426 西側集水桝新設掘削後(南東より)



写真427 外灯配線地点掘削後 (東より)

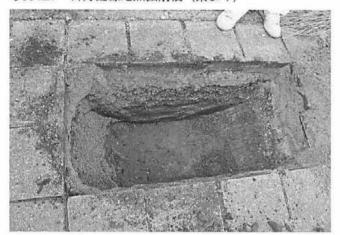


写真428 掲示板設置箇所掘削風景(東より)



写真429 掲示板設置箇所掘削後(東より)



4. (大江) 薬草用植物園屋外掲示板設置工事に伴 う立会調査 (1142)

<調査期間>

2012年3月7日

<調査面積>

1.6m²

<調査員>

石丸惠利子.

<調査概要・結果>

薬学部薬草用植物園の屋外掲示板を新設する工事である. 植物園敷地に、東西3.250m南北0.5mの範囲で、深さ0.55mまで掘削した、いずれも埋土内で、遺物・遺構は確認されなかった.

Ⅱ-6 宇留毛地区

1. (宇留毛) 建物名表示看板設置に伴う立会調査 (1138)

<調査期間>

2012年2月27日

<調査面積>

 $0.49\,{\rm m}^{2}$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

学生寮・職員宿舎等がある宇留毛地区の門に、看板を設置する工事である。門柱の前に設置するため、掘削したところ、地表下0.35mで門柱の基礎が検出された。南側へ10cm程度拡張したが、ここでも地表下0.55mでコンクリートが検出された。運営基盤管理部(施設担当)担当者と協議し、基礎を大きくして強度を確保することとし、これ以上の掘削は行わないこととした。基礎は0.7×0.7mの範囲とした。熊本市文化振興課との取り決めでは、許容の変更範囲である。掘削は埋土内に収まった。

写真430 作業風景(南より)



写真431 掘削状況(南より)



Ⅱ-7 京町地区

(図12参照)

1. (京町団地)環境整備(法面保護)工事に伴う 立会調査(1131)

<調査期間>

2012年1月25日

<調査面積>

 4.3m^2

<調査員>

石丸恵利子.

<調査概要・結果>

附属小学校・中学校の構内西側の旧テニスコート,現在畑として利用している敷地と市道間のコンクリート塀内側の法面を整備する工事である。対象箇所はブロック 塀設置の際に塀の基礎高まで掘削され、また塀に沿って U字溝が設置されているため、工事範囲は埋土である可能性が高い場所である。最初に東端で既設の桝を確認するため、1.35m×1.0mの範囲を地表下0.5mまで掘削し、コンクリート桝のフタを確認した。桝に続くU字溝を3か所(0.9×0.9m、1.2×0.9m、1.3×0.8m)で確認した結

写真432 掘削風景(北より)

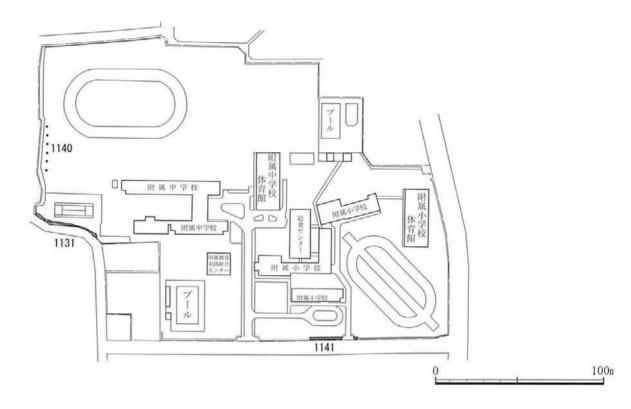


写真433 東端集水桝掘削後(北西より)



図12 京町地区における調査地点配置図 (1/3000)





果、それぞれ深さ0.5m、0.7m、0.7mで側溝のフタを確認した、掘削内はいずれも埋土であった、桝およびU字溝周りはブロック塀から1.6mは埋土で、工事は畑側の掘削は行わず盛り土をして整形することから、文化財への影響はないと判断され、立会を終了した。

写真434 中央部 U 字溝掘削後(東より)



2. (京町) 環境整備(法面整備等) 工事に伴う立 会調査(1140)

<調査期間>

2012年2月28日

<調査面積>

 $1.8 \,\mathrm{m}^2$

<調査員>

石丸惠利子.

<調査概要・結果>

運動場南西側法面においてフェンスを新設する工事である.6本の支柱を設置するため、3か所での試掘により文化財の確認を行った.一番北側地点においては、径0.95mの範囲をまずコンクリート基礎設置に必要な地表下0.4mまで掘削した.さらに、中央部分の鋼管(径0.2m)を打ち付ける部分を芋ほり具によって、径0.3mの範囲を地表下1.0mまで掘削した.広い面積を深くまで掘削すれば、フェンスを打ち込む部分の土壌が緩くなるため、最低限の幅で掘削作業を行った.遺物は出土していない.

北側から4本目においては、 0.7×0.65 mの範囲を地表下0.4mまで掘削し、さらに中心部分を40.3mで1.1mまで掘削した。また、一番南側においては、 0.8×0.6 mの範囲を0.6mまで掘削し、さらに40.3mを1.0mまで掘削した。遺物は確認されなかった。

なお、北側では地表下0.6mで灰色の砂利および角礫を検出し、北から4本目と南側では、地表下0.4mで薄いオレンジ色(部分的に非常に薄い)でやや粘性のある山土を検出したが、運動場整備の際の盛り土と考えられる、地表下0.4mの地点ではいずれも埋土であった。ただ、深さ0.8mでやや黒い土が混じる土を確認し、遺物包含層と考えられる土壌であった。いずれの地点においても、1.0mまでを掘削して確認を終了した。

写真435 新設フェンス最北箇所掘削風景(南より)



写真436 最北箇所鋼管部分掘削状況(南西より)



写真437 北から4番目基礎部分掘削後(西より)



これまで、運動場南端にあたる校舎等改修工事に伴う 調査 (0719・0721調査地点) において、地表下0.8mで 遺物包含を確認しており、運動場北西部においても、0.8 m以下に遺物包含層が残存する可能性があるため、該当 する工事の際は注意が必要であろう。残りの3地点においても慎重な工事を指示して立会を終了した。

写真438 北から4番目鋼管部分掘削後(南西より)



3. (京町) 環境整備(南側囲障) 工事に伴う立会 調査(1141)

<調査期間> 2012年2月28日

<調査面積> 2.0㎡

<調査員> 石丸恵利子.

<調査概要・結果>

附属小学校校舎南側の囲障付け替えのための工事である. 既設のブロック塀に沿って、敷地側3か所で試掘をおこない、文化財の状態を確認した. 東側掘削地点では、敷地側控えブロック廻りを0.6×0.7mの範囲で地表下0.6 mまで掘削した. 中地点では、控えブロック間を塀に沿って0.9×1.1mの範囲を0.6mまで掘削した. 西地点では、0.7×0.9mの範囲を0.6mまで掘削した. いずれの地点も掘削箇所は埋土内であり、遺物・遺構は確認されなかった. 今回の工事範囲は、石垣およびブロック塀構築時に、試掘地点同様にすでに掘削されていると判断され、立会を終了した.

写真439 囲障東側地点掘削風景(西より)



写真440 囲障東側地点掘削後(北東より)



写真441 中地点掘削後(西より)



写真442 西側地点掘削後(北より)



跋文

本年度は、埋蔵文化財調査室が年度半ばに埋蔵文化財調査センター(以下「センター」という。)に改組された変化の年であった。2011年4月、調査室の活動を長年担ってこられた小畑弘己准教授が文学部教授として異動された。小畑教授のこれまでの貢献に対して感謝の念を表し、今後ますますのご発展をお祈りしたい。

センター准教授の後任人事までの空白を補うために、国際日本文化研究センター(京都市)から新進の動物考古学者である石丸恵利子氏に急遽おいでいただいた。石丸氏は、大坪助教とともに、近現代の墓が密集する本荘北地区の臨床医学教育研究センター整備事業に伴う発掘調査を担当されたが、普段動物の骨を扱い慣れておられる身にも、これほどの人骨の取り扱いはたいへんであっただろう。猛暑が熊本をおそった夏の調査であっただけに、事業を無事に終了させた二氏ならびに関係各位の労をねぎらいたい。

本年は6月の雨期に移転後間もない建物1階が2回にわたって床上浸水の被害にあい、また東日本大震災の影響もあって年末から年度末にかけて学内の工事が集中し、職員はその対応に追われた。秋10月1日にはセンターが発足し、これにあわせて熊本大学「地下の文化財」のパンフレットが完成した。これは村田事務補佐員の尽力の賜物である。来年はさらに英語・中国語・韓国語版を計画している。

センターは今後、大学の文化財関係業務を担う組織の一つとして、大学の教育研究に寄与することが期待される。基本業務である発掘調査を迅速かつ正確に実現しつつ、センターならではの貢献を果たせるよう、今後も智慧をしぼろう。

2013年1月 埋蔵文化財調査センター長 文学部教授 木 下 尚 子

Summary

In 1985, Kumamoto University planed a reconstruction of campus. But it was known that some of campus is designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Archaeological operation office in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt.

We have two main campus sites at other areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of science and faculty of Engineering (south area) , faculty of Education, faculty of Laws, and faculty of Letters (north area) ,and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt.Tatuta (above 151.6m) on a low terrace (above sea level $18 \sim 25 \text{m}$) formed by the Shirakawa River. The site is regarded as an ancient station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of medicine, college of Medical Science (south area), and Kumamoto University hospital (north area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace (above sea level $12 \sim 13 \text{m}$) formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2 km from Kurokamimachi site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site.

The number of investigations in the current year is the following:10 excavations,45 presence investigations. In the current year, investigation spots were concentrated in the Kurokamimachi site(north and south area), the Honjo site(north and south area). The main results are the following.

At 1116 excavation spot in the Kurokamimachi site (north area), we excavated the site before enlarged the lavatory. We found the layer containing cultural remains under 1m below ground which had not destroyed so hard. At the spot of 50m in the north, the layer containing cultural remains crops out and the depth that structural remains are found is shallow. We assume that a river terrace exists near the school building of the faculty of literature and the department of law. This result supports our assumption.

At 1121 excavation spot in the Kurokamimachi site (south area), we excavated the site before construct the gas pipe, the ditch and the soil pipe at the west area on the south campus. This excavation is the same as doing trial trenching covers a wide area. At each excavation spot, we found the layer containing cultural remains, postholes and pit dwellings.

We found a burial jar for a child, and the discovered spot is an unexpected area. It is new knowledge.

At 1104 excavation spot in the Honjo site (north area), we excavated the site before built a school building. We excavated about 400 human skeleton of modern period. We found many kinds of grave goods from burial pits. These are life miscellaneous goods that are usually excluded from the subject of research, but these are relics that tell us the phase of life and the aspect of life.

The result of excavation at 1112, 1113, 1114 and 1129 excavation spots show that the density of structural remains is high and structural remains has been left in good condition in north area. We must be attentive to buried cultural properties however small the construction is.

In the current year, we adjusted the research system to work schedule with difficulty. We wish the authorities concerned plans work schedule that is considered that our campuses holds buried cultural properties, and we would like to have the data of buried cultural properties, to cooperate each other to contribute to work of Kumamoto University. 구마모토 대학은 건물이 낡아서 1985년 부터 재건축 계획을 세우고 있었으나, 대학이 있는 구내지역이 유적 포함지로 지정되어 있다는 사실을 알게 되었다. 그 때문 에 재건설을 하기 전에 매장문화재의 발굴조사를 위해 급거 조사위원회와 조사실을 편성해, 1994년 부터 조사 를 해 왔다.

구내지역의 유적은 크게 두 지구로 나누어진다. 하나는 공학부·이학부 (남지구), 교육학부·법학부·문학부 (북지구) 가 자리한 쿠로카미<黑髮> 캠퍼스로, 쿠로카미 마치 (黑髮町) 유적의 일부에 해당한다. 이 유적은 타쓰 타산 (立田山) (표고 151. 6m) 기슭의 저위하안단구 (표고 18~25m) 상에 위치하며, 고대 고카이 (蚕養) 의 역전으로 추 정되고 있다. 또 하나는 의학부·의료단기대학 (남지구), 대학부속병원 (북지구) 이 자리한 혼조 (本莊) 캠퍼스이다. 이 지구는 혼조 (本庄) 유적의 일부이며, 쿠로카미마치 유적과 마찬가지로 시라카와 (白川) 강의 저위안단구 (표고 12~13m) 상에 위치한다. 혼조유적은 쿠로카미마치유적 으로부터 직선거리로 2km 쯤 떨어져 있다. 이유적과 근접한 곳에 오오에 (大江) 유적과 신야시키 (新屋敷) 유적 등 큰 고대 취락 유적이 있다.

2011 년도에 실시된 조사 건수는, 발굴 조사 10 건, 입회 조사 45 건이었다. 본년도의 조사는 쿠로카미<黑髮> 캠 퍼스 북지구, 남지구, 혼조 북지구, 남지구에 집중했다. 주된 조사의 결과는 다음과 같다.

구로카미마치유적 (북지구) 1116 조사지점은 화장실 증축 공사에 앞서 발굴조사가 이루어 졌다. 지표 아래 약 lm 에 서 상태가 좋은 고대 유물포함층이 검출되었다. 북쪽으로 50m 정도 떨어진 곳은 유물포함층이 지표로 노출되었고 유 구면도 얕다. 법문학부 북쪽 교사부근에 하안단구가 존재 할 것이라 추정되는데 이를 보강해 주는 결과이다.

구로카미마치유적 (남지구) 1121 조사지점에서는 캠퍼스 서쪽 반을 중심으로 가스·빗물도랑·오수관 공사를 하기 전에 발굴조사를 실시했다. 결과적으로 광범위에 걸친 시 굴조사를 실시한 것처럼 되었는데, 각 지점에서 유물포함 층, 기둥구멍, 주거등이 검출되었다. 그리고 예상치 못한 지점에서 어린이용 옹관묘가 검출된 것은 새로운 발견이 다.

혼조 (本庄) 유적 (북지구) 1104 지점에서는 약 400 구의 근·현대 인골이 검출되었다. 무덤에서는 다양한 부장품들 도 함께 출토되었다. 이들은 조사 대상에서 제외되기 쉬운 시기의 생활잡화였지만 당시의 모습이나 생활을 직접 우리 에게 전하는 유물이다.

1112 · 1113 · 1114 · 1129 지점의 조사성과는 혼조 북지구의 높은 유구 밀도와 양호한 유존상대를 나타낸다. 공사규모에 상관없이 문화재에 대한 주의를 환기시키는 것이라할 수 있다.

이번 년도는 사업 스케줄과 조사 체제의 조정이 어려웠다. 관계 부서에는 다시 대학 부지가 매장문화재 포장지(包蔵地) 라는 것을 감안한 사업 계획을 희망함과 동시에, 정보를 공유하고 연계하면서 본 대확 사업에 기여하고자 한다.

付篇 1 2011年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1. 国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則 (H16.4.1~)

(設置)

第1条 国立大学法人熊本大学法人基本規則(平成16年4月1日制定)第29条第1項の規定に基づき、国立大学法人熊本 大学(以下「本学」という。)に、国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会(以下「委員会」という。)を 置く。

(組 織)

- 第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 文学部、教育学部、法学部及び医学部附属病院から選出された教授又は准教授 各1人
 - (2) 大学院自然科学研究科及び大学院生命科学研究部から選出された教授または准教授 各2人
 - (3) 運営基盤管理部の施設担当部長
 - (4) 埋藏文化財調查室長
 - (5) その他委員会が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第1号、第2号及び第5号の委員は、学長が委嘱する。
- 3 第1項第1号、第2号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 第1項第1号、第2号及び第5号の委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(任 務)

第3条 委員会は、本学の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。
- 2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

- 第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。
- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第6条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(調查室)

- 第7条 委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する業務を行うため、埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を 置く。
- 2 調査室の業務、組織その他必要な事項については、別に定める。

(事務)

第8条 委員会の事務は、運営基盤管理部施設管理ユニットにおいて処理する。

(雑 則)

第9条 この規定に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成19年5月24日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初に委嘱される第2条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成21 年3月31日までとする。
 - 附 則 (平成21年12月24日規則第291号)
 - この規則は、平成22年1月1日から施行する。
 - 附 則 (平成22年9月30日規則第201号)
- 3 この規則は、平成22年10月1日から施行する。

2. 熊本大学埋蔵文化財調査室要項

(趣 旨)

1 この要項は、国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則(平成16年4月1日制定)第7条第2項の規定に基づき、国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)の業務、組織その他必要な事項について定める。

(業 務)

- 2 調査室は、国立大学法人熊本大学(以下「本学」という。)の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する次の 業務を行う。
 - (1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
 - (2) 出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存に関すること。
 - (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。
 - (4) その他必要な事項

(組 織)

- 3 調査室に室長を置く。
- 4 室長は、調査室に関する業務を掌理する。
- 5 調査室に調査員その他必要な職員を置くことができる。
- 6 調査員は、発掘調査に関する業務を行う。

(室長等の任命)

- 7 室長及び調査員は、本学の教員のうちから学長が任命する。
- 8 学長は、必要がある場合は、学外の者を調査員に委嘱することができる。

(事 務)

9 調査室の事務は、関係学部等の協力を得て、運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する。

(雑 則)

10 この要項に定めるもののほか、調査室の運営に必要な事項は、学長が別に定める。

附則

- 11 この要項は、平成16年4月1日から実施する。
 - 附 則(平成22年9月30日要項第30号)

この要項は、平成22年10月1日から施行する。

3. 2011年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1 埋蔵文化財調査センター組織

<センター長> (併・文学部教授) 木下 尚子 (2005.10.1~)

<調査員> (併·文学部助教) 大坪 志子 <技術補佐員> (2011年5月1日~) 石丸 恵利·

 <技術補佐員> (2011年5月1日~)
 石丸 恵利子

 <事務補佐員>
 村田 知聖

<室内作業員>(2011年5月~2012年2月) 小山 正子

首藤 優子 末吉 美紀

山嵜 早苗

古閑 満代

(2011年5月~2012年3月) 江口 路

鬼塚 美枝 増井 弘子

2 埋蔵文化財調査委員会

 委員長
 伊東 龍一 (大学院自然科学研究科教授)
 任期 (2011.4.1~2013.3.31)

 委員
 杉井 健 (文学部准教授)
 (2011.4.1~2013.3.31)

黨 武彦	(教育学部准教授)	$(2011.4.1 \sim 2013.3.31)$
大澤 博明	(法学部教授)	$(2011.4.1 \sim 2013.3.31)$
安仁屋 勝	(大学院自然科学研究科教授)	$(2011.4.1 \sim 2013.3.31)$
伊東 龍一	(大学院自然科学研究科教授)	$(2011.4.1 \sim 2013.3.31)$
宇宿 功市	郎 (大学院生命科学研究部教授)	$(2011.4.1 \sim 2013.3.31)$
黒崎 博雅	(大学院生命科学研究部准教授)	$(2011.4.1 \sim 2013.3.31)$
平井 俊範	(医学部附属病院准教授)	$(2011.4.1 \sim 2013.3.31)$
田代 文彦	(運営基盤管理部施設担当部長)	(2009.9.16~)
木下 尚子	(埋蔵文化財調査センター長)	$(2005.10.1\sim)$

審議事項

2011年5月12日

議題

- 1) 埋蔵文化財調査委員会委員長の選出について
- 2) 平成23年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定について
- 3) 平成23年度埋蔵文化財調査室予算配分(案) について
- 4)「発掘調査報告書」刊行スケジュールについて

報告

- 1) 平成22年度埋蔵文化財発掘調査結果について
- 2) 平成22年度埋蔵文化財調査室運営費実績について
- 3) その他

付篇2 埋蔵文化財調査センター2011年度調査・研究活動記録

【センター長】

木下尚子

- ・平成23年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「琉球列島先史時代後半期における生業と交易 に関する実証的研究」研究代表者
- ・平成23年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)(2)海外「台湾人の口述歴史の採集分析に基づく日本統治から戦後への台湾社会の転換に関する研究」研究分担者

【調查員】

大坪志子

- ・平成23年度 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究(A)「石製装身具の石材分析からみた縄文社会の地域 間交流と農耕化への変遷過程の研究」研究代表者
- ・玉文化研究会研究発表「九州における縄文時代後晩期の石製装身具の様相」(2011年10月29日)
- ・九州考古学会総会研究発表「石材からみた九州縄文時代後晩期における石製装身具」(2011年11月26日)

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいが	くまいぞうぶ	ぶんかざいち	ょうさせ	んたーね	んぽう 18			
書 名	熊本大学埋藏文件	化財調査セン	/ ター年報 1	8					
副書名									
巻 次									
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報								
シリーズ号	18								
編著者名	木下尚子・大坪			知聖					
編集機関	熊本大学埋蔵文件	Mark Mark Taylor Land	Latin Comment						
所 在 地	〒860-8555 熊本	県熊本市中	央区黑髮2-39	9-1 TEL	096-342	2-3832 FAX	. 096-342-383	2	
発行年月日	2013年3月29日	_	L*						
ふりがな所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村	ード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
ほんじょう 本庄遺跡 (1104地点)	くまもと 熊 本 市 ほんじょう 本 荘	43 201	285	32° 47′ 49.9″	130° 42′ 47.6″	20110406 20110621 20110922	試掘31.2㎡ 発掘503.9㎡	学校敷地内 の開発事業 に伴う	
						20110624 20111017 20111019			
ほんじょう 本庄遺跡 (1106地点)	くまもと 熊 本 市 熊 ルじょう 本 荘	43 201	285	32° 47′ 40.8″	130° 42′ 45.4″	20111101 20111104 20111110 20111121 20111124 20111125 20111128 20111209 20111212	1556.04 m²	学校敷地内の開発事業に伴う	
ほんじょう 本庄遺跡 (1112地点)	くまもと 熊 本本 よ 北 本 本 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土	43 201	285	32° 47′ 51″	130° 42′ 42″	20111214 20110921 20110926 20110929 20111004 20111011 20111026 20111028 20111031	500m²	学校敷地内の開発事業に伴う	
ほんじょう 本庄遺跡 (1113地点)	くまもと 熊 本 市 熊 んじょう 本 荘	43 201	285	32° 47′ 49.7″	130° 42′ 41.5″	20110921	264.83m²	学校敷地内 の開発事業 に伴う	
						20111011			
ほんじょう 本庄遺跡 (1114地点)	くま本 生 生 生 た に ま 本 た ま れ た ま れ た ま れ た ま れ た も た も た も た も た も た も た も た も た も た	43 201	285	32° 47′ 50.3″	130° 42′ 40.6″	20111013 20111017 20111018 20111101 20111111	184.81 mi	学校敷地内 の開発事業 に伴う	
くろかみまち 黒髪町遺跡 (1116地点)	くまもと 熊 本 市 くろかみ 黒 髪	43 201	278	32° 49′ 0.8″	130° 43′ 37.8″	20111024 20111027	20m²	学校敷地内 の開発事業 に伴う	

くろかみまち 黒髪町遺跡 (1121地点)	くま 作 作 は 本 本 本 か み 黒 髪	43 201	278	32° 48′ 46.9″	130° 43′ 37.8″	20111128 20120604	7748.6 m²	学校敷地内 の開発事業 に伴う
おおえいせきぐん 大江遺跡群 (1125地点)	くま 水 水 水 ボ お 大 江	43 201	283	32° 47′ 43.2″	130° 43′ 17.3″	20111219 20111220	8.37 m²	学校敷地内 の開発事業 に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 (1129地点)	くまもと 熊 本 市 熊 ル ほんじ 本 本	43 201	285	32° 47′ 48″	130° 42′ 43.9″	20120117 20120118 20120120 20120203 20120206 20120207 20120216 20120217 20120220 20120221 20120227	716m²	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 (1130地点)	くまもと 熊 本 市 熊 んじょう 本 荘	43 201	285	32° 47′ 40.1″	130° 42′ 45.9″	20111209 20111213 20111214 20120124 20120126 20120127 20120208 20120215	1169.6 m²	学校敷地内 の開発事業 に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 (1145地点)	くまもと 熊 本 東 熊 んじょう 本 荘	43 201	285	32° 47′ 47.2″	130° 42′ 41.9″	20120326 20120327 20120402 20120404 20120821 ~ 20120823	427.30m	学校敷地内 の開発事業 に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	1	重易]]	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほんじょう 本庄遺跡 (1104地点)	集落	址・	墓地	古代・近代	住居址・墓壙・ピット	土師器・須恵器・人骨 銭貨・泥面子・甕棺	
ほんじょう 本庄遺跡 (1106地点)	集	落	址	古墳・古代・近世	溝・ピット	土師器片・須恵器	
ほんじょう 本庄遺跡 (1112地点)	集	落	址	古墳・古代・近世	竪穴住居址・溝状遺 構・ピット	土師器・須恵器	
ほんじょう 本圧遺跡 (1113地点)	1112調	查地点	点と同様	1112調査地点と同様	 1112調査地点と同様 	1112調査地点と同様	
ほんじょう 本庄遺跡 (1114地点)	集	落	址	古代・近世	住居址?・溝・ピット	なし	
くろかみまち 黒髪町遺跡 (1116地点)	集	落	址	古代	竪穴住居址?・ピット	古代土師器・須恵器	
くろかみまち 黒髪町遺跡 (1121地点)	集	落	址	縄文・弥生中期・ 古代・中世期・ 近現代期	住居址?・土坑・溝・ 溝状遺構・ピット・土 坑状遺構・畑址(畝)	甕棺・縄文土器片・土師器片・ 須恵器片・円礫・黒曜石チップ・ 黒曜石片・礫塊石器(散石?)	
おおえいせきぐん 大江遺跡群 (1125地点)	集	落	址	古代	溝	土師器片・敲石・瓦片	
ほんじょう 本圧遺跡 (1129地点)	集	落	址	古墳・古代	溝・土坑・ピット	古代土師器・須恵器・ 石製品	
ほんじょう 本庄遺跡 (1130地点)	集	落	址	中世以降	溝・土坑・ピット	土師器片・動物骨	
ほんじょう 本庄遺跡 (1145地点)	集	落	址	古代・中世以降	溝・土坑・ピット	土師器片・甑の取手・ 須恵器片	

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報18 --2011年度--

平成25年 3 月26日 印刷 平成25年 3 月29日 発行

編集兼発行者 熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本市中央区黒髪2-39-1

電話 (096) 342-3832

印刷所 シモダ印刷株式会社

